



地区館事業

平成 26 年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿革〕

青葉区中央市民センターは、昭和 40 年 4 月、市立東二番丁小学校に開設された「仙台市市民教養センター」がその始まり。昭和 61 年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピアー一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高く、外国人も集まりやすいため、日本語講座を開催するなど国際交流の場としても一翼を担っている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★まちなか元気いっぱいプロジェクト—まちなかをもっともっと元気に！		
参加者	どなたでも	延参加者	480 人
開催日	全 3 回 8 月 6 日（水）、9 月 27 日（土）、10 月 25 日（土）		
協力者・協力団体	サンモール一番町商店街振興組合、NPO 法人シニアのための市民ネットワーク仙台、伊達美味マーケット実行委員会、まちなか応援隊		
ねらい	地下鉄東西線の開業を間近にひかえ、新たな地域住民が見込まれることから、市民センターの認知度の向上を図る。また、地域で活動する団体が参加してイベントを実施することにより新たな賑わいを創出し、地域活性化の契機となることをねらいとする。		
概要・成果	七夕TANZAKUフェスタ（8/6）、サンモール路上ライブ（9/27）、綱引き in サンモール（10/25）いずれのイベントも地域団体や事業所・商店街などから、ポスターの掲示や景品提供、イベントへの参加など多くの協力を得ることができ、近隣商店街や参加者、出演者相互において、一層交流が深まった。また、平成 24 年度から養成しているイベントボランティアスタッフ「まちなか応援隊」の協力でスムーズな運営ができ、「まちなか応援隊」にとっても貴重な実習の場となった。 さらに、近隣商店街であるサンモール一番町商店街を会場として開催したことが、広く市民センターのPRにつながった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
遊ぼう！パンダくらぶで	乳幼児期に共に過ごす時間を持ち、育児を楽しむよう子育て支援の一助とした。親子体操・読み聞かせ・人形劇観賞	9 月 17 日 ～12 月 10 日	4	178
いいなあ！せんだい—こども歳時記—	先人達から受け継がれてきた行事や風習、言い伝えの理由や、そこに込められた願いを楽しみながら学ぶ心を育てる機会とした。お盆の郷土料理を作る 盆踊りに参加	8 月 2 日 ～8 月 21 日	2	34
ジュニアリーダーと遊ぼう	小学生や未就学児を対象とした事業を企画・運営する中で、コミュニケーション能力を身につけ、異世代間交流を図った。夏祭り・ふれあい祭でのコーナー出店	8 月 23 日 ～3 月 1 日	2	238
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、児童と世話人を対象に学習する場を提供した。活動と役割についての講話とレクリエーション・ゲームの進め方などの演習	1 月 31 日	1	32

サマー・サイエンス☆フェスティバル'14	小中学生を対象に開催した。学校課題に対する研究やテーマ探求などのきっかけ作りとなるよう提供した。また参加団体同士の交流と活動に繋げられるようにした。各団体のサイエンス体験ブースの展開	5月10日 ～7月26日	3	187
花をつくろう！緑をふやそう！～一番町ベランダーズ	マンション世帯・高齢者世帯が多い地域であることから、ベランダでもできる花作り、緑の育成を学んだ。花や緑の栽培方法や管理の仕方など	5月24日 ～10月18日	5	44
★託児付講座 はじめての仙台ライフ	地域に新たに転居してきた方々を対象に、新生活の不安を解消できる場を提供し、参加者同士の交流や、仙台への興味関心を高める機会とした。ゴミ分別学習、見学会（お茶の井ヶ田・仙台朝市）、郷土料理実習など	7月10日 ～9月4日	4	60
仙台まちなか散歩	地域の資源に関する座学や散策に加え、自主的な活動を促しながら、より満足度の高い講座とした。講話、散策、自主活動、成果発表	11月20日 ～2月14日	4	229
国際交流講座～フレンドシップ SENDAI～	外国籍の方を対象に、情報を提供しサポートしながら、日本人との交流と理解を深める場とした。社会生活適応のための講座 情報交換会	5月13日 ～12月2日	6	91
★国連防災会議 盛り上げ事業 必ずしよう！防災の備え 都市部マンションの防災を考える	都市部ならではの防災リスクを確認し、災害時に備え防災意識を高めてもらうよう開催した。「東日本大震災の総括から学ぶ」「マンション防災をクロスロードで学ぶ」「地元食材の非常食の紹介」	11月8日	1	22
あおばカレッジ	高齢者を対象に、学習を通じた仲間作りや交流により、生きがいを持ち、今後の人生を送ることができるよう通年の学習の場を提供した。基調講演・館外学習・自主企画 など	5月16日 ～2月20日	9	368
●アクティブエイジング のまちなか交流～健脳・快 食・健康講座	地域内の繋がりが希薄であることから、気軽に集える場を設け、活動を通して親睦と交流を図った。講話 介護予防の食事 健康体操など	6月11日 ～10月8日	4	50
第11回ふれあい祭「和気 藹々（あいあい）☆一番町」	市民センターで活動しているサークルの学習成果の発表の場と、参加団体同士、市民との交流の場とした。舞台・展示発表・ダンスパーティー・体験コーナーなど	2月28日 ～3月1日	2	1,320
★青中懇話会	地域の諸団体や子育て機関との情報共有の場とし、連携体制を構築する機会とした。	6月24日 ～10月30日	3	31
ボランティア養成・育成講座 —まちなか応援隊—	市民センター事業に興味・関心を持ち、積極的にイベント事業をサポートする人材の育成を目指した。地域で活動している団体の講話・イベントの運営方法・活動など	5月17日 ～3月1日	10	43
ジュニアリーダー育成支援	ジュニアリーダーサークルが子どもを対象としたイベントの企画や実施を通して、良き社会人として歩むきっかけとなるよう支援した。	通年	12	42
市民企画会議 「夜間講座を考え night」 ～男性のための夜の学び 場をつくろう～	ビジネス街に立地している特性を生かし、日中に働いている男性の方を対象とした講座を企画・実施した。オリエンテーション・企画会議	6月28日 ～12月2日	7	20
市民企画講座「男性のため の夜間～講座」お勤め帰りの ♪ジャズタイム～	仕事帰りに気軽に参加できるよう夜間の開催とし、居住地域以外での他者とのつながりを通して、様々な活動に主体的に関わるきっかけの場とした。社会人グループによるジャズ演奏と講話、交流会	11月27日	1	20
職場体験学習講座	市内の中学校から依頼される職場体験の受け入れを通して、市民センターの役割や業務内容を知る機会を提供するとともに、仕事の実践体験からその心構えや責任感などを学ぶ機会とした。	10月21日 ～23日	3	12

柏木市民センター

〔沿革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台女子高等学校の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつ多目的ホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	こども読み聞かせボランティア養成講座 ―読み聞かせの達人になろうー		
参加者	小学生（1 年～6 年生）	延参加者	55 人
開催日	全 10 回 6 月 7 日、6 月 14 日、6 月 21 日、7 月 5 日、7 月 25 日、 7 月 30 日、9 月 6 日、10 月 5 日、12 月 3 日、2 月 21 日		
協力者・協力団体	通町児童館、北八中部さつき会		
ねらい	こどもが自分で『絵本・紙芝居の内容を理解し人に伝える』という新たな視点から読書活動の推進を図るとともに、読み聞かせの対象を子どもだけでなく地域の高齢者にも広げ、ボランティアとして活動できる人材を育成する。		
概要・成果	お話の基本技術などを学び、その後は児童館、市民センターで実演した。小学生の読み聞かせという初の試みだったが、積極的な児童が多く、様々な活動に意欲的に取り組む姿が見られた。また地域の高齢者の集まりでも実演し、世代間交流も図られた。小学生なので実践活動には、日程調整、開催場所の設定など限定される部分も多いが、地域の協力を得ながら今後も継続し、学んだ成果を地域に活かしていく。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
柏木おやこサロン	未就園児の親子を対象に、支倉保育所と連携し子育てのノウハウや育児情報の提供・相談を行いながら交流も図った。	5 月 22 日 7 月 26 日 8 月 28 日 3 月 10 日	4	62
おもしろ体験！柏木ワンダーランド	小学生を対象にして石けんの手づくりや、そば打ち体験、すずめ踊り体験、東北大学の博物館関連の化石について学ぶ、八木山動物公園の動物達について学ぶ等、教科書にはない体験プログラムの提供を図った。	7 月 24 日 10 月 7、10、 25 日 12 月 13 日 1 月 7 日	5	143
インリーダー研修会	児童向けには「危険予知トレーニング」、世話人向けには子ども会運営についての講話を提供し、今後の活動の充実を図った。	1 月 31 日	1	71
博学さんぽ ー柏木界隈のツボー	地域の桜めぐり、仙台の伝統工芸である埋もれ木磨き体験など、地域に残る素材や資源をスポットを当て紹介しながら、地域への理解を深め郷土意識の醸成を図った。	4 月 18 日 10 月 11、18 日 11 月 1 日	4	59

ようこそ仙台へ ーまざらいん仙台ー	仙台への新規転入者と在仙者を対象に、市の環境施設見学を通して生活ルール等の紹介、瑞鳳殿見学、知事公館見学等で文化を紹介した。また仙台について語り合い理解を深める交流を持った。	9月9、19日 10月17、24、 31日	5	108
柏梁学院	ひとり暮らしや高齢の夫婦のみの世帯が多い地域であることを考慮し、歴史講座、音楽鑑賞、軽体操などの様々な講座を開催し、受講生同士の交流を図った。	4月16日～3 月4日	11	653
あなたの町の出前サロ ンー市民センターがおじ やましますー	八幡地区社協のいきいき・ふれあいサロンに、出向いてさまざまな講座を実施。(宇宙の話、みんなで歌いましょう、へくり沢地形模型をみながら座談会など)	6月29日 8月28日 1月10日 11月24日	4	61
くつろぎタイム 2014	コンサート、図書祭りなど、気軽に市民センターに集い楽しめる講座を開催し、地域住民同士の交流と親睦を図る機会を創出した。	8月2日 12月13日 2月21日	3	167
★地域の絆づくり推進事 業ふしぎ！発掘！再現！ 不思議な地形をジオラマ にしよう！	複数年事業の2年目として、地域の古老が描いた昭和10年代の「八幡小学校並びに覚性院丁界隈の図」を立体化したジオラマを製作し、完成報告会を行った	4月26日 ～2月14日	20	180
★よく生きるということ ー震災から4年が経過 してー	震災から4年が経ち、生きるということについて考え、改めて震災を振り返る機会とした。	2月22、28日 3月8日	3	84
市民企画講座 かしわぎたんけん隊ー音 でたどるかくれた小川ー	子どもから大人まで一緒に地域の歴史を学ぶ講座。現在は見えなくなったが、かつて柏木地域を流れていた北の小川について音をたよりに訪ね歩いた。	3月15日	1	26
第11回「柏木ふれあい祭 り」	市民センターの利用団体に活動の場を提供するとともに、参加者と住民との交流・親睦を図った。舞台、作品展示、出店、体験コーナーなど	10月5日	1	800
てらまちフェスタ201 4ーあそびでつながるま ちづくりー	秋休みの通町小学校を会場に、地域の諸団体と協力イベントを開催。遊びをとおして子どもと大人がふれあえる様々なコーナーを設けた。カブラ、割りばし鉄砲、ディスコン、アロマ、おもちゃ病院、ごへいもちなど	10月15日	1	260
柏木地域懇談会	1、2回目は、地域団体と活動、地域の問題点などの意見交換をし「てらまちフェスタ開催に結びついた。3回目は、柏木ふれあいまつりに関わった町内会、団体などと地域状況、市民センターへの要望など情報交換をした	6月3日 7月8日 11月15日	3	31
地域元気クラブ 2014 ー活動の今までとこれか らー	仙台市重点事業4年目を迎え、学びを活かし活動の質が向上した。八幡まちあるき、柿渋染め、折立市民センター昔遊びの会「わらすこ」との交流、八幡ウォークラリー、てらまちフェスタ 2014、増田西公民館交流会など	4月15日 ～2月7日	18	520
市民企画会議 「柏木探検プロジェクト」	歴史ある寺院や史跡が多く残る地域の特性を活かし、地域に多く住んでいる転入者も興味を持って参加し、地域をよく知るきっかけとなるような企画を考えた。	5月13、28日 7月11日 8月10日 9月1日	5	34

北山市民センター

〔沿革〕

北山市民センターは、昭和 49 年 7 月に北山福祉会館として設置され（所管は仙台市社会福祉協議会）、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成 2 年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成 23 年 1 月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡神社、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	ルンルン子育て講座		
参加者	未就学児親子	延参加者	293 人
開催日	全 21 回 4 月 8 日（火）～ 3 月 24 日（火）		
協力者・協力団体	仙台北警察署交通課（7/29「ルンルン子育て講座」～楽しく自転車に乗ろう～）		
ねらい	少子化に伴い、子どもたちが近隣住民の中で同年代の友達を探ることがなかなかできない状況にある。また、北山地区には公園が少ない上、市民センター改築の際に児童館が無くなった為、地域に未就学児親子の集う場が少なくなっている。 そこで、月齢に合わせた企画や気軽に参加できるサロンを通年開催して、近隣の親子が市民センターを訪れるきっかけを作り、親子室・図書室の存在を知らせることで市民センターの利用、未就学児親子同士の交流を図り地域の子育てを支援する。		
概要・成果	未就学児親子が気軽に来館できる「北山子育てサロン」を毎月 2 回開催し、子供同士が共に遊び、母親同士も育児の悩みなどを話し合える場を提供。また、年 4 回講師を招く「ルンルン子育て講座」を企画し、親子が共に学べる機会を提供した。 近年は少子化で一人っ子が多い為に近隣で遊ぶ友達が居ないとの声が多いが、通年の定期開催により子供達は同室で他の子供と遊ぶことに慣れ、母親同士も顔馴染みとなり互いに子育て情報を交換することが出来た。また、国際交流会館に住む外国人親子も参加して、日本人親子と共に交流することが出来た。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ジュニアリーダーと遊ぶ	地域の子供達とジュニアリーダーが楽しく交流できるよう、北山納涼祭の「子ども遊びのコーナー」や北山交流まつりの「ちびっこプレイゾーン」で、ゲーム・バルーンアート・スライム作りを体験、また地域講師から一緒にクッキー作りを学び、プラ板づくりも楽しみ好評だった。	8 月 31 日 10 月 19 日 12 月 14 日	3	124
通町小学校連携講座 「歴史のまち探検」	通町小学校 5 年生の生徒が、北山ガイドボランティアの案内で、北山五山をはじめとする寺社を見学し、自分達の暮らす町について学んだ。また地域ボランティアのとのふれあいを通し、異世代間の交流が見られた。	6 月 13 日	1	57
北山納涼祭—おばけの館	子どもが遊びながら、寺町である北山の歴史に触れるきっかけの場として「おばけやしき」を開催した。日本の古典文学「怪談」の朗読も行なった。運営する社会人や大学生、ジュニアリーダーと小学生との交流の場を作ることができた。	8 月 31 日	1	208

インリーダー研修会	来年度、子ども会のリーダーとなる児童と子ども会世話人を対象に、児童に対しては、子ども会の活動プランや工作やゲームの仕方について、子ども会世話人に対しては、会運営の課題やその取り組み方についての講話を行った。	1月31日	1	54
歴史講座 「知ってトクする北山五山」	伊達家にゆかりの深い北山地区の歴史遺産について、特に初学者向けに分かりやすい講座を開催した。また、講師となった北山ガイドボランティアにとっても、教える側に立つことで、より深く北山五山を研究する良い機会となった。	6月28日	1	60
女子力UP講座「北山レディースクラブ」	地域の女性達が時代に即した幅広い知識を得られる様、女性を尊重したノルウェーの生活等を学び、カラーの効用を学んで生活をリフレッシュし、健康を考えた薬膳料理やピラティス運動を行い、自主サークル「北山ピラティス」が発足した。	6月21日 8月27日 10月25日 1月17日	4	80
北山シルバースクール 2014	より受講生同士が交流を図れるような内容を初回に設け、文学・健康・防犯・コンサート等、バラエティーに富んだ講座を開催し、年間を通して受講生が関心を持って学習できるようにした。	4月～2月	10	348
★きたやま JOYFUL★ライブ	地域住民が気軽に集い楽しめるよう、南米音楽・室内楽・ピアノデュオのコンサートや、小学生も参加できるワークショップ(アジアの話・減災)を開催し、パフォーマーとの交流も図った。今年は外国人観客も見られ、企画が地域に浸透してきた。	4月27日 8月19日 12月6日 2月15日 3月14日	5	174
★北山地区合同防災訓練	地域防災計画の見直しや大震災における課題と訓練を踏まえ、「三条中学校避難所運営」が円滑に行えるよう、地域住民や諸団体がそれぞれの役割を認識して合同訓練を実施し、今後の地域防災体制の構築や災害対応力の強化を図った。	11月1日	1	20
★はじめての仙台暮らし 「留学生応援講座」	地域に住む外国人留学生達が北山に親しみを持って生活できるよう、日本文化を和食や折鶴で紹介する講座を開催し、留学生と近隣住民の交流を促した。また、国際交流協会と連携し地震国日本で暮らすための備えを学ぶ機会を提供した。	6月26日 10月4日 1月10日 2月28日	4	54
北山ブックフェスティバル 2014	より身近な図書室を目指し、更なる利用率拡大を図るため、本に関わる講座を開催した。読書についての講話と絵本の中のお菓子作りを実施し、新規利用者の取り込みにも繋がった。また、図書ボランティアの活動も促進することができた。	11月11日 ～11月30日	2	40
市民企画 おばけやしきプロジェクト	近隣に住む学生ボランティアが子供向けの企画を立案し運営を体験することを目的に、おばけやしきを開催した。協働する中でメンバー相互の理解が深まり、地域ボランティアのネットワークを作ることができた。	8月2日 ～9月11日	8	90
第7回 北山交流まつり	外国人も含めて地域住民同士が一層の交流と親睦を図る為、町内会・地域諸団体・当センター利用サークルが中心となり、活動成果のステージ発表や出品等で地域の「まつり」を学生ボランティア達と共に盛り上げることが出来た。	10月19日	1	670
地域懇談会	近隣町内会長や利用サークルとの懇談会を開催し、施設の利用についてや社会教育施設としての事業説明を行った。参加者から意見・要望等を伺い、今後の運営に役立てることが出来た。	6月24日 3月5日	2	19
ジュニアリーダー定例会	ジュニアリーダーの協働意識を高めるため、定期的に市民センターに集まって話し合いを行った。増員のための方策やジュニアリーダー要請への対応が主に話し合われ、バルーンアートのスキルアップ研修も行った。	通年	11	27

北山地区 歴史ガイドボランティア 養成講座	北山の歴史的文化財を次世代に伝えるため、また歴史ガイドの活動を促進するために、ガイドボランティアを養成する講座を開催した。伊達家の歴史や北山五山それぞれの特徴を学び、現地でのガイドも体験した。	7月19、26日 8月23日 9月20日	4	120
市民企画会「長生き活き活 きまちづくり計画」	平成25年度より近隣住民と共に「長生き活き活きまちづくり計画」を立ち上げ、平成26年度は更に検討会を重ねて、平成27年度からは地域人材を活用した企画で地域交流を促し、まちづくりや地域を担う人づくり・地域ネットワークづくりに繋げる方向性を確認した。	4月15日 5月28日	4	36

福沢市民センター

〔沿革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設し、開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を中心として歴史を感じる雰囲気を感じ、今にとどめており、下町情緒に溢れている。反面、仙台市中心部からも近く、マンションも建ち並び新旧住民が混在した地域でもあり、ここ数年地域の総人口は増加に転じている。また、地域内に復興公営住宅が 2 か所建設され、地域コミュニティの形成がより重要となりつつある中で、地域の交流の場として多くの人々に利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★私の住む町 どんな町		
参加者	地域に転入して 3 年以内の方	延参加者	66 人
開催日	全 7 回 5 月 23 日(金)、6 月 22 日(日)、6 月 27 日(金)、7 月 25 日(金)、9 月 26 日(金)、10 月 24 日(金)、11 月 16 日(日)		
協力者・協力団体	仙台市社会福祉協議会中核支えあいセンター・宮町商店街振興組合 北山ガイドボランティア・青葉環境事務所・地域住民		
ねらい	復興公営住宅等の建設が進み、福沢市民センター管内にも多くの被災者が移住してくる。そこで、見知らぬ土地で不安を抱えて暮らす人たちに、地域を知る機会と新しい友人をつくる場を提供し、地域に早く溶け込めるよう支援する。		
概要・成果	地域の歴史を学ぶ町歩き・仙台張り子作り体験、仙台市のゴミ事情についての学習、地域の方々と交えての茶話会、センターまつりへの参加等を実施した。地域への理解を深めながら共に活動することによって、受講生同志の交流が活発になり、積極的な意見や情報交換がなされるようになった。また、地域情報誌「みらいん」に掲載されたこと等を通して、移住者への支援の必要性が地域でも認知されるきっかけとなった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
★親子であそぼう	未就学児の親子を対象に、防災や親子あそび・体操を楽しく交流しながら実施した。	1 月 9 日～23 日	3	81
ジュニアリーダーと遊ぼう	ジュニアリーダーの指導のもと、バルーンアートや手遊び・ゲームを実施し、集団あそびの楽しさを知るきっかけとなった。	7 月 19 日 12 月 20 日	2	47
中学生「職場体験学習」	窓口業務・講座企画・図書整理・館内外の点検・サークル体験等、来館者と交流しながら、市民センター業務を体験した。	10 月 21、24 日 11 月 11、14 日	2	8
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童向けの「危険予知トレーニング」世話人向けの「子ども会の活動」の講話と、全体での実技「ゲーム・レクリエーションの進め方」を実施した。	2 月 21 日	1	8

地域を学ぶ 「二つあった東照宮駅」	かつて地域を走った仙台鉄道の歴史を学び、その軌道跡を辿る館外学習を実施。また仙山線のこれまでや今後について、北仙台駅長の講話および関連資料展示を行った。	8月22、29日 9月12、20日 10月4、10日	6	125
福沢シニア大学	地域の歴史や気象・地名の由来に関する講話、エクササイズ・歌などの実技、館外学習、また運営委員自主企画としての講話や新年会を実施。	4月17日 ～2月19日	10	511
学校へ行こう	地域住民が中学校へ行き、①今時の中学生事情について教頭先生から講話を頂き②運動会への参加③授業、給食体験を通し、コミュニケーションを図り、顔の見える関係づくりを行った。	9月26日 10月25日 11月11日	3	10
北六番丁小学校連携事業	2学年を除く各学年と実施。1年生は昔遊び、3・4年生は絵馬の意味を学習後に絵馬作り、5年生は市民センターまつりで学校の取組の発表、6年生は地域21団体と「笑顔の北六 和・話・輪」イベントを開催し、児童が地域を知り好きになるきっかけになった。	7月2日 9月9、11、 17日 10月2日 11月16日 1月19、29日	8	372
みんなでアート～動物園・水族館を作ろう	子どもと大人が協力して、福沢市民センター階段の壁面に、動物園・水族館を表現した「福沢いきものランド」を制作し、センターまつりで多くの来館者に披露した。	8月31日 9月7、21、28 日 10月5日 12月20日	6	120
★災害に備えよう	地域防災委員会を2回開催し、本年度の活動内容を決め、北六小で地域合同防災訓練を実施した。また、応急手当や救急救命講座で技術を学び、地域の防災力を高めた。	4月28日 6月6、28日 10月9、15日	5	285
福沢懇談会	1回目は地域住民に対し、本年度の事業紹介やセンターに対する意見・要望の収集および情報交換を行った。2回目・3回目は管内4児童館と各館の情報や課題について話し合い、児童館同士の事業の連携の足掛かりを図った。	6月3日 8月12日 11月28日	3	27
★福沢市民センターまつり	演技・展示・出店それぞれに、センター利用サークルや地域住民、近隣の小中学校等の学習成果発表の場として参加し、交流した。	11月16日	1	1,157
ボランティア養成講座 「おもちゃ修理工場」	ボランティアの基本についての講話と、おもちゃドクターになるための講義。主に、座学と実技を通し、その後、おもちゃドクターとして活動ができる技術を習得した。	5月17、24、31 日 6月7、21日	5	46
ジュニアリーダー「かめ吉」定例会	月1回の定例会を開催し、要請の連絡確認やバルーンアート研修・広報紙づくりと発行等を行った。	4月13日 ～3月8日	13	60
市民企画会議「みんなでアート」	子どもから大人まで参加して、協力しながら作品づくりをする講座を企画した。	5月28日 6月11、18日 7月9日 8月26、28日 12月20日	7	14

旭ヶ丘市民センター

〔沿革〕

旭ヶ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、スリーエム仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、年間利用者が 10 万人近いことを踏まえ市内全域を視野に入れ、現代社会における課題をふまえ、地域資源・人材を活用した事業展開を推進し、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域コミュニティの基盤としての役割を担っている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	市民センターがやってくる！		
参加者	主に地域住民	延参加者	122 人
開催日	全 4 回 7 月 18 日（金）、9 月 26 日（金）、11 月 19 日（水）、1 月 30 日（金）		
協力者・協力団体	各開催場所の町内会		
ねらい	高齢化に伴い遠くまで出歩くことができない方の為に、自宅近隣の集会所などを会場に生涯学習講座を開催し、参加する楽しさを知ってもらうとともに市民センターの役割を理解してもらう。		
概要・成果	1 回目：マジックを楽しもう、2 回目：軽体操でリフレッシュしよう、3 回目：落語を楽しみましょう、4 回目：童謡再発見を開催。各会場それぞれ町内会の担当者と打ち合わせを行ない、主に高齢者のニーズに合った内容で開催した。自宅近くのため気軽に参加でき、また、参加者同士顔見知りも多く、アットホームな雰囲気です市民センターの生涯学習講座に楽しく参加することによって、市民センターの役割を理解してもらうことが出来た。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●市民企画講座「子育てママの交流タイム」	地域の子育て世代を応援するため、良質の布おもちゃで楽しみ、子育てアドバイスと交流を兼ねた講座を市民企画で実施した。センターを利用している団体と家庭健康課と連携で開催	11 月 18 日	1	19
響け！ドンドコ太鼓塾	子どもの健やかな成長を助ける体験型学習として、旭ヶ丘地域で森林太鼓という名称で親しまれてきた和太鼓の魅力を学ぶ機会を提供した。地域資源としての良さを確認し、和太鼓を通して、地域への親しみを深めることができた。	6 月 7、28 日 7 月 12、26 日	4	160
インリーダー研修会	子ども会についての知識や活動に必要な技能を研修することで子ども会の充実と活性化を図った。世話人と 5 年生がそれぞれ研修を行った。	2 月 7 日	1	79
職場体験学習受入事業	実際の就業体験を通して社会全般について見聞を広げ、自己の進路や就職について関心を高める一助とした。東北生活文化大学、台原中学校受入	10 月 17 日 ～11 月 7 日	2	8
児童館（AKD）共催事業 台原森林公園で遊ぼう！	台原森林公園近隣の児童館と連携し、地域資源である台原森林公園で季節体感や自然体験をするウォークラリーを実施、親子の交流を深めた。	11 月 1 日	1	36

台原中学校 PTA 共催事業 「食で人は変わります」	食と命をテーマに、食にこだわりのあるレストランシェフが台原中学校全生徒と PTA、地域の方を対象に講演会を行った。	11 月 13 日	1	665
★音楽の力で元気になろう！旭ヶ丘みんなのコンサート	借り上げ住宅に住む被災者やひとり暮らしの高齢者の方を対象に、音楽により心の潤いや生きる力をもたらし、震災復興を進めるための活力に繋げるコンサートを 2 回開催した。	6 月 19 日 12 月 18 日	2	220
市民企画講座「伊達なブランド戦略―手前味噌な味噌自慢」	仙台の文化に愛着を持ってもらうよう仙台味噌をテーマに歴史背景や、味噌の効用など試食も含め専門家から講話戴いた。昨年度から市民企画で話し合いを進め 2 年越しで開催となった。	7 月 13 日	1	16
★旭ヶ丘老壮大学	高齢者が幅広い分野について自主的に学習し、豊かな充実した人生を送るために年間を通して学習の場を提供した。	4 月 25 日 ～3 月 6 日	12	1,066
★旭ヶ丘地域懇話会	地域課題やニーズ、地域資源、地域情報を懇話会の意見交換を通して収集し、事業に反映することで地域活性化を図った。	6 月 13 日 11 月 20 日	2	37
ホテルの里サポーター育成講座	旭ヶ丘地域の後世に残しておきたい大切な資源である「ホテルの里」の存続のために「ホテルの里」の環境整備やホテルに関連した活動をするサポーターを育成した。	4 月 12 日 ～3 月 14 日	15	153
旭ヶ丘わんぱく森 2 がっこ支援事業	子どもたちの野外活動体験や自由に遊べる機会が少なくなっているため、旭ヶ丘地域の小学生に学年の枠を超えた遊びと交流を提供。森 2 ファーム、夏まつり、デイキャンプ等	7 月 26 日 8 月 23 日 11 月 29 日	3	172
台原森林公園活用講座	台原森林公園の魅力を活用し、多くの方々に自然を体験する機会を提供し、地域資源の再発見と公園の見聞を広げ地域交流に繋げた。自然散策、ホテルの里ナイトツアー	4 月 23 日 6 月 21 日 7 月 5 日	3	130
★災害に強いまちづくり企画会議	東日本大震災を体験をふまえて作成した地域防災マニュアル等を基に運営上の問題・課題克服のための手段検討を継続的に行った。	9 月 19 日 ～2 月 15 日	4	34
★旭ヶ丘市民センターまつり	地域住民の文化活動の推進と地域文化の発展向上を目指すとともに利用団体との交流を図った。	10 月 18、19 日	2	3,800
社会学級共催企画会議	地域にある学習団体と共催し、事業を企画運営し、地域コミュニティの活性化に繋げた。	7 月 17 日 ～2 月 10 日	5	26
台原中学校 PTA 共催事業 企画会議	「学びのまち・仙台」を担っていく生徒のために、学校・PTA・旭ヶ丘・三本松市民センターの四者で青少年が健全に育つ環境づくりに向けて、よりよい事業を展開するため話し合いを行った。	5 月 23 日 ～2 月 4 日	6	110
社会学級共催「英語に楽しく親しむー英語落語と世界旅行の土産話から」	小学校で必修化された外国語教育をうけ、家庭でも英語学習にどのように取り組めばよいか、いかに興味を持ってもらうのか、英語に親しめる英語落語と懇話会を開催した。	2 月 10 日	1	32
旭ヶ丘市民企画会議「いきいきすくすく子育て会議」	子育てに関して日頃疑問に思っていることや個人だけでは解決が難しい問題を話し合い、地域の子育てを応援する企画を立案、実施した。	6 月 11、25 日 7 月 8 日 8 月 27 日 11 月 18 日	5	18
ジュニアリーダー育成支援	休会していたサークルを立ち上げ、市民センター講座、地域団体や子ども会などの行事で活動するための支援を行った。	6 月 29 日 ～3 月 22 日	10	36

三本松市民センター

〔沿革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(40 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 10 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	堤町ぶらりマップづくり		
参加者	地域の人	延参加者	46 人
開催日	全 10 回 11 月 7 日(金)、11 月 16 日(日)、11 月 29 日(土)、12 月 5 日(金)、 12 月 12 日(金)、1 月 18 日(日)、2 月 1 日(日)、2 月 15 日(日)、 3 月 1 日(日)、3 月 22 日(日)		
ねらい	あまり知られていない地域の学習資源をひとつにまとめたマップを作成し、作業プロセスから地域の魅力を再発見・再確認する。マップは、まち歩きをし地域を学ぶ機会に活用し、地域への愛着や交流を深める。		
概要・成果	受講生は、マップをつくるプロセスを通して地域資源を再発見・再確認し、地域情報を発信した。またマップを手にした人が、地域への関心や愛着を深めることができた。次年度は、マップをつくった人達が講師となり、まち歩きをしながら地域を学ぶ機会を提供し、地域交流を図る。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
松っこ悠遊ひろば	デジカメ、調理など子育て世代の興味・関心が高い講座を開催し、仲間づくりを促し、子育てサークル「松っ子くらぶ」の自主的、継続的活動につなげた。	6 月 5、12、26 日 12 月 4、11 日	5	29
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に子ども会活動の知識やリクレーションゲーム等の学習、情報交換などを行った。	2 月 7 日	1	79
三本松寺子屋	昆虫採集、標本作り、魚の解剖、オリエンテーリング、料理、藍染め、天体観察などの体験と交流の場を提供し、同世代の児童が学習を深めた。	7 月 26 日 ～2 月 21 日	7	170
台原中学校 PTA 共催事業 「食で人は変わります」	台原中学校全校生徒と地域の方達が、レストランオーナーシェフの講演で、食べ物の大切さと職業観や生き方について学んだ。	11 月 13 日	1	665
ノルディックウォーキングで健康！	地域住民の健康維持と介護予防のため、ノルディックウォーキングの知識と技術を学び、継続的に取り組む環境づくりを整えた。	5 月 17 日 ～10 月 17 日	6	37
市民企画講座 「男の居場所づくり・仲間づくり」	男性の居場所づくり・仲間づくりを促し、地域活性化を推進するために調理実習を開催した。	10 月 28 日 11 月 18 日 12 月 16 日 1 月 20 日	4	67

三本松老壮大学	高齢者の生きがいがいづくりと地域活性化のため、健康で心身ともに豊かな生活を送るための学習機会を定期的に提供し、受講生同士の交流を深める。	5月14日 ～3月4日	10	489
堤町 再発見	花をテーマに地域を散策。老人会・子ども会・市民センター利用者が協力しての七夕づくり、堤焼の登り窯をカフェとして活用、堤人形の絵付け体験を行い、地域の良さを再認識し交流につなげた。	5月22日 ～11月6日	6	163
3×3バスケットボール in 三本松	バスケットボール大会を開催し、日頃の練習成果を発揮する機会をつくり、健康増進、技術向上と参加者交流を図った。	11月9日	1	76
三本松ロビーコンサート	自然の景色を見渡せる広いロビーで、コーラス、中南米音楽、クラリネットアンサンブルコンサートを開催した。	5月24日 8月30日 11月29日	3	310
三本松緑地の落ち葉堆肥 を作ろう！	三本松緑地の落ち葉処理の有効手段として堆肥づくりを学び、完成した堆肥を野菜作りに活用した。	5月9日 ～3月26日	11	106
三本松緑地活性化プロジェクト	野鳥観察会初夏編と冬編、オリエンテーリングを開催し、三本松緑地の自然の豊かさを認識する機会となった。	5月18日 11月1日 12月7日	3	70
三本松緑地活性化委員会	三本松緑地を地域資源として活用し、地域の活性化に向けて取り組む人材を育成し地域に根差した団体にするために定期的に会議を開催した。	4月18日 ～3月20日	10	66
台原中学校 PTA 共催事業 企画会議	生徒が豊かな人間性や自己実現を目指すため、レストランオーナーシェフによる講演会を企画した。	5月23日 ～2月4日	6	110
図書まつり	本の魅力を再認識してもらうことを目的に、本を題材にしたフラワーアレンジメント、ティーレッスン、人形劇、図書ボランティアによるブックトークを行った。	4月24日 6月19、20、 21、26日	5	500
三本松市民センターまつり	市民センター利用サークルと個人や台原中学校のステージ発表と作品展示、骨密度測定、お茶席、食事処、図書リサイクルコーナー等の日頃の学習成果発表を行った。	10月26日	1	600
★●大型マンション防災 講座	台原地区5棟のマンションの防災力を向上させ、地域基盤固めを目指した。	4月18日 7月5日 11月15日 1月31日	4	44
★地域懇話会	地域の団体・個人と地域課題等や市民センター事業について情報交換し、把握した情報をふまえて生涯学習事業に反映した。	6月14日 12月6日	2	21
まち美化剪定基礎講座	地域の住環境整備と安全安心な生活のために、植栽の手入れや庭木の剪定技術を学んだ。	9月30日 10月1、8、21 日	4	43
市民企画会「ティータイム サロン in 三本松～お父 さんの居場所作り」	退職後の男性の居場所づくり・仲間づくりをテーマに企画会議を実施した。	5月24日 ～1月20日	11	55
図書ボランティアフオー ローアップ講座	図書ボランティアが、ボランティア理念と図書室の効果的なレイアウト、読み聞かせの手法などを学んだ。	1月23日 1月30日	2	19

片平市民センター

〔沿革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なおことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市民的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	かたひらキッズクラブ		
参加者	小学生	延参加者	126 名
開催日	全 6 回 6 月 6 日 (土)、7 月 25 日 (金)、7 月 29 日 (火)、9 月 6 日 (土)、 11 月 13 日 (木)、2 月 7 日 (土)		
協力者・協力団体	エフエム仙台、仙台市交通局、東北大学ストリートダンスサークル「WHO」、東北大学、宮城県工業高等学校 (電気科、電子機械科、インテリア科) ほか		
ねらい	主に小学生を対象に、日頃、学校の授業では体験できないプログラムを提供し、仲間づくりや異年齢交流を図り、子どもの健全な育ちを支援する。		
概要・成果	モノづくりや科学体験・建設中の地下鉄の見学・ストリートダンス体験など、普段は体験できないことや入れない場所の見学等、多様なプログラムを提供し、参加者同士や参加者と講師の交流を図ることができた。特に、第 6 回「県工でモノづくり」では、小学生を指導した高校生からも「また参加したい」との感想があり、効果的な異年齢交流の場となった。		

〔平成 26 年度 (地区館) 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ハッピーパパ・ママの子育てカフェ	マンション住まいが多く、核家族の母親が育児をしている現状から、夫婦で子育てに参加できる機会を提供した。また、託児希望者の低年齢化等も配慮し、より実態に合った内容で開催した。パパ友作り、子育て相談など。	6 月 24 日 8 月 30 日 9 月 25 日 11 月 6 日 12 月 4 日 1 月 24 日	6	231
市民企画講座「マミーズカフェ」	子育て中の乳幼児親子が楽しめる講座 (親子ヨガ、消しゴムはんこ作り、マッサージの 3 回) の企画運営などを行なった他、親子で行けるお店情報のマップ作りをした。	9 月 4 日 9 月 18 日 10 月 16 日	5	17
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとなる新 5 ～ 6 年生と子ども会世話人を対象に子ども会活動についての知識やレクリエーション・ゲーム等を学習する機会を提供した。	1 月 31 日	1	15
中学生職場体験学習受入	五橋中学校の学生を職場体験で受け入れた。講座の見学や託児の手伝い、窓口対応、センターだより発行の仕事などを体験した。	10 月 21、22、 23 日	3	15

ボランティアガイドと歩く広瀬川	地域住民に片平地域の歴史や自然を学ぶ講座を提供し、地域の活性化や住民同士の交流を図る。ガイドボランティア「広瀬川をゆっくり歩く会」の学習発表と活動の場の提供した。	9月20日 10月18日 11月15日	3	68
ビギナーのためのギター講座～昔つまびいたギターを持ち出してみよう～	当館では、地域住民のサークル活動の種類及び利用が少ない為、地域で活動できる団体を増やす事を目指している。平成26年度はギター講座を実施し、地域住民が気軽に参加できるサークルの増加につなげた。	6月6、20日 7月4、18日 8月1日	5	53
★片平シニア隣経大学	地域の高齢者が定期的に、学習や楽しむ時間を持つことで、生きがいのある日常生活を送る一助とする。講座後30分程度の交流の場を設け、受講生同士の仲間づくりも目指した。脳トレ、文学、健康、医療講座、コンサート、落語など。	5月8日 ～3月5日	10	474
定年世代の寺子屋塾 「地元仙台を学び、地域に生きる自分探し」	平成26年度、年金支給の年齢に達し地域に入ると思われる団塊世代を対象に、生きがいを持ち心身ともに健康で過ごす事が出来る様、これからの生活を考えるきっかけを提供した。片平地区まちづくり情報提供、昭和の仙台の振り返りなど。	6月27日 7月18日 8月29日 9月26日 10月24日 11月28日	6	72
片平メンズ専科	定年世代の男性を対象に、食を切り口に展開してきた講座を継続し、平成26年度は簡単な一品の料理の実習を行った。試食の時間を交流・情報交換の場として活用し、定年後に地域や社会の課題に気づききっかけの場とした。	10月22日 11月19日 12月17日 1月21日 2月25日	5	47
★地域の絆づくり推進事業 「クロスアップ片平・地域紹介映像番組づくり」	平成24年度から3年間の継続事業「地域の絆づくり事業」の一環で、片平地区の様々なイベント、地域活動等の画像を取材し、人、活動、資源、地域情報を地域住民と共に紹介DVD作りを手掛けた。	6月13日 9月11日 11月20、23日 2月21日 3月19日	7	55
★新春コンサート2015	当館利用の音楽サークルが出演し、参加者と地域住民、そして地域内の被災者との交流を図った。さらにサークル同士の交流も図り、気軽に集える場所としての市民センターを目指して、コンサートを行った。合唱、ギターサークルなど。	1月17日	1	210
かたひら waiwai 広場	市民センター・児童館・地域で活動している各団体が連携して、地域住民との交流や親睦を深める場を提供し、明るく住みよい活気のある地域づくりを目指した。	10月11日	1	1,030
★市民センター懇話会	地域内の町内会、学校、諸団体の方にセンターの事業説明や、各団体の活動報告などを通して意見交換し、今後の事業企画に反映させると共に、情報提供の場とした。	9月11日 3月13日	2	30
子育てママの企画会	子育て中の母親を対象に、参加者同士の交流を図り、社会参加や自己実現の一助として行なった。活発な意見が出て、3つの講座の企画立案と広報を分担した。また親子で行けるお店紹介のマップ作りの企画も行なった。	5月22日 6月4、18、26日 7月17日 12月4日	6	17
広瀬川ガイドボランティアスキルアップ	DC終了後も活動を継続するボランティアサークル「広瀬川をゆっくり歩く会」の活動支援と、片平ウォーキングマップを参考とした新コース開拓及び、新たなボランティアを募集し、会の活動活性化を図った。	6月11日 7月5日 8月20日	3	33
かたひらサークル体験会	リタイヤする団塊の世代向けに、充実した生活を送るきっかけづくりの場を提供と、停滞しているサークルの活性化を図る為に開催した。運動系、文化系のサークルがエントリーし、体験会を行なった。	7月1日 ～7月31日	10	29

水の森市民センター

〔沿革〕

水の森市民センターは、広く市民の憩いの場として親しまれている自然豊かな水の森公園の水の森入口に立地している。管内は昭和 30 年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ヶ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成 2 年 9 月にオープンした。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2 階の広いメインホールは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★水の森防災学校		
参加者	北仙台地区及び一般募集参加者	延参加者	244 人
開催日	全 4 回 6 月 21 日（土）、9 月 6 日（土）、10 月 11 日（土）、2 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	北仙台地域防災ネットワーク会議、北仙台地区連合町内会		
ねらい	東日本大震災の経験を踏まえ、北仙台地域町内会および各団体、地域住民を対象として、『自分達の地域は自分達で守ろう』をスローガンに、防災や減災に関連した研修会、意見・情報交換を積極的に実施し、安全・安心な地域づくりを目指すと共に、住民相互の共助に対する取り組みを推進する。		
概要・成果	北仙台地域防災ネットワーク会議と連携して、① 基調講話『地域の防災力を高めよう』とグループワーク ② 仙台発そなえゲーム ③ 演習『避難所運営委員会の開設と運営の演習』④防災・減災カードゲームと講話の全 4 回の講座を開催した。町内会役員、防災担当者を中心に延べ 244 人の参加を得た。特に机上での演習やカードゲーム等で防災への気づきやイメージを参加者全体で共有することができた。平成 17 年度から開催している講座であるが、今年度は町内会の防災担当者や地域住民等を中心に、情報交換をするよい機会となり各単位町内会への啓蒙活動へと期待が持てる内容であった。そして地域住民の共助意識が高まり、地域における防災・減災の活動への支援が図られた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
水の森キッズクラブ	①実技「オリジナルかさのデザイン」②実技「夏のおやつ作り」③実技「ペットボトルで科学体験」④交流会「ブラジルってどんな国？」⑤あきらちゃんコロケちゃんコンサート	6 月 14 日 7 月 19 日 10 月 8 日 11 月 15 日 1 月 16 日	5	163
インリーダー研修会	児童向け：講話「インリーダーとは」・演習「歓送迎会を企画しよう」 世話人向け：講話「子ども会活動について」・歓送迎会の発表見学・レクリエーションゲームなど	1 月 24 日	1	57
中学生職場体験学習受入	仙台市立北仙台中学校 2 年生 2 名を受け入れた。窓口業務と接遇、事業企画・プレゼンを体験した。	11 月 9 日 ～11 月 14 日	1	2

水の森老壮学園	歴史・健康・運動・音楽など高齢者に関心の高いテーマや、地域課題を取り上げて学習した。および市民センター地域まつりでの演芸発表会参加（新春コンサートは一般公開）	4月17日～2月19日	11	574
十人十色 子育てはマニュアル通りでなくていい	①お話とワークショップⅠ ②お話とワークショップⅡ ③親子あそび	6月20日～7月11日	3	34
記録に残そう地域の記憶	昭和30年代頃の地域の情報を収集するために昔を語る会を実施。記録集編集委員会に向けた準備会、編集委員会の実施。	11月20日 12月6日 1月23日 2月28日 3月26日	5	83
ほっとタイムコンサート	荒巻・北仙台・中山の各社会学級連携事業「仙台二胡の会」によるコンサート。児童館連携事業としてパレンティンコンサート。	10月8日 2月14日	2	204
★水の森防災学校企画会議	水の森防災学校全4回の企画・運営。次年度事業についての企画	4月26日 ～3月28日	11	96
水の森市民センター地域まつり	地域住民の企画・運営で、地域のコミュニティを多方面から推進する。地域で活動するサークル等の学習成果発表の場。作品展示・舞台発表・児童作品展・出店・主催講座紹介等。	11月1、2日	2	2,830
水の森懇話会	①管内小中学校地域連携担当者、管内関係団体と事業や地域行事等について意見交換をした。②市民センター利用団体と事業やセンター利用について意見交換をした。	8月21日 11月28日	2	36
ジュニアリーダー定例会	当センターを活動拠点とするジュニアリーダーの活動支援。各種情報提供・活動に関する助言・指導。自主研修「JLPR チラシの作成について」実施	4月20日 ～3月15日	12	87
ジュニアリーダーと遊ぼう！	子どもたちとの触れ合いや活動紹介を通じて、ジュニアリーダーのスキルアップと成長を促し活動の場を提供する育成支援。	8月20日 11月1日	2	232
図書ボランティア研修	①講話「基礎から学ぶ図書室運営」②講話「読書のすすめ」③活動紹介と情報交換「図書ボランティアの活動」④実践「図書の修理」（補講）	6月20日 7月3、17日 9月5日	4	34
市民企画会「まちを歩く」	地域にある歴史、文化、自然を生かし活用する事業の企画会を実施。	1月20日 2月3、17日 3月10、17日	5	29

貝ヶ森市民センター

〔沿革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ヶ森市民センターは、貝ヶ森地区に平成5年4月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中であって、その瀟洒な建物は、隣接する貝ヶ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ヶ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	貝ヶ森ウィーク		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	110人
開催日	6月15日（日）～6月21日（土）		
協力者・協力団体	貝ヶ森地区社会福祉協議会、子育て支援クラブ		
ねらい	市民センターでの事業や活動を凝縮したような一週間を設けることで、特に年配の方々が継続して地域や市民センターに足を向けたくなる学習や交流を促すことを目的とする。		
概要・成果	「父の日のコンサート」に始まり、交流サロン、サークル体験会を期間中に合わせて開催するとともに、地域の歴史講話や仙台筆笥の講話、ディスコン三世代交流大会を実施し、地域の皆さんに気軽に来館していただく機会を提供することができた。毎日顔を合わせることで、参加者同士に交流が生まれ、サークルに加入された方も多く、継続して市民センターに足を運ぶきっかけをつくることができた。		

〔平成26年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子でぽかぽか！あったか3B体操	運動不足になりがちな寒い時期に、乳幼児親子が楽しみながら身体を動かした。交流しながら子育てのストレスを解消して体力づくりにつなげることができた。	1月22日 1月29日 2月5日	3	68
親子で季節を楽しもう！	季節の行事に合わせたお菓子や装飾品を親子で作って楽しんだ。季節感を味わいながら親子の交流を深めることができた。	7月5日 9月6日 12月20日 2月7日	4	65
ちびっこまつり	地域の支援団体と連携して、人形劇とアンパンマンをテーマにしたコーナー遊び（わらべうた、簡単工作、フォト、サッカーなど）を実施した。	10月10日	1	191
インリーダー研修会	貝森、国見小学校の子ども会の次年度世話人と5年生を対象に、インリーダーや世話人の役割についてゲームや講話を通して学習する機会を提供した。	2月21日	1	70
木工広場	金づちやのこぎりを使って地域の子どもたちや親子が自由に木工工作を楽しんだ。大学生のボランティアとジュニアリーダーも加わり、交流しながら、作品を完成させた。	5月31日	2	110
職場体験学習	第一中学校の2年生を迎え、生徒が勤労観や職業観、自分の将来の在り方を考える機会を提供した。敬語の使い方や窓口業務も体験した。	8月19、20日 21、22日	4	12

中学生のハローワーク	中学2年生に対して、様々な社会人による職業紹介をしてもらい、幅広く職業選択をするための一助とするもの。平成25年度のアンケート結果等を踏まえ、サッカー選手、アナウンサー、ホルン奏者等から話を伺った。	7月1日	1	220
愛するわが町の風景を残そう！デジカメ講座	デジタルカメラの撮影の基礎を学び、貝ヶ森地区の自然や地域の歴史を残す風景を写真に残すことができた。貝ヶ森ウィークで展示し地域で情報を発信することができた。	5月27日 6月3、10、17日	4	59
貝ヶ森シニア学園	講話（好奇心を持つことの大切さ、誤嚥、震災後の沿岸部の様子、認知症、地域の水の流れの今昔）、ディスコン、DVD上映、ヨーデルチロリアンコンサート、館外学習（仙台市歴史民俗資料館）、企画員による講座（丹田呼吸法、DAM倶楽部を使用した運動）を実施。	5月28日 ～3月11日	11	433
シニアのためのパソコン講座～スキルアップ編～	東北電子専門学校の学生を講師にむかえて、WordとExcelを使用して回覧文書や申込者一覧作成など、より実生活で役立つような技術を学んだ。また、インターネットを使い、効果的な情報検索の方法を学習した。	7月16日 7月17、7、18日	3	40
国見出前講座	市民センターまで歩いて来れない国見地区の高齢者を対象に、国見コミュニティセンターを会場に、津軽三味線のコンサートを開催した。	12月13日	1	39
四季の杜サロンコンサート	四季に合わせて4回のコンサートを開催した。6月はセンター利用サークルを中心とした「父の日のコンサート」夏は夜間のジャズコンサート、冬は児童館共催で未就園児親子のためのクラシック、3月に声楽のコンサートを実施した。	6月15日 8月23日 12月9日 3月7日	4	260
豆まき会	オープニングとして和太鼓と獅子踊り、節分にちなんだコーナー遊び（福笑いなどの昔遊び、鬼バック作り等）を地域の支援団体と連携して実施した。	1月10日	1	95
いっしょに出はっぺおらほの街	地下鉄東西線の特徴や沿線の魅力をテーマに、講話や見学を行った。1回目は東西線の特徴や沿線の地域についての講話、2回目は工事中の国際センター駅を見学、3回目は宮城県美術館学芸員による講話と交流会を併せて実施した。	10月9、30日 11月11日	3	43
サークル体験	市民センターで活動しているサークル団体の活動を気軽に見学・体験できる機会を設け、参加者が地域で活動していくきっかけをつくと同時にメンバー減に悩むサークルも新規加入があるなど交流が図られた。	6月17日 ～21日	4	22
★防災情報発信講座	貝ヶ森連合町内会の協力も得ながら、貝森小5年生と連携して貝ヶ森地区の防災マップを作成した。防災マップコンクールに応募して佳作に入選した。完成したマップは各町内会の掲示板に掲示した。	10月2、21、 29日 2月14日	4	110
貝ヶ森・国見講座企画会	貝森・国見・八幡の各小学校社会学級から企画員を募り、地域の課題を検証し、活性化につながる企画を話し合った。	5月1、22日 8月8日 11月5、28日	5	19
貝ヶ森交流サロン	こだわりのコーヒーサロン・記念講話交流会・ギター演奏・地域散策・X'mas飾り作り・体力測定・だんごさしを実施し、地域の方に交流の場を提供した。	6月17日 ～1月9日	8	194
貝ヶ森地区文化祭	貝ヶ森地区住民、センター利用者の活動や学習成果の発表の場として実施した。実行委員会を中心とした企画・運営の作業を通して地域の絆を深め作品展示・ステージ発表を行った。	10月25日 10月26日	2	1,740
地域懇話会	地域団体や主催事業参加者を対象に実施した。参加者からは、地域の現状や事業への意見要望が活発に出された。	11月13日 3月5日	2	16
庭木剪定講座	剪定の技術を身につけ自力で手入れができるようになるとともに地域で役立つことを目的に、庭木剪定の基礎知識の講話と実技実習を行った。	11月15、22、 29日	3	51

中山市民センター

〔沿革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成7年4月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑いっぱいの豊かな自然がある。地域では、街道市や七夕祭り、スノーマン祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●花と緑のエコタウンづくり事業		
参加者	地域住民	延参加者	285人
開催日	全11回 4月26日(土)、5月17日(土)、6月7日(土)、7月12日(土)、 10月11日(土)、11月1日(土)、11月22日(土)、12月20日(土)、 1月24日(土)、2月21日(土)、3月28日(土)		
協力者・協力団体	青葉区まちづくり推進課、青葉区中央市民センター、中山中学校、西勝山町内会、中山西二町内会、中山西寿会、中山児童館、仙台生ごみリサイクルネットワーク		
ねらい	中山、川平地域の公園、街路等公共の場所には花や緑が豊富にあり、町内会、老人クラブ、小中学校等地域をあげて落ち葉や雑草の清掃活動が行われているが、初冬には街路や公園から出る多量の落ち葉や雑草の処理が地域の課題となっている。地域をあげて周辺の美化を図り、雑草、落葉の有効な活用を図るため、リサイクルして堆肥をつくり、地域の花壇や畑に活用することで、花と緑に満ちた循環型のまちづくりを推進する。		
概要・成果	ハーブやバラを用いた花壇や、緑のカーテン作り、畑で野菜づくりを行った。落葉の堆肥づくりは、講座参加の西勝山町内会でも町内会をあげて実施した。活動を通して参加者に地域貢献、環境貢献の意識が生まれ、花や野菜の収穫の喜びが加わり、高齢者や幼児親子、児童との交流、心身の健康づくり等多様な効果が発揮され、地域コミュニティの活性化に貢献できた。		

〔平成26年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
かわだいらお楽しみ劇場	川平地区の未就園児親子のために出前講座を開催し、市民センターを身近に感じてもらう。地域の要望に応え児童館単独では難しい人形劇を開催し参加者同士の交流を図った。	6月13日	1	63
小正月を祝おう！	地域の高齢者から、家庭では行われることの少なくなった伝統行事のひとつ「小正月」を学び体験する機会を提供し、小正月の話を聞き、餅つき、お飾りなどの体験をした。	1月10日	1	55
インリーダー研修会	中山市民センター管轄の中山・川平地区と貝ヶ森市民センター管轄の貝ヶ森・国見地区で5年生とその親を対象に子ども会の運営方法や安全に活動する方法を学んだ	2月21日	1	71

みんな集まれ！わんぱく広場	夏休みなどの長期休暇や土日に小学生や親子が気軽に参加できる体験型の事業を行った。ジュニアリーダーが小学生に工作等を教えたり、犬とふれあい、やさしさを協調性、命の大切さを学んだ。	7月19日 10月15、25日	3	340
昔あそびを楽しもう	中山小学校1年生が、地域の方や父兄と一緒に昔あそびを体験した。子どもたちは、地域の方と遊ぶことで楽しみながら遊びのルールを学び、地域の方は、幼少時代を思い出したり、子供たちから元気をもらったりした	12月5日	1	104
中学生職場体験学習	中学生が市民センターの業務体験をし、また、中山地区の大人から職業の話を聞き、望ましい勤労観・職業観などを学んだ。	10月20、21、 22、23、24日	5	20
中山健康アラカルト	介護予防の話や体操、歌や料理など健康に関して様々なテーマで楽しく学習した。学習の成果を市民センター児童館まつりのステージで発表した。	7月8日 ～11月7日	10	170
市民企画講座 中山ウォッチング	地域の魅力や資源に触れる機会の少ない人に対して、「身近な自然」をテーマに取り上げ、中山周辺の「青陵の森」と「うどう沼」の散策と自然観察会を実施。	11月6、13日	2	46
中山銀鈴倶楽部	地域に住む高齢者対象に、健康や軽体操、文学、最先端医療の話などを提供した。また天文台の見学や絵手紙の実技をするなど、健康や生きがいづくり・社会参加への促進・豊齢力アップにつながる講座を開催した。	5月9日 ～2月13日	9	395
★防災講座	緊急時の対応として、地域住民、中学生、職員合同の救急救命講習を実施した。また、地域防災訓練に参加し住民とともに災害対応を学んだ。	10月21日 11月2日	2	214
★中山市民センター・児童館まつり	市民センター利用団体・地域住民・地域諸団体の活動報告や日頃の学習成果などの発表、および授産施設等の製品販売など。	9月27日	1	1,500
★中山市民センター懇話会	市民センターの運営の在り方、実施事業に対する町内会等地域団体、市民センター利用サークル、福祉関係機関、老人クラブ、子育て支援関係団体、機関等と意見交換を行い、地域に根差した市民センターの事業計画づくりに反映させた。	5月23日 11月12日	2	49
★おかのまちふれあいコンサート	文化的事業、特に音楽に触れる機会を望む地域の声に応え、地元の音楽家とゲスト「操春会 鶴巻社中」による幅広いジャンルの音楽を提供した。	11月15日	1	100
ジュニアリーダーSKY定例会	ジュニアリーダーが、多くの要請に対応するため、毎月の定例会を通して、心得、ゲーム等の自主研修を行いスキルアップを図った。また、学校学年を超えた仲間同士の交流を深めた。	4月13日 ～3月22日	12	167
★市民企画会議「中山ウォッチングを企画しよう」	中山地域の宅地開発から半世紀が過ぎ景観も様変わりする中、地域の自然などの貴重な地域資源を探り、地域に一層愛着を持ってもらう事業の企画会議を開催した。	5月29日 6月13日 7月11、25日 9月4日 10月30日 11月27日	7	31

折立市民センター

〔沿革〕

折立市民センターは、平成7年5月30日に市内50番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約5kmの地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた49畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	ボランティア情報紙「わ・和・輪」作成講座		
参加者	地域住民、地域のボランティア活動者	延参加者	42人
開催日	全8回 6月4日(水)、6月27日(金)、7月9日(水)、8月1日(金)、 8月21日(木)、9月10日(水)、11月5日(水)、11月19日(水)		
ねらい	情報紙を通して地域で活躍しているボランティアの方々や活動内容を紹介することで、ボランティア活動への理解と周知を広める。また情報紙を通して新たな参加者を募るとともに地域における共助の精神を広める。更に情報紙作りの基本を学ぶことで今後の地域活動やサークル活動の広報に役立ててもらう。		
概要・成果	発行から8年目、今年度で11号となるボランティア情報紙は地域で活躍するボランティアやその活動の周知に大いに役立ってきた。今年度は集大成として、各分野の専門家から魅力ある情報紙作りのノウハウを一から学びながら、受講生一人ひとりが担当を持ち、取材や写真、文章、構成に至るまで学んだことを生かし作り上げた。また受講生は、この情報紙作りを通して今後の地域活動やサークル活動の広報に生かせるスキルを身につけることができた。		

〔平成26年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子たいけん隊	親子でいろいろなことを体験することにより、子どもたちの心身の健やかな成長を促す。山歩き、工作、化石の森の探検、料理といった体験学習を通して、地域の資産を学び、親子のコミュニケーションを深めた。	9月27日 10月4日 11月22日 1月17日	4	120
ジュニアリーダーと遊ぼう	地域の小学生がジュニアリーダーとのふれあいの中で、集団で遊ぶことの楽しさを体験し、遊びを通して異年齢との交流を図れる機会とした。ジュニアリーダーにセンターまつりで活動してもらうなど、活動の活性化を図った。	10月25日	1	180
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会リーダーとなる児童および世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーションゲーム等を学習する機会を提供した。	2月2日	1	17

★防災教室～僕たち私たちの力～	高齢化が進む地域の防災力を向上させるために、消防署職員の指導のもと、中学生が普通急救命やAED、消防訓練等の講習を受けた。災害時に地域の諸団体と連携し、ボランティア活動に対する意識の向上を図った。	5月26日	1	127
折立老壮大学	高齢者が地域との関わり合いを持ち、心豊かに健康で生きがいのある生活を送るために、文学・歴史・健康などに関する講座を仲間と交流しながら共に学習した。	5月21日 ～2月18日	10	344
折立 風のメロディーコンサート	市民センターを拠点に活動している音楽サークルの発表の場として、また、地域住民が気軽に音楽にふれ合いながら、地域交流が出来る場として開催した。地域の芸術文化活動の促進と、地域コミュニティの活性化が図られた。	7月12日	1	120
★災害に強いまちを目指して	折立地区は、東日本大震災で大きな被害を受けた。今後も大地震の発生が予想される中、地域と連携して防災・減災対策の訓練を行い、災害に対する意識の継続や備えをする。地域が一体となり、小・中学校に分かれて避難所運営訓練を行った。	11月8日 11月19日	2	89
折立ふれあいまつり	地域で活動している個人や団体、地域の教育施設、市民センター利用のサークルなどが中心となり、日頃の練習の成果や作品の発表を行った。また、実行委員と市民センターが協働で開催することで、地域の絆をより深め融和と活性化を図った。	10月25日	1	1,624
★懇話会意見交換会	地域住民で意見交換をすることで地域課題の解決や地域づくりの方向性を探るとともに、市民センターへの理解を深めてもらい、市民センター運営に活かしていく。	5月9日 11月15日	2	35
秋の折立地域交流会	地域に求められている高齢者と若い世代の交流を図るため、市民センターの持つコーディネート機能を生かして、老人クラブ連合会及び折立社会福祉協議会と連携し、町内会や地域の諸団体へ幅広く参加を呼びかけて、演芸大会を開催した。住民のコミュニケーションを深め、地域の活性化を図った。	10月3日	1	330
折立マンの挑戦 「元気飯の達人」	折立地域の担い手が高齢化していることから、次世代の地域の協力者の発掘を目的に、主に退職後の男性に健康料理に挑戦してもらい、生きがいづくり・仲間作り場を提供するとともに、これまでの経験や知識を地域活動へ活かしていく。	6月20日 7月4、25日 8月8、22、29日	6	58
昔遊び伝承事業 昔遊びボランティア養成講座	日本の昔の遊びを伝えるボランティアを養成し、大人から子どもへ昔遊びの楽しさを伝承する中で世代間の交流を図った。伝承事業には高齢者を中心とした地域の大人が参画し、次代を担う子どもたちの健やかな育ちを支援した。	5月1日 ～3月5日	12	99
市民企画会議「地域を元気に！第2弾」	少子高齢化が進む折立地域において、地域の方が今何に興味があるのか、何を学習したいのかを企画会議の中で検討し、若者や高齢者が気軽に参加でき、交流できる講座を企画した。	6月8日 8月27日 9月12日 12月18日 1月10日	5	10
折立サークル体験会	市民センターや地域で活動しているサークル団体の活動を見学・体験できる機会を設け、サークルの活動紹介と新規会員獲得の機会を提供した。	7月1日 ～7月31日	13	16
市民企画講座「地域を元気に！第2弾」	地域の大梅寺でのコンサート、リース作り、みそ作りを通して、地域資源を活かした地域再発見になる内容となった。	10月28日 12月10日 1月10日	3	57

木町通市民センター

〔沿革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成 16 年 4 月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6 階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の庭園として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅はほとんど見られなくなった。この地域では若い単身世帯や乳幼児の子育て世代の 20 代が多く、30 代、40 代、50 代、60 代と続く人口構成となっている。

当市民センターはこうした環境の下、複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら学びの場を提供することを目指している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	ふらっと木町 なるほど木町		
参加者	成人	延参加者	25 人
開催日	全 5 回 7 月 5 日 (土)、8 月 2 日 (土)、9 月 20 日 (土)、10 月 11 日 (土)、11 月 1 日 (土)		
ねらい	平成 25 年度までは「仙台の魅力」「地域の魅力」について再発見する機会を提供し、学習してきたが、平成 26 年度は「木町通平成風土記」を教本に地域を見直し、再学習する機会の提供と地域コミュニティづくりを目指す。		
概要・成果	平成 19 年に青葉区平成風土記作成事業により作成された「木町通地区平成風土記」に記載されている内容を再学習し、その情報をもとに街歩きを行った。街歩きの学習成果として模造紙に写真や建物の情報をまとめた。 木町通地域の歴史の学習と街歩きを通して、地域への愛着を深めることができた。 街歩きの情報をまとめたマップをセンターロビーに掲示したことで、来館者に対して地域情報を提供することができた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
きまちたんけん隊	親子を対象に、そば打ち、伝統のだるま絵付け体験、街中彫刻めぐり、日本銀行見学を行った。	7 月 23 日 9 月 27 日 10 月 15 日 1 月 7 日	4	66
スマイルママとキッズのサロン 2	地域に暮らす幼児親子を対象に、子育てに関わる様々な講座等を展開、児童館と共催し子どもの年齢に応じた講座を行い参加者同士の交流を図った。	6 月 27 日 9 月 25 日 12 月 12 日 2 月 6 日	4	93
育メンパパとキッズのサロン	普段、育児にあまり参加できない父親を対象に「子育てに関する相談」「ものづくりや親子遊び」等の講座開催し、親子のコミュニケーションを図った。	11 月 22 日 12 月 20 日 1 月 24 日 2 月 21 日	4	16
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会リーダーとなる児童および世話人を対象に、レクリエーション・ゲーム等の進め方を学んだ。また、講話・実技を通して子ども会活動に必要な知識や役割について学習した。	1 月 31 日	1	32

木町通小学校 PTA 花火まつり	児童館と連携し、小学生対象に「キャップとぼし」ゲームを行った。学年を問わずに楽しむことができ、地域児童との交流につながった。	9月26日	1	252
わくわくきまち	日本の伝統文化や季節の風物詩づくり等を体験。和菓子作り、囲碁、電子工作、星の観察、生け花、ケーキ作り、手作りおもちゃやゲーム等を実施した。	6月14日 ～2月7日	9	135
木町通でみどりなライフ	プリンターを用いて「緑のカーテン」を作ることとを目的に苗の植え付けと水やり等の世話と観察、まとめとして緑のカーテンの効果測定とゴーヤを使った調理も実施した。	6月17、24日 7月8日 8月5、19、26日	6	36
木町通老壮大学	医療・食事と健康・コンサート・悪質商法・相続についての学習や館外学習など、様々な分野について学んだ。また、市民センターまつりでアート作品展示を行った。	5月15日 ～2月18日	10	580
きまち銀杏クラブ	地域の高齢者を対象に「歴史・文学」に特化した学習機会を提供し、館外学習を中心に参加者同士の交流を図った。	5月15日 ～2月19日	10	220
★大震災の経験から学ぶ～避難所運営に地域の力を活かそう！	大震災の経験を踏まえ、防災・減災を楽しく学び、地域コミュニティづくり・避難所運営に資する講座を開催した。	11月28日 12月4日 1月29日 2月25日	4	72
木町通小学校社会学級・子育て支援クラブ3者連携事業企画会議	地域の学習団体である木町通小社会学級と子育て支援クラブと3者連携し、子育て世代のニーズに対応する内容を提供し、企画立案し、連携講座を実施した。	6月6日 7月24日 10月21日 11月26、29日	5	20
★木町通市民センター・児童館まつり	サークル活動の活性化を図り支援すると共に、市民センターを利用しているサークル等の発表の場を提供した。	10月18日	1	972
木町通市民センター(児童館)運営懇話会	地域の方や市民センター利用者を対象に地域課題・特性等について意見交換会を行うと共に、市民センター(児童館)事業及び運営全般にわたる意見交換を行った。	5月29日 10月30日 2月26日	3	36
学校を知ろう！学校へ行ってみよう！	教頭先生の講話と学校施設見学を行った後、児童と給食交流会を行った。学校への理解を深めてもらう場を提供することができた。	6月12日	1	8
★楽しく学ぶ健康づくり	歌、軽運動、ゲーム、料理、地域諸団体を含めた地域住民との交流・情報交換会などを行い、健康への関心を深め、震災後の被災者と地域住民同士の交流を支援した。	7月24日 8月28日 9月30日 10月30日 11月27日	5	100
茶道でお・も・て・な・し	子ども達が茶道作法に取り組んでいる姿を地域の方・保護者・児童等に発表し、また地域にあるお茶室について学ぶことをとおして異世代交流を図りながら、地域に茶道のおもてなしの心を伝え育む機会となった。	12月13日	1	26
★木町通小学校社会学校・子育て支援クラブ3者連携事業「震災から復興へ・今私達ができること」	震災の記憶が薄れつつある地域の中で「復興公営住宅」が整備され被災者が定住するという現状を踏まえ、「震災」に対する温度差を解消しお互いを理解する場を設けた。	11月29日	1	15
★子ども居場所づくり「わくわくきまち応援隊」スキルアップ講座	子どもを対象にした講座の企画・運営(企画会全9回のうち2回は講座の実施)を行った。手作りゲームのための材料準備から作製、セッティング等も自主的に実施した。	10月22日 ～2月18日	9	45
市民企画会議「きずな・学び・ちから」	地域住民が企画・参画し、コミュニティのあり方について考えると共に、地域を支える”人づくり・絆づくり・長期を見据えた地域づくり”のステップアップ事業を目指した。	2月16日 3月27日	2	12

広瀬市民センター

〔沿革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域である。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	地域で伝える「平和学習」		
参加者	広瀬小学校 6 年生児童・愛子小学校 6 年生児童・地域住民	延参加者	453 人
開催日	全 3 回 11 月 19 日 (水)、11 月 27 日 (木)、12 月 3 日 (水) パネル展：11 月 18 日 (火)～11 月 30 日 (日)		
協力者・協力団体	仙台市立広瀬小学校、仙台市立愛子小学校、仙台市戦災復興記念館、仙台市広瀬文化センター		
ねらい	戦時中、学生や学童であった地域の方から、戦時下の学校や家庭生活、空襲時の様子、戦後の復興に至るまでの体験談を話していただくことで、小学生に平和の大切さを伝える。また高齢者と子どもたちとの世代間交流を深め、豊かな心や思いやりの心を育む。		
概要・成果	①語り手向けオリエンテーション②③広瀬・愛子両校 6 年生児童を対象とした戦災復興記念館職員による講話と地域住民による体験談④地域住民向け平和学習パネル展を戦災復興記念館・広瀬文化センターと共催し、それぞれの得意分野を活かして開催した。両校の児童は、仙台空襲についての講話や語り手の体験談を聞いたり、実際に『千人針』などの資料に触れることで、命の尊さと平和の大切さを良く理解することができた。また、語り手の方たちが自分のひ孫の世代に戦争体験を語ることを通して、子どもたちとの世代間交流につながった。さらに語り手が話す様子の映像の記録や、地域住民を対象にパネル展を開催するなど、平和学習を地域に伝えることに新たに取り組んだ。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわく子ども体験講座	自然遊びの場を提供し、子どもたちが自ら考え、学び、行動すること覚える機会とした。自然についての知識を身につけ、判断力を養い、さらに自然遊びサポーターとの世代間交流を図った。	8 月 17 日	1	29
ジュニアリーダー「くまっこ」と遊ぼう！	地域の子どもたちが、ジュニアリーダーと楽しく遊び、ジュニアリーダーの活動を地域の大人に知ってもらうきっかけとなった。お化け屋敷やもぐらたたきを運営し、工作やバルーンアートでは日頃の練習の成果を発表した	7 月 20 日	1	162
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識や活動に必要な技能を学習する機会を提供し、子ども会活動の充実と活性化を図った	2 月 14 日	1	71

みんなで学ぼう！「ひろせ塾」	地域に密着した内容など多方面にわたって学習し、センターの周知に努めた。宮城峡蒸留所施設見学、実技「常盤紺型染色」「消しゴム篆刻」講話「エンディングノートの作り方」「広瀬地域の歴史を辿る」	7月4日 9月10、20日 11月7日 12月7日	5	156
老壮大学「若返り教室」	地域の高齢者が、健康で生きがいのある豊かな生活を送るための機会と学習の場を提供した。講話、館外学習など	5月22日 ～3月5日	9	397
ひろせグローバルフェスタ	子どもたちが気軽に世界の文化に触れる機会を提供した。幼児から大人までが一緒に参加できる場を作り、地域全体で子どもたちの国際化を支えるため、世界の食文化やことばなど解りやすいもの、興味を持ち易いもので交流を図った	6月29日	1	280
「愛子の田植踊」を踊ろう～次世代へつなぐ広瀬の伝統～	後継者不足に悩む地域の伝承芸能「愛子の田植え踊り」を伝承していく人材と場を確保するために田植踊保存会、社会学級と連携し、体験会・練習会を実施し、宮城地区市民文化祭や地区まつりで発表した。	7月12日 ～11月29日	8	125
●関山街道フォーラム	関山街道フォーラム協議会と共催し、関山街道沿線の探訪会、転車台見学会、フォーラム、昨年度調査した仙山線の沿線の踏切や史跡などをまとめ、資料集を作成した。	4月29日 ～3月28日	13	430
ひろせ寄席～落語で聞くアンデルセンの世界～	広瀬図書館、広瀬文化センターとの三館共催事業で、それぞれの特色を生かし寄席を開催した。三館が共催することでそれぞれの知名度を高め利用者の幅を広げ地域に開かれた場所を目指した。	7月6日	1	60
第26回広瀬市民センターまつり	市民センター利用団体に日頃の学習成果を発表する機会を提供することで、学習意欲を高めるとともに地域住民との交流を図る。多くの住民に市民センターの事業を知ってもらい、理解を図った。	10月25、26日	2	1,093
ひろせサマーナイトコンサート2014	広瀬地区の夏のイベントを開催し、町内会の協力も得ながら出店などの充実を図り、地域の活性化と地域住民の一層の結びつきを深めた	8月3日	1	1,119
ひろせ懇談会	市民センター事業について地域住民から意見を聴き、地域課題やニーズを探り、市民センターの運営に反映させた。市民センター事業を説明し、理解を得た。	10月2日	1	10
子どもあそびサポーター養成講座	子どもたちが自然あそびをする時にサポーターとして活動できる大人を養成。初夏から初冬まで季節毎に変化する自然を体験しながら、自然あそびのノウハウを学んだ。実際に親子向け自然体験講座とリース作りのサポーターとして活動した	6月6日 7月11日 9月26日 10月18日 11月14、29日	6	25
ジュニアリーダー「くまっこ」定例会	ジュニアリーダーMRVCくまっこの活動を支援し、子ども会等からの要請に対しての連絡調整や責任を持って行動できるよう助言を行った。月1回の定例会と年度末会	4月～3月	13	119
市民企画会議	若者が気軽に参加できるイベントについての企画会議を実施した。	6月28日 8月30日	2	6
★●地域の絆づくり推進事業「きずなカフェ～めざすのは人と地域の輝き～」	災害などの際に役立つ地域の「いい関係づくり」をめざす。「田んぼアート」の実施、曲「カップパダ川」を中心に地域の絆作りの強化を図った。	4月24日 ～2月28日	25	757

宮城西市民センター

〔沿革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「市民センターさ行ってみっぺ」		
参加者	地域住民	延参加者	109 人
開催日	全 10 回 7 月 9 日（水）、9 月 10 日（水）、10 月 8 日（水）、10 月 15 日（水）、 10 月 22 日（水）、10 月 29 日（水）、11 月 12 日（水）、11 月 19 日（水）、 11 月 23 日（日）、3 月 4 日（水）		
協力者・協力団体	熊ヶ根町内会		
ねらい	この地域は交通が不便なこともあり、市民企画員から「高齢者が外出する機会が少なく引きこもりがち」「気軽に話ができる場所」が必要と意見が出された。そこで、地域の方（特に高齢者）が外出するきっかけとなり、町内会のコミュニケーションを深め、地域が元気になる交流の場を提供することを目的とした。		
概要・成果	地域の方が気軽に参加でき、ふれあう機会を増やす『ふれあい広場』を開いた。参加者からは、「介護の合間の息抜きができた」「近所から声がけしてもらい参加できた」等、外出のきっかけになったとの声が多く、回を重ねる毎に参加者が増えた。中には当市民センターを利用していない人も相当おり、新鮮な意見が事業運営の参考になった。平成 27 年 4 月からは『ふれあいサロン』と改名し、地域主体のサロン活動としてスタートする。さらに、約 20 年前に作られ、ほとんど知られていないご当地ソング「熊ヶ根恋歌」の存在を知ることとなり、「市民センターさ行ってみっぺ」～熊ヶ根恋歌を踊ろう～の講座に繋がった。その結果、「熊ヶ根恋歌」の歌と踊りが町内会夏祭りの定番となり、町内会の浴衣も 30 年ぶりに新調されるきっかけとなった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい教室	「青竹を使って流しそうめん体験」・「豆沢川をざぶざぶ歩く」・「栗ひろいといも煮」・「木の实いっぱいリース作り」・「小正月行事 だんごさし体験」	7 月 5、26 日 10 月 4 日 12 月 13 日 1 月 10 日	5	136
仙台作並「回文かるた大会・回文教室」	回文教室・回文かるた大会	1 月 17 日	1	40
自然体験教室	自然散策の楽しみ方「蕃山」・「豆沢川」を歩く・「愛宕山・大旗山・やけ山」を歩く・「蒲沢山」を歩く・「鎌倉山」に登る	5 月 16 日 6 月 13 日 9 月 19 日 10 月 17 日 11 月 7 日	5	82

女性教養講座	軽体操・料理で国際交流・紙折り包み・パッチワーク・ネイチャークラフト	6月4日 7月2日 8月6日 9月3日 10月1日	5	105
出前講座	調理実習・音楽療法とカラオケ・エコクラフトでカゴ編み・押絵作り・ミニ門松作り・指編み・軽体操	6月21日 7月23日 10月23日 11月18日 12月2日 12月12、19日 2月10日 3月11日	9	148
市民企画講座「市民センターさ行ってみっぺ」～熊ヶ根恋歌を踊ろう～	「熊ヶ根恋歌」振付練習・舞台発表（定義山夏まつり・熊ヶ根町内会夏まつり・宮城西市民まつり）	7月17、24、31日 8月3、14日 11月23日	6	121
老壮学級	交通安全教室・講話（地名・歴史）・軽体操・ロープの活用法・クリスマスコンサート・新春寄席	6月19日 7月17日 8月21日 10月16日 11月13日 12月18日 1月15日	7	380
ふるさと映画鑑賞会	映画鑑賞（午前子ども向け・午後大人向け）	7月31日 1月30、31日	5	129
★地域の絆づくり推進事業「ふるさと食だより」	「ふるさと食だより」発刊・「郷土料理と伝統芸能の饗宴」	通年	30	647
創作和太鼓「西部広陵太鼓」	太鼓練習・地域からの依頼により太鼓演奏（曲水の結・広陵ばやし里の秋）	通年	73	1,460
西部地区が輝くプロジェクト委員会	「小正月行事 だんごさし体験」・写真展・「郷土料理と伝統芸能の饗宴」・伝統唄保存	通年	15	740
★地域交流研修会	避難所活動班イメージトレーニング「KIT」	2月28日	1	90
★地域自主防災訓練	地域自主防災訓練①安否確認報告②救護・応急手当③備蓄倉庫器具類の取扱④消火訓練⑤非常炊き出し訓練⑥仮設組立訓練	6月28日	1	215
宮城西市民まつり	演芸発表・作品展示・食品バザー・伝承遊び・野菜即売会・フリーマーケット・ジュニアリーダーと遊ぼう	11月23日	1	2,152
★宮城西地区懇談会	上愛子学区連合町内会・社会福祉協議会・地域団体代表との懇談会	7月16日 10月8日 2月28日	3	203
おらほ自慢	「ふるさと食だより」応援・「郷土料理と伝統芸能の饗宴」調理指導	通年	24	355
市民企画会議「市民センターさ行ってみっぺ」	市民企画講座を企画・開催するための会議・来年度の活動に向けて話し合い	5月14日 8月28日 3月4日	4	21

大沢市民センター

〔沿革〕

大沢市民センターは、平成2年5月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	「昔遊び」ボランティアスキルアップ講座		
参加者	地域住民	延参加者	64人
開催日	全5回 ①8月29日(金) ②9月19日(金) ③10月19日(日) ④⑤11月21日(金)		
協力者・協力団体	仙台市立大沢小学校、仙台ロイヤルケアセンター		
ねらい	大沢地域はボランティア活動が盛んな地域である。大沢小学校1年生の昔遊びの会にも、ボランティアとして地域の方々が、多数参加している。平成26年度は、昔遊びのスキルを深め、地域の幼稚園や福祉施設などへも活動の場を広げていくことで、意欲的な活動が継続的にできるように支援をする。		
概要・成果	他の地域で活動しているボランティアの方々との情報交換や、活動に役立つ実技を学び、新しく学んだことを活かして地域の福祉施設を訪問し、ボランティア活動の場を広げることも行った。例年活動を行っている、大沢小学校昔遊びの会でもより積極的に活動に参加する動きがみられ、次年度以降の継続的なボランティア活動につなげることができた。		

〔平成26年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
コドモフェス	大沢、大竹、川前の児童館3館と市民センターが共催して、地域の乳幼児親子対象に、各館の得意分野を活かした、気軽に参加できるお祭りを実施した。	11月14日	1	82
インリーダー研修会	次年度の子供会リーダーとなる児童と世話人を対象に、子供会活動に役立つ研修を行った。	2月14日	1	17
子どもお楽しみ体験講座	茶道体験、水遊び・とうもろこしバーベキュー、ゲートボールとやきいも体験、もちつき体験、おかしづくりを行い学校や家庭だけでは経験できないことを体験した。	5月31日 7月31日 11月15日 12月20日 1月31日 2月7日	6	130
大沢農学校～無農薬有機栽培で野菜を作ろう Part2～	市民センター内畑を活用して地域人材による野菜作りを実施し、栽培した野菜による料理や保存食作りで受講生同士の交流を図った。	4月26日 ～12月6日	15	197

大沢を取り巻く山の風景	大沢地域や大沢近郊の山々に足を延ばし、それぞれの山の植生や環境の違いを五感で学び、自然を愛する心と参加者同士の交流を図った。	5月23、30日 6月13、27日	4	73
歴史講座 「芋沢界限」	第1回は仙台市博物館市史編さん室との共催で講話を開催、第2・3回は地域の史跡を探訪しながら学習をした。	7月12、25日 9月26日	3	106
老壮大学「大沢朗々学園」	地域の高齢者対象に、音楽、物づくり、館外学習、健康体操、など学習と交流の機会を提供した。	5月15日 6月19日 7月19日 9月18日 11月20日 12月18日 1月22日 2月19日	8	267
スポーツで地域交流 「大沢・川前グラウンドゴルフ交流会」	大沢地区と川前地区の住民が、グラウンドゴルフを通して親睦と交流を図った。	9月6日	1	48
★大沢地域防災講座	避難所運営マニュアル策定支援、地域の防災訓練支援や、保存食づくり、防災に関するワークショップを行い防災力を高め、防災意識の強化を図った。	6月4、14日 10月3日 1月24日 3月6日	5	102
大沢地域出前講座	地域の方を対象に、そば打ち体験、豆腐作り、新春お笑い劇場、こんにゃく作りの講座を開催した。	8月10日 11月2日 1月12日 2月1日	4	142
★童謡ふれあいコンサート	大沢児童館、大沢・川前両地区の社会福祉協議会と共催して、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、童謡コンサートを開催した。	8月22日	1	121
市民企画会議「大沢&川前・地域交流ネット」大沢・川前 あがれ！天旗	市民企画会議から実行委員会に移行して、凧作り・凧揚げ交流会を実施した。	5月13日 ～1月18日	15	220
大沢市民まつり	大沢地域住民が主体となり、実行委員会を設け、展示発表、舞台発表、子どもコーナー、昔遊びコーナー体験コーナーなどを行い住民相互の親睦と交流を図った。	10月18、19日	2	2,539
大沢地域懇談会	地域の町内会、学校、諸団体を対象に、市民センターの事業内容及び運営に関する意見交換や、地域情報の収集を行った。	7月11日 2月27日	2	36

落合市民センター

〔沿革〕

平成 6 年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道 48 号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設、更には大型商業施設も整備され、人口が増加している地域でもある。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	宮城広瀬高校連携事業「いってみよう！やってみよう！広高タイム」		
参加者	地域住民、小学生	延参加者	80 人
開催日	全 8 回 8 月 12 日（火）、8 月 15 日（金）、9 月 6 日（土）、10 月 12 日（日）、 11 月 29 日（土）、12 月 25 日（木）、12 月 26 日（金）、2 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	宮城県立宮城広瀬高等学校		
ねらい	市民センターが地域にある高校と連携して事業を行い、地域と学校をつなぎ、学校の持っている設備や人材、特色を活用することで、生涯学習の幅が広がる。また、高校生が学校の中だけでは体験できないことをする機会を提供する。		
概要・成果	「卓球に挑戦」「書き初めに挑戦」においての指導は、卓球部、書道部の部員だけではなく担当の先生方も積極的に関わっていただいた。「広高祭に行こう」は事前に参加対象に合わせた見学コースを考えてもらい充実した見学ができた。2 児童館との連携事業「あそびまるかじり」においても奉仕活動部員の協力が得られ、円滑に進めることができた。また、講座だけではなく、落合・栗生地区まつりのあそびのコーナー「スライム作り」では自然科学部、「ステージ発表」では合唱部に協力を得た。書道部においてはセンターロビーでの展示にも協力をいただいた。このような連携を通して、互いの協力関係を深めることができた。 また、地域の小学生との交流や広瀬高校文化祭見学会には家族単位での参加を募集するなど幅広い世代間交流を促す機会となった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子でおでかけ ～わくわく子育てひろば	3B 体操等体を使ったものから、工作あそびや読み聞かせ、リトミックと多彩な分野にわたり行なった。親子のスキンシップがとれ、仲間もでき触れ合うことができた。	9 月 3、11、25 日 11 月 5、11 日	5	82
あそびまるかじり	スポーツ、音楽、工作と様々なあそびを通して、仲間と交流した。広瀬高校の生徒と関わり、互いに学ぶことも多かった。	11 月 29 日	1	18
親子でニューススポーツに 挑戦	一回目に「エアボール」、二回目は「ドッジビー」を行った。ニューススポーツをとおして、親子のふれあいや、一緒に協力して行う楽しさ、達成感を味わう機会が提供できた。	6 月 14 日 12 月 20 日	2	51

仙台市子ども会インリー ダー研修会	児童は、行事プログラムの立て方やレクリエ ーション・ゲーム等を学び、世話人は、子ども 会についての知識や世話人の関わり方について 学んだ。	2月14日	1	71
職場体験学習	高校生が学校の中だけでは体験できない仕事の 難しさや達成感等を感じ、働く事の意義や学校 での学びの意味を再確認する機会を提供した。	8月5、6、7日	1	2
落合なでしこ学級	女性限定の8回連続講座として、講話、調理、 運動館外学習と、幅広いジャンルで開催した。	5月15日 ～2月18日	8	167
市民企画会議「男性による 男性のための企画会議」	地域のお父さんたちが、「市民センターでやっ てみたいこと」または「子どもたちのためにど んなことをしてあげたいか」を話しあった。出 し合った意見について、講座として開催するた めの検討を行った。	6月21日 7月9日 8月27日 10月22日 12月10日	5	9
落合実年学級	10回にわたり幅広いジャンルで開催。受講生 のアンケートからも満足との意見が多かった。	5月15日 ～2月20日	10	296
七夕かざりをつくろう	七夕の由来や意味を学び、七夕飾りを地域の 人たちや、社会福祉協議会サロン参加者、お茶 っこサロン参加者が、いっしょに作成して、市 民センターのロビーに飾った。	6月27、28日 7月4、10、19 日 8月9日	6	46
★地域の絆づくり推進事 業「みんなの力で地域防 災・減災」	地域懇話会で把握された課題「災害時のネット ワーク構築」と町内会をはじめとする各種団体 の若手役員への世代交代のために、地域で防 災・減災活動の中心となる人材の発掘・育成に つながれた。	10月25日 12月6、12日 3月6日	4	228
落合市民センターまつり	地域住民や市民センター利用者による作品展示 やステージ発表、地域団体による出店など学習 の成果を発表し、地域間の交流を図った。	10月12日	1	1,200
地域懇話会	地域の各種団体、機関、施設の代表者が一堂に 会し、さまざまな角度から情報交換、意見交換す ることで地域のニーズやウォンツを発見・把 握・共有する	10月31日 2月6日	2	36
落合栗生ふれあい工房	地域の福祉施設を訪問し、「紙バンド手芸工作」 を行い、回を重ねるごとに互いに教えあうよう になった。通所者とのふれあいを通じ、互いに 支え合う気持ちを醸成した。	9月5、12、19、 26日 10月3日	5	39
サークル体験講座	当センターを利用するサークル・団体の活動を 見学・体験し、仲間づくりのきっかけの場とし た。	6月20、21、 22、24、25、 26日	6	17

吉成市民センター

〔沿革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成 8 年 4 月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の 2 連合町内会を対象地域としている。現在、高齢化率の上昇に伴って、利用件数や利用者数も増加傾向にある。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	みんなのコンサート		
参加者	どなたでも	延参加者	497 人
開催日	全 2 回 1 月 17 日(土)、 1 月 18 日(日)		
協力者・協力団体	吉成小学校、吉成中学校、南吉成中学校、仙台青陵中等教育学校、東北福祉大学、吉成小学校吹奏楽部 P T A、吉成フォトクラブ		
ねらい	地域にある小学校から大学までの吹奏楽部が一堂に会し、リハーサルや合同演奏会、年齢の異なる子どもたち同士の交流会を実施することで、お互いが学び合う機会とする。また、多くの地域住民が集い学校と地域、地域住民相互の繋がりを感じる交流拠点としての機能を果たす。		
概要・成果	地域住民にとって、「みんなのコンサート」は子どもたちの成長を見ることができる良い機会であり、地域の繋がりを感じられる音楽行事として定着してきている。また、子どもたちにとっても、学校や年齢を越えた演奏や交流は活動の励みとなるとともに、子どもたちの健全な育成に役に立つ行事となっている。なお、吉成フォトクラブに、記録ボランティアをお願いし、地域のボランティアの活躍の場ともなった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
がんばるママのリフレッシュタイム	ハンドマッサージやストレッチで子育てママの心身のリフレッシュを図り、その後、親子でふれあい遊びを楽しんだ。	6 月 25 日 7 月 16 日	2	16
親子で TRY !	お父さんが参加しやすい土曜日に開催し、陶芸や燻製作りで親子の絆を深めた。	7 月 12 日 11 月 1 日	2	44
吉成チャイルドスクール	子どもたちが自由な発想を生かして、工作や青陵校科学部による身近な科学、ロボットのプログラミング、生地から作るビザづくりなどに取り組んだ。	7 月 30 日 8 月 1、6、19 日 12 月 13、25 日	6	91
インリーダー研修	現 5 年生を対象に行事プログラムづくりやジュニアリーダーとゲームを体験、また、世話人向けとして子ども会の理解を深める研修や情報交換を行った。	2 月 21 日	1	29

《青葉区》

中学生職場体験	市民センターの目的や役割を学習し、窓口業務や講座を体験することで、仕事の大変さ、大切さを感じてもらった。	10月29、30、31日	3	3
男塾「楽しみの見つけ方」	地域の森の散策・剪定・写真・バウンドテニス・料理など5つのテーマに挑戦してもらい楽しみ方を提案した。	4月19日 ～9月27日	6	47
市民企画会議「吉成女子会始めませんか」	女性の視点で地域を元気にする講座を企画し運営した。	5月21日 ～2月18日	12	45
吉成散歩	地域の歴史的建造物や森を散策し、地域の魅力に触れるとともに、地域資源の維持管理に努めているボランティアとの交流を深めた。	11月5、19日	2	21
老壮大学「きらめきスクール」	地域の森の散策や、宮城マスター検定、マジックショー、ミニコンサート・健康維持の講座など、多岐に富んだ内容を提供し、高齢者の学びや交流に役立てた。	5月9日 ～2月13日	10	455
ころばぬ先の介護予防	国見ヶ丘地域包括支援センターと共催で認知症・口腔ケア・栄養・うつと4つのテーマで介護予防について学んだ。	8月7、21、28日 9月4日	4	106
★地域防災講座	自助の大切さや備えのアイデア、災害時のストレスを軽減する身体の動かし方を学び、普段の健康維持に役立てた。	9月2、3日	2	23
複数年事業企画「元気いっぱい街づくり・人づくり」	吉成・南吉成学区連合会役員と5回の話し合いの機会を持ち、情報交換や町内会行事への講師派遣などの提案をした。	4月8日 ～2月13日	5	51
ニューススポーツ交流会	吉成・南吉成学区体育振興会と連携し、ニューススポーツで地域の交流を図った。	6月7日 11月22日	2	48
吉成市民センターまつり	当館を拠点に活動しているサークルや各種団体による学習発表や児童生徒によるステージ発表、作品展示、お茶席など。	10月18日	1	832
吉成・南吉成地域懇談会	当館利用のサークルを対象に、各サークルが抱えている問題や、センターへの要望を伺うなど、意見交換を行った。	6月27日 7月8日	2	20
図書ボランティア養成講座	ディスプレイの仕方や本の補修の仕方などを学び、既存のボランティアの意識や技能の向上に役立てた。また、図書ボランティアの活動に興味を持ってもらった。	9月4、11、18、26日 10月2日	5	23
春のサークル体験会	当館を拠点に活動しているサークルに体験会の参加を呼びかけ、10サークルが参加。会員の新規加入の機会となり、また、地域住民に情報を提供できた。	5月8日 ～29日	7	19
市民企画講座「吉成女子会学びあい」	地域の女性を対象にみそづくりや仙台白菜でキムチづくり、また、布ばこづくりを通して世代を越えた交流ができた。	10月1日 ～2月18日	4	91

宮城野区中央市民センター

〔沿革〕

宮城野区中央市民センターは、市内 60 番目の市民センターとして、平成 24 年 8 月に開館した。同施設内には宮城野区文化センター、宮城野図書館、原町児童館及び宮城野区情報センターが設置されている。当市民センターは多くの人々が行き交う宮城野区役所や J R 陸前原ノ町駅に隣接しており、宮城野区における生涯学習の拠点、市民の交流拠点、地域づくりの拠点として、市民活動室なども含め、幅広いニーズに応える施設を備えるとともに、さまざまなテーマの講座やワークショップなど、多様な学びの機会を提供している。

地域の多様な活動を担う人材の育成や地域の諸団体と関係機関とのコーディネート、地域情報の収集・提供などを行うことにより、市民自らが地域課題に向き合い、住み良いまちづくりに取り組むことができるよう支援を行っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●ゆったり運動フェスタ		
参加者	50 歳以上の方	延参加者	69 人
開催日	全 1 回 5 月 28 日 (水)		
協力者・協力団体	原町学区民体育振興会、NPO 法人アミューズおひさま、宮城野区家庭健康課、宮城野区中央市民センター		
ねらい	前年度の市民企画において、高齢者の多い原町地区は商店会も町内会も元気がないことが地域課題として挙げたことから、活気ある地域づくりと仲間づくりを目的とした、気軽に参加できるミドル・シニア世代主役の運動会と交流会を開催する。開催に向けて地域諸団体と共に企画運営することで目的意識を高め、連携による課題解決を目指す。		
概要・成果	市民企画講座として開催した「ゆったり運動フェスタ」には 60 代から 80 代の地域住民が約 70 人参加し、健康体操や講話、4 種目の懐かしい運動会競技を楽しんだ。企画会議、実施に向けての準備、当日の協力など、地域諸団体との連携が図られた講座となり、参加者には多方面から健康を学べる講座となった。また、昼食をはさんだ交流会では当日の運動会の様子をビデオで見ながら、初対面の地域住民同士が親睦を図れる場となった。		

〔平成 26 年度 (地区館) 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこでしたい 4 つのこと～セカンドシーズン	子育て世代が多く住んでいる地域であることから、親子でともに参加できる講座を開催し、楽しさや学びを共有体験することで絆を深め、互いに成長し合える場とした。	6 月 20 日 8 月 23 日 12 月 6 日 1 月 17 日	4	116
●原町ウェルカムひろば	転入者が多い地域において、地域にとけこめない子育て中の親に地域の情報を提供し、親同士の交流の場を設けることで、子育て中の育児不安を軽減し、孤立防止を図った。	9 月 5 日	1	43
インリーダー研修会	子ども会の活性化を図るため、子ども会の核となる 5 学年の小学生及び世話人を対象として、子ども会に関する知識を習得したり、レクリエーションやゲームなどについて学ぶ機会を提供した。	1 月 31 日	1	38

＜宮城野区＞

「すずむしの里学習～小学校出前講座	未来を担う子どもたちに仙台市民の自然愛護の象徴としての「鈴虫」を知ってもらい興味関心を深めることによって地元への愛着心を育てるとともに、小さな命を守り育むことの大切さや自然環境について学んでもらうことを目的とした。	7月1日 8月1日 8月28日 8月29日 11月28日	5	667
ジュニアとあそぼう！	子ども会活動や子どもを対象とした事業において、青少年ボランティアとして地域の活性化に貢献しているジュニアリーダーが工作やゲームなどで遊びの体験の場を提供した。	10月11日 1月10日	2	35
高校生がやって来る！	管轄地域にある高校は様々な特色あるクラブ活動が活発で、高校生の地域社会貢献に対しての学校の理解も得られる。センターにとって、日頃利用の少ない高校生の利用に繋がるとともに、高校生としては学びの地域還元の間とした。	8月1日 8月8日	2	35
中学校職場体験	地域の中学校から依頼される職場体験の受入れを行い、中学生が仕事に対する心構えや責任をもって仕事に取り組むことの大切さを学ぶ機会とした。市民センターの仕事・接遇・講座企画など	8月20、21、22日	1	4
男子うちごはん	働く男性を対象に、食への関心を高めるための講話と調理実習を行った。野菜の量・魚を取り入れた食事・脂質の多い料理があるときの献立の全体バランスなどについて学んだ。	5月15日 6月19日 7月17日 8月28日 9月18日 10月16日 3月12日	7	103
みやぎのブックアソシエイト第2章	読書が本を介して“他者と繋がり合える趣味”へと変容してきたことから、受講者が読書という共通の趣味を通じ、市民センターを拠点とした繋がりを持てる場を提供することで、若い世代も含めた交流の拡大を図った。	1月21日 2月4日 2月18日 3月4日	4	22
みやぎの大学	高齢者が、社会状況の多様化に対応し、一人ひとりの人生が学びを通して豊かになり、健康に過ごすための学習の場の提供と学びを通じた交流を図った。また、社会の一員として地域社会への貢献を支援した。講話・実技の開催。	4月8日 ～3月10日	11	853
原町小学校地元学	地域人材を活用し、次世代を担う子どもたちへ伝統を継承してもらい、子どもたちの地元への愛着心を育んだ。子どもたちと地域住民が交流を持った。3年「原町ランチたんけん いまむかし」4年「弟子入り体験留学」5年「目指せ 宮城野大使！過去・現在・未来」	6月13、27、29日 11月19日	4	359
防災・減災ゲーム体験会	宮城野区文化センター開催する震災復興支援事業に併せて、併設である市民センターとして、この機会に学びを通して復興支援に寄与する防災減災ゲーム体験会を開催した。	3月14日	1	15
●宮城野区中央市民センターまつり～Mフェス	地域の学びの拠点および地域コミュニティの拠点としての市民センターとなるため、地域団体やサークルとともに地域住民が気軽に集い、交流し、学びの幅を広げる機会を提供した。	11月15日	1	1,200
★ロビーコンサート	開館間もない当市民センターが地域での認知度を高め、地域の交流の場を設けるため、また、地域に根付いた市民センターをアピールし、来場者に市民センター事業への理解を深めてもらうきっかけとするため、コンサートを実施した。	8月27日 10月9日 12月7日 2月20日	4	488

★宮城野区中央市民センター地域懇談会	地域課題を把握し、共有し、解決を図るために町内会・地域団体・利用者等と意見交換を行った。	11月29日 3月3日	2	20
ジュニアリーダー定例会	活動拠点とするサークルを広く地域に知らせ、ジュニア活動を活性化させるため、またメンバーのスキルアップと安全で円滑な活動を支援するため、月1回の定例会を開催し、ジュニアリーダーの活動に必要な助言と指導を行った。	4月12日 ～3月14日	12	105
市民企画会議「まなびあい会議 in Miyachu」	昨年度から開催している市民企画会議において、「地域に活気がない」ことが地域課題としてあげられた。今年度は課題解決型の講座を企画開催するため、引き続き「まなびあい会議 in Miyachu」を開催した。	4月16日 5月15日 5月28日 6月25日	4	13
宮城野原案内人講座	宮城野区は「地元学」発祥の地でもあり、その歴史・文化を学ぶことは重要である。地域を知りたいという欲求が高いが、地元をよく知る人材が不足している。そこで、「宮城野原案内人」を養成し、地元の魅力を伝えてゆく人材づくりを目指した。	9月3・17日 10月2・29日 11月26日 3月4日	6	73
みやぎの食育サポーター養成講座	宮城野区家庭健康課で育成し活動している食育サポーターグループの活動の活性化とスキルアップ、更に新たな人材発掘を目的に養成講座を開催し、地域の「食育」活動の充実を図った。	10月1日 10月8日 10月15日 10月22日	4	40

生涯学習支援センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和21年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたのが始まりで、昭和24年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和48年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和58年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成26年4月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成26年度より近接する榴ヶ岡市民センターの出前講座として実施している。

高砂市民センター

〔沿革〕

高砂市民センターは、昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し、高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には近年大型複合施設、大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んでいる地域である。平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で大きな被害を受けたが、平成 23 年 11 月に策定された仙台市震災復興計画のもとで、現在急ピッチで復旧・復興が進んでいる。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	★●震災復興地元学		
参加者	成人	延参加者	206 人
開催日	全 20 回 4 月 10 日（木）、4 月 24 日（木）、5 月 16 日（木）、5 月 28 日（木）、6 月 11 日（水）、6 月 27 日（水）、7 月 30 日（水）、8 月 27 日（水）、9 月 11 日（木）、9 月 18 日（木）、9 月 25 日（木）、11 月 5 日（水）、11 月 19 日（水）、11 月 30 日（日）、12 月 5 日（金）、1 月 28 日（水）、2 月 23 日（月）、3 月 3 日（火）、3 月 10 日（火）、3 月 17 日（火）		
協力者・協力団体	未来につたえたい中野・岡田の会、宮城野区まちづくり推進課、高砂 1 丁目公園仮設住宅自治会、港町内会、南蒲生町内会、新浜町内会		
ねらい	震災のため、宮城野区の沿岸部にある中野・岡田地区は、自然や生活が一瞬にして大きく変化、または喪失してしまった。その地に住んでいた人々が自分のふるさとを記憶にとどめ、誇りを持ってふるさとを語ることを通して、震災に対するさまざまな気持ちと向き合い、折り合いをつけ、未来を考える一助とする。また、この地区の状況を広く知ってもらうため、震災前の日常生活と震災後の生活の動きを記録に残しておく。		
概要・成果	平成 25 年度に地域住民などにより「未来に伝えたい中野・岡田の会」を結成し活動を開始した。会では地域の町内会・仮設住宅自治会に取材等の協力をお願いし、平成 25 年 12 月 4 日の震災 1,000 日目には「ふるさと蒲生写真展」を開催した。来館者からの聞き取り調査を行い、それに基づき平成 25 年度末にはスタート号「未来に伝えたいふるさと蒲生」を 4,000 部発行。平成 26 年 10 月には被災した岡田地区について取材し「未来に伝えたいふるさと岡田」を 4,000 部発行し、市民センターまつりで展示発表及び配付を行った。また、高砂 1 丁目公園仮設住宅の記録や港地区に焦点を絞り、平成 26 年度 3 月末に冊子「未来に伝えたいふるさと港」を 4,000 部発行した。 地域住民が冊子作りに参加したことにより、震災から復興までの様子を自ら客観的に捉え、復興への思いとこれまで住んでいたふるさとへの思いを伝えることができた。また、「未来に伝えたい中野・岡田の会」は様々な場所で冊子を紹介し、被災者の思いを伝える役割を果たしている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●地域子育てサロン出前講座 親と子のほっとタイム	市民センターに通う事が難しいが、学びたい気持ちを持つ母親達からの要望で、子ども達とふれ合いながら学習する機会を提供した。	5 月 18 日 ～12 月 25 日	6	199

＜宮城野区＞

★高砂子育てサロン ～子育てママの元気塾～	子育ての知識を学び、親自身のセルフケアや子どもと一緒に楽しい仲間づくりを目的に講座を実施した。また、高砂地区で社会福祉協議会が実施している「子育てサロン」と連携を図り、市民センターを知ってもらうきっかけづくりとした。	7月25日 ～1月30日	9	333
市民企画講座「地域の達人に学び隊～地域行事や暮らしのあれこれ～」	高砂地区は子育て中の若い世代が多く、転入者たちは早く地域に馴染むための交流場所や仲間づくりを必要としている。そこで、子育て中の若い親たちが企画委員となり今自分たちが必要としていることを企画し、地元の「知恵袋」を持っている達人たちから話を聞くサロンを開催した。	1月16日 ～3月21日	5	314
地域小学校連携講座 「夏休み学びの講座」	小学校と連携し、児童・保護者が参加する様々な分野の講座を開催し、夏休み中の子ども達に学びの場を提供した。地域サークルの方や高砂中学校のクラブ活動の生徒が講師となり、小学生との交流を通じて地域における青少年健全育成および地域交流を図った。	7月29日 ～8月4日	12	245
宮城野区インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション・ゲーム等の学習をし、子ども会活動の充実を図ることを目的とした。	2月21日	1	31
中学生職場体験学習受入	人との関わりを大切にしていくなかで、生徒の勤労観・職業観、自立の力を育み、確かな学力の向上を図るための「仙台自分づくり教育」の一環として、中学生の職場体験を実施した。	11月11日 ～11月20日	6	30
たかさごキッズクラブ	地域の人や高砂中学校の部活動やジュニアリーダーを生かし、小学生と中学生との交流を図り、中学生には地域のボランティア活動のきっかけづくりとした。また、高砂地区老人クラブ連合会と連携して体験学習を行い、世代間交流を通して青少年健全育成を図った。	5月31日 ～3月7日	6	162
高砂老壮大学	地域の高齢者が生涯において学習を続ける意欲を高め、いきいきと暮らすために、生きがい・健康増進・予防介護・教養を中心とした学習の場を提供し、学びを通して、受講生同士の交流と親睦を図った。	5月21日 ～2月19日	10	1,262
★高砂サローネ 2014	東日本大震災から3年、少しずつ地域の復興へと歩みは始めているが、まだまだ支援が必要な状況の中、地域の様々な立場の住民が気軽に一緒に学び集う事でお互いの立場を理解しながら地域交流を図り、絆を強固にしていくことを目的にサロンを開催した。	5月4日 ～3月38日	13	2,332
★三館連携事業 地域の絆「講」の再発見 ～旧高砂村の講を探るⅡ～	東日本大震災を経験し、地域の結びつきの大切さを痛感している今、この地域で行われてきた多様な「講」に着目し、「講」の果たしてきた役割、これに関する伝統文化、習俗を学び、この地域の特性を明らかにし、これからの地域コミュニティづくりを考察する機会とした。	12月13日 ～1月22日	2	90
★高砂小学校区地元学	子どもの頃から高砂地域や歴史に興味を持ってもらうため、小学校・地域・市民センターがお互いの持つ知恵や地縁を使い、子ども達が地域の方々から学ぶ機会とした。	4月25日 ～3月6日	14	1,262

《宮城野区》

★高砂市民センターまつり	地域住民相互の交流を図るため、各世代が参加して楽しめるイベントを開催した。市民センター利用サークルの学習成果発表の場となり、また、保育所・幼稚園並びに小中学校の児童の作品展示やステージ発表を通じて地域における青少年健全育成の一助とした。	10月25日 ～10月26日	2	16,123
★いきいき高砂！みんなで手をつなごう	高砂地区社会福祉協議会と共催して、まつりを開催し、多くの人たちが集まり交流を深め、地域住民が相互理解し、笑顔を取り戻す機会とした。また、遠方に住む被災者もまつりを通して再会し、旧交を温めた。	12月6日	1	2,520
★高砂市民センター懇話会	高砂地区の大きな変化について町内会をはじめとする各団体と情報交換し、地域の課題を見出し、地域住民と共に意見交換を行った。	11月15日 2月24日	2	30
ジュニアリーダー「高砂フレンズ」定例会	ジュニアリーダーの活動への助言や相談を行った。高砂フレンズクラブには子ども会からの要請も多く、内容の確認と役割や活動の報告を行い、交流を図った。	4月5日 ～3月8日	11	40
図書ボランティア養成講座	多くの利用者が本に親しみ、子どもたちの成長に役立てる図書室を運営するためにボランティアを養成し、図書室の活性化を図ることを目的とした。	6月25日 ～7月9日	3	27
「じいじとばあばの知恵袋学び隊」企画委員会	子育て中の若い親たちは、さまざまな悩みや疑問を抱えながら手探りで日々生活している。暮らしの中の疑問や悩みを解決するために、世代を超えた関わりを持つことにより、より良いコミュニティづくりに繋げていくことを目的とした。	11月5日 ～3月21日	7	32

岩切市民センター

〔沿革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。平成 18 年 6 月から 12 月まで大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩いの家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	歴史のまち・岩切の四季		
参加者	どなたでも	延参加者	81 人
開催日	全4回 4月 19 日(土)、7月 12 日(土)、11 月 1 日(土)、1月 24 日(土)		
協力者・協力団体	岩切歴史探訪の会、JA岩切婦人部		
ねらい	岩切地域は旧くから政治や交通の要衝であり、数多くの史跡が現存する。また四季を通して自然豊かな風景が広がる。そこで、四季折々の風景に絡めながら史跡を巡ることで、地元岩切への愛着を深めると同時に、その歴史や文化を継承する心を育む。		
概要・成果	地元岩切だけでなく、区を越えて多くの受講申込みがあり、多くの方に岩切の自然や歴史を紹介することができた。講師となった「岩切歴史探訪の会」会員の丁寧な解説と充実した資料の提供により、参加者からリピーターとして再び岩切を散策したいとの声が多く聞かれた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
いのちのエコ教室	現代において、たくさんの物が使い捨てされている現状がある。そこで革の端切れなどを使い、命や物を大切に扱う気持ちを育んでもらうためのワークショップやものづくり体験を行った。	8 月 5 日	1	37
たのしく食べてゆめりと子育て	若い子育て世代を対象に、限られた時間で規則正しい食生活を身につけるための講話と簡単レシピの紹介、試食を行った。	12 月 5 日	1	4
簡単！おいしい朝ごはん	子どもの朝食の欠食や偏食による健康問題が増大しているため、食について見直し、朝ごはんの重要性を知るため、親子で調理実習を行なった。	11 月 29 日	1	29
家庭教育地域交流会	岩切地域の家庭教育の普及と発展、内容充実のため、地域と深いつながりを持つ 6 団体が一堂に会し、情報交換や地域課題を探り、その課題について解決のための話し合いや講座の企画等を行った。	6 月 11 日 7 月 3、30 日 8 月 5 日 9 月 3 日 10 月 3 日 11 月 29 日 12 月 10 日	8	73

＜宮城野区＞

子どもの広場	地域の人材を含めた豊富な資源を活用し、遊びや体験の場を提供した。①理科実験室②スポーツチャンバラ③親子でそば打ち	7月25日 9月27日 11月22日	3	61
インリーダー研修会	地域における子ども会活動の活性化を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に子ども会についての研修やレクリエーション・ゲーム等を実施した。	1月31日	1	40
中学生 職場体験	職場での仕事を体験しながら多くの人と接することで勤労観・職業観・自立する力を養うため、講座の企画・準備、環境整備、ポスター掲示等を実習した。	10月22日 ～10月25日 10月28日	1	5
図書室へ行ってみよう！ ～図書室四季カフェ～	読書の楽しみを知り地域資源であるセンター図書室を有効に活用してもらうため「四季カフェ」を開催した。①ちょっと怖い話を聴いて涼しくなる②オータムコンサート③冬のおはなしを楽しもう④ギターと朗読のコンサート	7月30日 9月6日 1月7日 2月14日	4	91
市民企画会	新旧地域住民が気軽に集い交流を深める「お茶っこサロン」を開催するための企画・運営等を行った。	7月2、17日 11月14日 12月6日 1月9日	5	16
★岩切老壮大学院	地域の高齢者のニーズにあったさまざまなジャンルの講話や館外学習・音楽鑑賞等の学習の場を提供した。交通安全・詐欺注意・健康作り・食生活・防災講話、軽体操、歌、朗読他。	4月16日 ～3月11日	12	608
★岩切老壮大学	高齢者が社会的な関心を抱き、生き生きとした生活を送るための学習を提供。健康や防災に関する講話、音楽・雅楽鑑賞、茶道の体験、歴史散策を実施した。	4月18日 ～3月13日	12	557
★すずむしリンリン講座	仙台の虫である「すずむし」を育て自然のなかで自生できるよう活動を継続していくことで、自然環境に興味・関心をもってもらおう。配布会、実験放虫、小学校出前授業、コミュニティまつり参加、コンサートを実施した。	8月26日 8月21日 9月2日 9月6日 10月26日	5	866
市民企画講座 どなたさまも寄って亭 ～お茶っこサロン in いわきり～	幅広い年代の住民に交流してもらうことを目的として、東北大学・東北学院大学の落研による落語会と、お茶のみ会を行なった。	12月6日	1	44
そこ危ないよ！地図作り（水害編）	地域で活動する仙台地域防災リーダーを講師に迎え、水害や洪水を想定した日頃の備えについての講話と各町内会の水害ハザードマップの作成を行った。	2月21日	1	38
●いわきり子育てネットワーク 「岩切子育て会議」	子育て支援のために、「親子でわいわい広場」を開催し、読み聞かせや親子体操、工作等を行った。また「岩切コミュニティまつり」に参加し「いわきり子育てネットワーク PR」と、子育て支援に関する情報の提供を行った。	6月25日 10月26日	2	76
岩切小学校地元学地域連携事業	小学生に地域への愛着を深めてもらうことを目的として、岩切歴史探訪の会から小学生が地域で伝統的に栽培されている苧麻について学習し、ミサンガやコースターを作成した。	9月17日 10月8日 10月22日	3	141
みんなのニュースポーツ	昨年度行った種目から「ディスゲッターナイン」「グラウンドゴルフ」を選択し、室内・屋外で実施した。スポーツを楽しみ、技術の高め合いができた。登録者以外の方の飛び入り参加もあった。	5月17日 ～12月20日	7	106

＜宮城野区＞

岩切市民センターまつり	岩切市民センターを拠点に学習しているサークルや地域の各種団体が舞台発表、展示及び出店などを行い、日頃の学習成果を発表した。また地域住民との交流を深めた。	10月11日 10月12日	2	1,700
岩切地域懇談会	市民センター利用者、地域住民、地域諸団体等と、防災情報を含め地域づくりや地域課題などについて情報交換し、地域課題・市民センターとして取り組むべき課題を明確にして事業運営に反映させた。	6月12日 11月14日 2月19日	3	33
すずむしボランティア養成講座	すずむしの里づくり実行委員の高齢化により、後継者の育成を目的に養成講座を実施した。ボランティアについての講話、各種行事の体験、すずむしの飼育体験。	6月17日 7月26日 8月21日 9月2、6日 10月26日	6	23

鶴ケ谷市民センター

〔沿革〕

鶴ケ谷地区は、大型のモデル団地として昭和 43 年に入居を開始した住宅団地で、鶴ケ谷市民センターは、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として昭和 47 年 5 月 22 日に開館した。

その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を受け各種の講座が開設されたが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年、市民センター・公民館として発足してからのことである。

平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

建物は、平成 23 年 3 月の東日本大震災により使用不能となり、平成 24 年 3 月より会議室 2 室を備えた仮事務所で生涯学習事業を行っている。その後、移転新築の計画が進み、平成 27 年 1 月に新館建設工事を開始した。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★地域の絆づくり推進事業 「私たちの鶴ケ谷 これまでを学びこれからを考えよう」		
参加者	どなたでも	延参加者	135 人
開催日	全 14 回 5 月 27 日(火)～3 月 18 日(水)		
協力者・協力団体	東北大学大学院 情報科学研究科、黒松ビデオクラブ、鶴ケ谷ショッピングセンター 鶴ケ谷地区町内会連合会		
ねらい	鶴ケ谷地区は昭和 42 年に山を削っての団地造成からはじまり、四十数年が経ち、町並みの変化と高齢化が進む。本講座では鶴ケ谷地域のこれまでのあゆみや現状を学び、地域の将来をともに考え、それを実現するための話し合いをする。また、新旧住民・異世代間の交流を促進し、鶴ケ谷地域の新しいまちづくりのリーダーとなる人材を発掘・育成する。		
概要・成果	平成 25 年度に収集した、写真や情報などを手がかりとして、分野別に鶴ケ谷を紹介するビデオクリップを作成した。また、鶴ケ谷の移り変わりがよく分かる昭和 33 年から昭和 60 年までの地図パネルを作成し、ビデオクリップと共に公開講座で紹介した。 受講生は学習の中で、鶴ケ谷の移り変わりや地域資産、外に向けて誇れる良いところを知ることができた。公開講座の開催では活動成果を地域に還元でき、また移り住んできた方や若い世代の親子連れの参加もあり、住民同士の交流が促進された。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママといっしょ ギターとおはなしコンサート	鶴ケ谷東地区民児協と連携して、子育てサロンのひとコマにギターとお話のコンサートを出前し、未就学児親子が民児協スタッフとともに手遊び・絵本の読み聞かせ・歌などを楽しみ交流した。	8 月 20 日	1	41
インリーダー研修会	子ども会の 5 年生向けに、インリーダーの役割と心構えについての講話とプログラム作り研修、世話人向けに子ども会の活動についての講話、全員で子ども会活動で使うためのゲームを実践した。	2 月 21 日	1	67

＜宮城野区＞

つるがやキッズクラブ	仙台三高 SSH の生徒を講師に迎えた科学実験、全日本独楽回しの会の会長からコマ回しを学ぶことなどを通して、世代間交流や異年齢交流を行った。また、ジュニアリーダーの研修も兼ね、身近な材料でできる、動くおもちゃを作った。	7 月 26 日 9 月 27 日 12 月 13 日	3	57
★出前講座「君もプチレスキュー」	鶴谷中学校 3 年生、西山中学校は 1 年生対象に災害時のボランティア活動を行うことができるよう、知識や技術を体得することを目的に、救急救命措置、D I G、仮設トイレ組立、災害弱者擬似体験、避難所開設と運営、防災カードゲームなどを行った。	5 月 20 日 10 月 21 日 11 月 13、14 日	4	312
キャップハンディ体験	管内 4 つの小学校、4 年生対象に障害を持つ人の生活や生き方等を聞き、障害者の擬似体験を行った。内容は聴覚障害者、視覚障害者、車イス生活されている人の話を聞き、手話や白内障が体験できるメガネなどを用いて体験した。	7 月 1、15 日 9 月 4 日 10 月 30 日 11 月 4、25 日	6	267
鶴ケ谷ことぶき大学	講話「ブラジル移民と文化交流」「人間ドッグのすすめ」「北極圏で見たオーロラ」「これからの年金」 実技「楽しい川柳」「中学生と NIE」 仙台市博物館館外学習 コンサート 茶話会	5 月 21 日 ～2 月 18 日	10	548
ひょうたん沼を楽しもう	森林インストラクターを講師とし、市民センターの講座から立ち上がった「鶴ケ谷ひょうたん沼楽校」のメンバーも活躍して自然観察会を開催し、地域住民にひょうたん沼の魅力を伝えた。	8 月 2 日 11 月 1 日 1 月 17 日	3	43
●宮城野区役所連携「鶴ケ谷地区健康まちづくり事業」	推進委員になっている各種団体長へ、区より鶴ケ谷地区の復興住宅や市民センター、コミュニティセンター建設に関する説明を行い、各種団体との情報交換を行った。	3 月 5 日	1	11
市民企画会議「交流の場をつくろう！」	地域住民に安心して集える仲間づくりの場を提供するため、「鶴ケ谷市民センターサロンお茶っこ会」を企画・実施した。	5 月 14 日 ～3 月 4 日	11	84
鶴ケ谷市民センターサロン お茶っこ会－友だちづくり、仲間づくり－	市民企画会議「交流の場をつくろう！」を経て実施した講座。大正琴・ハーモニカ・ピアノなどの演奏を聴いたり楽器に合わせて歌ったり、講話・ゲーム・落語などを楽しんだ後、お茶を飲みながら交流した。	7 月 2 日 8 月 6 日 9 月 3 日 10 月 1 日 11 月 5 日 12 月 3 日 2 月 4 日 3 月 4、18 日	9	320
★鶴ケ谷市民センターまつり	鶴谷小学校体育館を会場に実行委員会形式で開催した。ゲスト演奏者や地域のコーラスやダンスのサークルによるコンサートの他、地域サークルの作品展示・活動紹介・情報掲示なども行った。	10 月 25 日	1	300
★鶴ケ谷市民センター地域懇談会	1 回目は市民企画会議に参加された受講者、2 回目はまつり実行委員会に参加された各種団体長・地域サークル長へ事業方針、講座の説明を行い、地域の課題などについて話し合った。	5 月 14 日 11 月 5 日	2	21
ジュニアリーダー定例会	「鶴ケ谷 Yourself」の定例会を月 2 回開催した。子ども会や児童館、市民センター自主事業などの要請についての話し合い、三送会の実施などを行った。	4 月 12 日 ～3 月 28 日	18	38

榴ケ岡市民センター

〔沿革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、楽天 Kobo スタジアム宮城などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	こあなる～む		
参加者	幼児と保護者	延参加者	117人
開催日	全 6 回 6 月 20 日(木)、7 月 10 日(木)、8 月 28 日(木)、9 月 26 日(金)、 10 月 10 日(金)、11 月 14 日(金)		
協力者・協力団体	五城保育園		
ねらい	親子遊びを通して、親と子のかかわりや同じ年代同士の交流を促進する。また、託児付きで学習する場を設けることにより、親自身の学習の機会を提供し、楽しく充実した生活の支援を行う。		
概要・成果	前半は、地域の保育園の協力もいただき、親子でリラックスして遊ぶ時間と地域の子育て情報を提供した。後半は、託児付きで、子育て中の気持ちの受け止め方などを学んだ。講座終了後も、ゆっくり交流できるように設定したので、子育て仲間として支えあえるような活動を望む声が上がリ、活動が続いている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
東口ゆうえんち	社会人と学生によるボランティアスタッフの企画と運営で、少人数で遊ぶことの多い小学生に大人数で遊ぶ場を提供し、社会性や公共性を身につける機会とするため、ぎょうざ作り、キンボール遊び、迷路遊び、お化け屋敷を開催。	7 月 19 日 9 月 6 日 11 月 2、3 日 2 月 14 日	5	333
インリーダー研修会	榴岡小地区の子ども会を対象に、子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダー候補および世話人に、子ども会についての知識やレクリエーションゲームなどの研修を行った。	2 月 28 日	1	55
地域が伝える「平和学習」	榴岡小 6 年生を対象に、戦中戦後を生きてきた地域の方から生の声を聞くことで、戦争の悲惨さを知り、平和・命の尊さについて考える機会を提供した。あわせて、戦災復興記念館の収蔵品、パネルを鑑賞した。	11 月 28 日	1	93
写真講座「カメラとぶらり、東口」	主にデジタルカメラの撮影の基礎を学び、日々変遷する東口地域の風景を記録した。新旧の魅力を併せ持つ地域の情報を発信した。日常的に東口の様々な風景を紹介する写真を展示する仕組みを作った。	5 月 30 日 ～10 月 3 日	10	174

＜宮城野区＞

榴ヶ岡老壮大学	歴史、文化、健康、施設見学など時代に即した講座を実施し、地域の高齢者に「学びの場」「交流の場」を提供した。運営委員会を組織し、主体的に企画運営に携わることを促し、更なる学習意欲の向上を図った。	4月17日 ～3月5日	12	813
介護予防講座「東口ますます元気教室」	介護予防のため、地域団体と共催し、食に関する講話や実習・ヨガや3B体操などの運動、昭和の音楽を聴く歌うなど、生活する上での健康増進や前向きに生きる気持ちの手助けをした。	5月28日 ～1月28日	9	350
未来に遺そうすずむしの里	自然環境を守り、貴重な財産としてすずむしを未来に引き継ぐことを目的とし、市民へのすずむし配布会、榴岡小4年生対象の出前授業、榴岡公園エントランスで野外のすずむしコンサートを実施した。	8月9、27日 9月27日	3	502
★東口パフォーマンス広場	多様なサークルに発表の場を提供し、地域の方々が気軽に音楽やパフォーマンスに親しむ機会とするため、吹奏楽や合唱などのコンサートを4回、ジャグリングやダンスのパフォーマンスを2回開催。	5月17日 7月12日 9月27日 11月15日 1月17日 3月14日	6	429
東口ガイドボランティア企画講座「東口まち歩き～宮城野さんぽみち～」	地域の魅力を伝える「東口ガイドボランティア」の案内によるまち歩きを開催したことで、市民が東口界隈に興味・関心を持つきっかけとなった。まち歩きリピーターも増え、「東口ガイドボランティア」の活動がさらに認知された。	4月25日 ～3月28日	10	351
「萩こぼれて」企画会	近隣の3社会学級(榴ヶ岡小・原町小・宮城野小)と交流を深めながら、地域課題の見直し、解決に向けて、日々の取り組みを地域へ還元するための場を企画運営した。	6月5日 7月17日 8月5、26日 10月21日 3月13日	7	35
★榴岡地域団体共催事業	地域団体と2事業開催。地域住民が気軽に集い交流出来る事業を継続開催としコンサート名を「ハートフルステージ in 榴岡」と決定。今年度は近隣の高校生部活動(フラダンス・太鼓)を披露。地域の安全を目的に「普通救命講座」を開催。	6月6日 7月11日 9月20日 12月5日 2月14日	7	359
平成26年度 榴ヶ岡市民センターまつり	30団体で実行委員会を結成。すずめ踊りやジュニアリーダーとボランティアによる工作、囲碁将棋体験等が加わり、体験コーナーの充実を図った。舞台発表や作品展示・出店も幅が広がり、交流の場を提供した。	10月25日	1	900
★榴ヶ岡市民センター地域懇談会	管内連合町内会・社会福祉協議会・民生児童委員・小中学校・児童館・講座受講生・利用団体代表が参加した。今年度の運営方針と事業の説明後、意見交換を行った。2回目は、実施報告・27年度事業計画を説明し意見交換を行った。	5月16日 2月6日	2	18
介護予防講座・運動サポーターフォローアップ講座	サークル活動を支えている、介護予防・運動サポーターの技能を向上するため、サポーターが未体験の運動を行った。	9月12日 10月17日 11月14日	3	16
「榴岡地域案内人養成講座」榴岡さんぽみち～案内人編Ⅱ～	地域案内人としてさらに榴岡を学び知識を深めるためと、案内人の人員補充を目的に、春：桜、秋：萩と虫、冬：歴史について学んだ。	5月8、22日 10月30日 11月13日 2月5日	5	102
「榴岡地域案内人養成講座」榴岡さんぽみち～案内人企画講座～	養成講座から立ち上がった「榴岡さんぽみち」案内人による企画講座。企画会15回 案内講座9回	4月18日 ～3月25日	24	113
女性によるビジネス講座企画会	男女共同参画の視点を取り入れ、女性を対象として仕事力や市民力を高めるための講座を企画・運営するため企画会を開催し、市民企画講座「わたしはもっと輝ける」を実施。	4月24日 ～2月28日	19	50

《宮城野区》

東口ガイドボランティア 企画会	地域案内人「東口ガイドボランティア」のメンバーにより、まち歩きの打合せや活動についての話し合いを行った。また知識を深めるための学習会を公開講座として企画・開催した。	4月16日 ～3月24日	21	295
東口ゆうえんち企画会	青少年の健全育成に関心の高い学生、社会人がそれぞれの視点から小学生対象の講座「東口ゆうえんち」を企画・運営し、各々のスキルアップと情報交換を行った。	4月26日 ～2月14日	10	73
萩こぼれて企画講座 手のひらの魔法～ハンド マッサージでコミュニケ ーション～	生活の多様化により希薄になりがちな家族の絆を考える機会とする。手軽にできるハンドマッサージの体験から自然なスキンシップによりスムーズなコミュニケーションづくりの工夫やヒントを学んだ。	10月21日	1	20
わたしはもっと輝ける ～ヒントは自分の中にあ る～	自分らしい生き方や働き方をみつけるため、講話とグループワークをしながら今までの人生を振り返り、なりたい未来の自分に向かって参加者が宣言した。	11月15日 ～2月7日	5	88

東部市民センター

〔沿革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。また、この地域は、JR陸前原ノ町駅・苦竹駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、東北本線、仙石線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄。さらに立地状況としては、宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊苦竹駐屯地などそれぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	地域の絆再生プロジェクト「地域づくり講座」 地域プロデュース「東仙台耀きクラブ」企画「地域ブランドを創ろう！」		
参加者	成人（地域で食育活動を行える方）	延参加者	96 人
開催日	全 22 回 4 月 5 日（土）～3 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	共催：宮城野区中央市民センター 連携：食育サポーターもぐもぐ、東仙台歴史探訪の会、菅野屋関係者		
ねらい	平成 24 年度から区中央市民センターと共催している「住民参画・問題解決型学習推進事業「地域の絆再生プロジェクト『地域づくり講座』地域プロデュース『東仙台耀きクラブ』」の中で「東仙台は何の特性も無く街が廃れていく」と言う地域課題があがった。課題解決の手段として、東仙台ブランドを作ることを通して、地域のオリジナル情報を発信し、地域の可能性を発見すると共に、地域住民が主体的に地域づくりに関わる機会を創出する。また、活動を通して、地域内外から地域への関心を高める。		
概要・成果	東仙台地域には、かつて藩政時代、伊達のお殿様より名物を拝領した菅野屋「案内の名物湯豆腐」があった。それは、調理法を記載した書物がなく、形状を記載した書物や口伝でしか残っておらず、また、記憶する方々も高齢のため、地域の歴史が正しく理解されなくなる懸念があった。 そこで、地域で活動する食育サポーターと連携し、形状や調理方法を関係者への聞き取りや資料を基にして、実際に再現することを試みた。再現の過程をまとめたものは、関係者から承認され、地域に正しい歴史が伝えることができたとともに、技術を伝承する人材を育成することができた。関係者を招いて完成披露会を行い、また、それら一連の取組みが新聞に掲載され、テレビ放映されたことで、地域内外に東仙台地域の情報を発信することができた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
★親子で体験！「苗から作るカレーライス」	地域ボランティアの指導により、畑の畝づくりから種まき、芽かき、除草、追肥、水やり等一連の作業を親子で体験した。収穫したジャガイモ、ニンジン等でカレーライスを作り、講座の参加者で味わった。	5 月 17 日 6 月 7 日 6 月 21 日 7 月 19 日 8 月 9 日	5	108
子育てサロン 「まったりルーム」	公開講座で親子でストレッチのほか、読み聞かせや手遊び・わらべうた等を通して、子どもとの接し方を学んだ。また、子どもを託児室に預け、安心してハンバーグ弁当づくりに挑戦したり、ハーブティを飲みながら先輩ママと懇談し、癒しの時間を過ごした。	10 月 30 日 11 月 13 日 11 月 20 日 11 月 27 日 12 月 4 日	5	86

東部子どものひろば	地域関係各所と連携を取りながら出前講座や地域連携講座等（親子陶芸教室・学校デイキャンプ・小学生料理教室・秋休み親子フットサル教室・天体観察会・新春お笑い会・ひな祭りカフェ・新田昔あそび）を行った	4月～2月	12	842
仙台自分づくり教育 「がんばれ中学生職場体験」	東仙台中学校の職場体験として、2年生男子2名を3日間受け入れた。 市民センターの施設管理業務、生涯学習の講座企画の演習、託児室講座の託児室運営、宮城野区文化センター施設見学等を体験した。	11月11日 11月12日 11月13日	3	6
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダー候補および世話人に、子ども会についての知識やレクリエーションゲームなどの研修を行った。	2月14日	1	50
東部武将隊 「東仙台甲冑教室」	紙製の兜製作を通して、歴史に触れ、受講生達は地元の文化や祭事に興味をもった。兜甲冑教室で講師から、他の地域（白石地区）の町おこしやまちづくりの話などを伺った。	9月7、21日 10月19日 11月2日 11月16日 12月7日 12月21日	7	54
老壮大学「東部いきいきスクール」	自主企画講座による講演会や体操・調理実習・コンサートの他、動物園・裁判所見学の館外学習を行った。	4月16日 ～3月4日	11	404
楽しいシニアライフ 笑顔で元気な毎日を送るために！	新田コミュニティ・センターへの出前講座の他、東仙台地域包括支援センター職員による転倒予防・口腔体操・風邪予防・認知症の予防のテーマ毎の講話に沿った軽体操を行った。	12月3日 1月20日 1月27日 2月3日 2月10日 2月17日	6	161
★鉄道景観を活かしたまちづくりプロジェクトVol.3 「東仙台・苦竹を写真で残そうわが町・わが風景」	新たな視点で地域を観ることで魅力を再発見し、地域への関心を意識づけることを目的とし、写真の撮影方法を学んだ。写真を手立てとした街づくりや東部・苦竹の風物等を撮りながら街興しが出来る方法を話し合った。	6月～2月	5	50
東部市民センター地域懇談会	地域住民によるコミュニティづくりや地域課題の共有を図るために意見交換を行った。 施設利用者の交流、減免登録手続きの説明及び手続きを実施した。	6月24日 2月17日	2	38
★「第20回東部ふれあいまつり」	20回という節目を迎え、舞台発表には東仙台小学校4年生の有志によるコーラスも加わり熱気にあふれ、作品展示も、東仙台歴史探訪の会による調査発表やジオラマ展示などが好評で、ボランティアによるハンドマッサージや大抽選会で大変賑わった。	10月5日	1	1,495
★「仙台七夕を作って飾ろう！」	転勤族や震災で新たな住民となった方、20代から80代の幅広い年代の方たちが、地域の折り紙ボランティアの指導で、互いに教え合い、くす玉づくりに協力し、仙台七夕を作製した。東仙台中・小、新田小の生徒児童の作品もいっしょにJRの駅に飾り地域の人たちに喜ばれた。	7月3、17、24、31日 8月1日	5	89
★「東日本大震災後の地域の活動の記録」	東部センターだよりの「震災復興絆の輪＜絆特集＞2011.3.11東日本大震災を経て・・・」に寄稿された原稿の編集、座談会で編集確認の後、既に発行されている東仙台編に続き新田編の冊子を発行した。	通年	14	64
★地域の絆再生プロジェクト「地域づくり講座」 地域プロデュース「東仙台耀きクラブ」企画 ～伝えたい地域の歴史～再考	現存の地元学冊子を基に再考し、住民が受け継ぎたい地域の歴史や変容を記録すると同時に、地域の方が受け継ぐ地域学として地域調査や資料研究を経て、地元地域への取材等を重ね、冊子として刊行した。	4月～3月	26	230

《宮城野区》

こんにちは東部市民センターです！ 「東部地域ふれあいコンサート」	乳幼児を含む親子・小学生・地域の方を対象にゴスペルコンサートを行った。乳幼児や小学生・保護者・地域住民等が出演者の子どもたちと一緒に歌や歌振りなどを行った。	12月6日	1	50
★みんなで学ぶ「地域で支える東仙台防災ルール」	地域版避難所マニュアル作成を基軸にして、地域防災の組織作りを町内会連合会と共に取り組んだ。関係各所との連携や、主体的に地域が防災に取り組む組織作りができた。	4月～2月	8	150
中学生地域貢献講座 「被害根絶・防犯講座」	東仙台警察署の監修を受け、いじめ防止、おれおれ詐欺・振り込め詐欺被害防止の寸劇で地域の方に注意喚起を訴えた。	8月8日	1	50
「中学生地域貢献講座」企画会議	中学生が地域の課題と考えることや問題を考え、危険回避や課題解決のために講座を企画し、運営を行った。	6月27日 ～8月8日	10	280
★地域の絆再生プロジェクト 地域づくり講座 地域プロデュース「東仙台耀きクラブ」	東仙台耀きクラブから発した「地元学再考」・「地域ブランドを創ろう」のほか、地域での防災関連の講座を実施。耀きクラブの活動としては、各講座参加者や地域住民に向け成果披露会を実施した。	2月3日 3月27日	2	60
食育ボランティア スキルアップ講座	「主体的に地域子ども達に対する食育活動をどのように展開するか」を課題に、「東仙台小学校の給食残食データ」を基に、講座を企画・実施した。講座の内容や運営方法、目的やタイトル設定などを学び自主講座を行うスキルを高めた。	5月8日 6月12日 7月10日 8月7日 8月20日 8月21日（午前・午後）	7	36

幸町市民センター

〔沿革〕

幸町市民センターは、平成5年4月20日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大槻地区と、与兵衛沼、杣江の森などの緑豊かな自然に恵まれた杣江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設とともに、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成26年度には復興公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	さいわい男子会		
参加者	地域の成人男性	延参加者	28人
開催日	全6回 5月23日(土)、8月3日(日)、9月13日(土)、 11月16日(日)、1月10日(土)、2月14日(土)		
協力者・協力団体	さいわい男子会		
ねらい	幸町市民センターの講座をきっかけに地域の父親たちが発足させた「さいわい男子会」が、活動を通して地域に浸透・定着し、地域活性化に貢献していくことを目的とする。		
概要・成果	「さいわい男子会」の継続・発展のために何を行うか、メンバーと市民センターがともに考え、企画・活動した。市民センターの小学生対象の講座「スポーツチャンバラに挑戦!」、「伝統風づくり」のアシスト、町内会と市民センターまつりへの出店（もぐらたたきとアイスパイン販売、焼きそば販売）を行うことを通して、地域貢献を図ると同時に、その存在を地域にアピールすることができた。また自主企画を通して新しいメンバーを加え、次年度以降の更なる発展につなげることができた。		

〔平成26年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ままのリフレッシュ応援講座	育児に多くのストレスと悩みを抱えている親子を対象に、気軽に集い、共に悩みを話し合える子育て支援の場を設定した。スクラップブック、子育てサロン、子育てママのお悩み相談室を開催した	6月20、27日 7月4、11日	4	73
元気にチャレンジ さいわい広場	児童館やNPOと連携し、地域の子どもたちが安心して遊び学べる居場所作りを行った。スズムシの飼育講習、プチ大工、スポーツチャンバラ、探検ワークショップ、風づくり	7月12日 ～10月25日	5	109
わいわい農園	「食」への関心を高め、地域住民の結束力の強化や自己啓発の一助としながら、野菜を育てる喜びと活動への自主性を高めるよう活動した。土作り、苗植え、収穫	4月26日 ～11月1日	6	104
仙台市子ども会インリーダー研修会	地域の子ども会活動を充実させるため、次年度の子ども会活動の中心となる児童や世話人を対象に、子ども会活動の心構えやレクリエーション・ゲームの進め方などについての講話と演習を行った。	2月7日	1	53

＜宮城野区＞

ジュニアリーダーとあそぼう	「児童館まつり」や「市民センターまつり」において、研修会等で得た工作やレクリエーションの知識をブースを担当して行った。もぐらたたき、ポップコーン製造販売など	10月4日 11月16日	2	200
中学生職場体験学習	中学校から依頼された職場体験の受け入れを通して、勤労観、職業観を養うために、窓口体験、サークル体験、講座の企画、講座チラシ作製、プレゼン等を体験学習した。また、市民センターの役割や業務内容を知る機会ともなった。	10月28日 ～11月14日	2	5
幸町生涯大学	地域の高齢者が社会との繋がりを持ちながら、生涯学習・交流の場を提供した。講話、懐かしの紙芝居上演、移動学習、わくわくダンス、新年会など	4月24日 ～2月18日	12	482
ジュニアリーダー定例会	定期的に情報・意見交換を共有する場を提供し、親睦を図った。また様々な要請に対応し異年齢間交流を図った。	4月19日 ～3月29日	12	40
図書ボランティア養成講座	地域の中の親しみやすい図書室にするため、ボランティアとして活動できる人材を養成講座した。講話、施設見学、読み聞かせの実践、定例会など	6月18日 ～3月25日	18	65
市民企画会議	テーマを「地域交流」と設定し、市民企画委員会を開催した。企画会議、国際交流センターとの打合せ、講師打合せなど	6月26日 ～2月6日	8	32
市民企画講座 国際交流「中国編」	幸町は外国人が多く居住する地域であることから、特に多い中国の方々との交流の機会を設け、相互理解を促す場とした。水餃子作り、ヤンコ踊り体験、中国茶の体験と交流	11月30日 12月7、14日	3	57
宮城県障害者福祉センター連携事業 さいわい☆ふれあい講座	障害の有無に関わらず、交流の場を設け相互理解を促す場とした。講話、クワイヤチャイムの実技、演奏発表とマリimba&ピアノ演奏鑑賞	2月4、18日 3月4日	3	31
学校へ行こう隊	学校教育で地域住民との関わりや交流を求められていることから、地域住民が子ども達と一緒に学んだり交流しながら世代間交流の場とした。畑づくり、プールボランティア、手話、しめ縄、キャップハンディ体験、昔遊び	6月10日 ～2月5日	6	53
★地域の絆づくり推進事業 「一人ひとりにやさしい防災の輪」	地域住民とともに、福祉と人づくりの視点から防災対策の構築、人と人がつながる安全なまちづくりを目指して開催した。講話、話合い、リーフレット作成	5月12日 ～2月17日	18	601
★第18回幸町市民センターふれあいまつり	当市民センターを拠点に活動している、各団体・サークルや地域住民の学習成果発表の場とした。サークル地域団体ステージ発表、作品展示、出店など	11月14日	1	2,800
さいわい地域連携事業 ハッピーナイトコンサート	地域の児童館や、子育て支援クラブと一緒に企画し、子育て世代の方達にも親しまれ地域活性化となりうるようコンサートを開催した。	7月2日 ～1月21日	7	110
幸町市民センター地域懇談会	地域内各諸団体との情報交換と意見交換会とし、市民センター事業・運営のご理解・ご協力を頂くための話し合いの場を提供した。	6月3、6、11、 17日 12月3日	5	45

田子市民センター

〔沿革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線(最寄駅:福田町駅)や国道 45 号線等に近い交通の利便性から開発が進み、人口が増加している。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地要件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度には田子西復興公営住宅に 160 世帯余りが入居し、田子西町内会が設立された。平成 27 年度には田子西第二復興公営住宅への入居と集団移転用地への移住が開始となり、平成 28 年度までには約 700 世帯を新たに住民として迎えることとなる。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●田子のきずなステーション		
参加者	地域の方・地域に転居予定の方	延参加者	499 人
開催日	全 32 回 4 月 26 日(土)～3 月 28 日(土)		
協力者・協力団体	宮城野区まちづくり推進課、宮城野区保健福祉センター、高砂市民センター、支えあいセンターみやぎの		
ねらい	地域内の災害復興住宅・集団移転用地への移住者や移住予定者と既存住民の双方が、環境の変化に対する不安を解消して希望を見つけるために、当センターが情報や人の集まる“拠り所(ステーション)”となることを目指す。その中で、新旧住民がともに学びを深め、“田子で仲間をつくり・田子で活躍する”人材としてステップアップしながら、地域へ溶け込むことを目指す。		
概要・成果	「きずな通信」を発行(5 回)し、地域情報や復興情報を発信した。「お茶っこサロン」を隔月で 4 回開催し、地元の方、みなし仮設の方、プレハブ仮設の方の交流の場となり、ミニ講座とセットにしたことで男性の参加者もあった。「ダーツ入門」ではサークルが立ち上がり、高砂の仮設住宅のチームとダーツ大会で交流した。保健福祉センターと共催で「田子のさんぽ道」を 4 回開催し、地元学サークルの案内で地域の史跡も学んだ。誰でも気軽に参加できるよう申込みを不要とした「オープンクラス」は“卓球”(10 回)と“アートサロン”(3 回)を開催。毎回新しい参加者があり交流の場として定着してきている。“卓球”の運営は養成した卓球ボランティアが主体的に関わった。「整頓術(2回)」を託児付で開催。子育て世代と先輩世代の世代間交流の場ともなった。 全体として多様な内容を数多く展開することで、多くの人が参加して交流を深め、共に田子について学ぶ機会となった。		

〔平成 26 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子料理教室	児童館で収穫したカボチャをポタージュに、さつま芋は、スイーツに調理した。苦手な野菜をピザやフリッターにしたら食べられるようになり、親子で食生活を見直すきっかけになった。	10 月 18 日 12 月 6 日 2 月 14 日	3	28
ちょっとひと息タイム～子育てしゃべり場	学校や世代が違う母親達が語り合う場を開催。アンケートの要望より、ネット社会の子育てをテーマに 1 回目おしゃべりし発表した。2 回目はネット犯罪について、3 回目はゲーム脳について講話とおしゃべり会を実施した。	7 月 11 日 10 月 23 日 3 月 6 日	3	73

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童に「子ども会活動について」「行事プログラムの立て方」、世話人に「子ども会活動と世話人の役割」の講話と情報交換を行った。その後「レクリエーション・ゲーム」の実技を行った。	3月1日	1	34
夏の講座	田子小・高砂小の児童に、茶道・朗読サークル・手話・竹とんぼづくり・動物とのふれあい・セグウェイ体験等を市民センターや学校を会場として開催した。	7月23、30、31日 8月1、2日	8	332
中学生職場体験学習	窓口業務・ちらし整理・スリッパ整理・講座資料作成・落ち葉掃き・図書ボランティア体験・講座企画・講座受付・講座写真撮影等を体験	11月11、12、13日	3	6
田子老壮大学	5月の開講式及び記念の健康講話に始まり、軽体操、歴史講話、宮城マスター検定、暮らしの経済、公開講座の人形劇、環境学習、脳トレの実技、音楽など、様々な分野の講義を取入れ学んだ。	5月14日 ～2月4日	10	284
市民企画講座「めんこ、おはじき、竹とんぼ～一緒に遊ぼう会」	おはじき、あやとり、こま、ビー玉、たけらなど自分の体験した遊び方を紹介し合い、交流した。共有したあそびをじどうかんまつり、児童館フェスタ、田子小1年授業、田子小土曜教室で子どもたちに紹介し交流した。	4月12日 ～1月31日	16	194
★三館共催事業 地域の絆「講」の再発見～旧高砂村の講を探るⅡ	旧高砂村で行われてきた「講」について一覧表にまとめシンポジウムを開催し発表した。「講」の行事である「もちふるまい」を再現し、試食をした。	12月13日 1月22日	2	90
★みんなで学ぶ地域防災	町内会単位での地域防災訓練に、地域の11町内会と各種学校や団体が連携して取り組んだ。安否確認、消火訓練、仮設トイレ設置、避難所開設訓練など。また避難所運営についてワークショップ式の学習を行った。	11月9日 1月23日	2	2,175
★田子西復興公営住宅入居者支援事業	地域内の諸団体と「田子西復興公営住宅支援者の会」を立ち上げ、「すいかまつり」「田子西へようこそ」「夕涼みコンサート」「お茶っこサロン」「クリスマス会」を開催し、住民の交流の場を提供した。	7月12、24日 8月23日 9月27日 12月13日	5	326
★田子西地区みらい塾～私たちの仲間づくり・まちづくり～	田子西区画整理地内の公園の利用方法を話題に新しく住み始めた住民同士が交流を深める「原っぱ実行委員会」を開催。七輪や炭火を囲んで各自思い思いの物を焼いて食べながら交流した。	1月17日 2月15日	2	50
市民企画講座「福田町駅のバリアフリー化を考える～未来につながる福田町駅への思い～	建築系の大学生を対象に福田町駅のバリアフリー化のアイデアを募集し、出来上がった6つの設計について模型と画像を使った発表会を開催。学生のアイデアを話題に地域住民がまちづくりについて考える場を提供した。	10月5日	1	108
★たごっ子まつり	田子小・田子中ジョイントコンサート、消防分団などの地域の活動団体やサークル及び主催事業による展示発表とステージ発表、田子小・高砂小・田子中・宮城野高・児童館の作品展示、各町内会による模擬店。	2月21日	1	2,200
★季節のハーモニー～田子で出会えるすてきなコンサート～	6月「庄子眞理子コンサート」10月「出張せんくら」12月「ハートフルクリスマスコンサート」を実施した。	6月28日 10月3日 12月21日	3	421
★復興出前講座「田子西であいましょう」	田子西復興住宅の集会所を会場に「はつらつ運動タイム」「コールT&T」「民謡田子の会」「ダーツ」「たごっ子」のサークル体験会を実施した。	10月9、10、11日	5	113

＜宮城野区＞

田子市民センター懇話会	各町内会長・学校・地域団体と年間の行事等や市民センター事業及び防災訓練についての意見交換を行った。利用団体と市民センター業務全般についての意見交換を行った。	5月22日 7月17日 2月28日	3	41
田子地域連携企画会	田子社会学級、田子中学校PTA、子育て支援クラブと連携し、地域の家庭教育の課題について話し合いを持った結果、様々な世代の母親の交流の場として「子育てしゃべり場」を企画し、運営した。	4月16日 ～3月12日	13	61
★傾聴ボランティア養成講座	3回目までは講話「傾聴と心得」、4回目は実技「ロールプレイ」、5回目は実技「地域の高齢者福祉施設へ」を実施した。	6月5、12、19、 26日 7月3日	5	29
市民企画会議「田子を愛する住民塾」	福田町駅のバリアフリー化のアイデア募集のため仙台建築都市学生会議と交流を図り、「福田町駅のバリアフリー化を考える」を企画・運営した。また、生きがいつくりの講座として「めんこ、おはじき、竹とんぼ」を企画・運営した。	4月12日 ～3月12日	19	132

福室市民センター

〔沿革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	学社連携事業		
参加者	福室、中野栄小の 1 年、4 年、6 年の児童	延参加者	515 人
開催日	全 6 回 10 月 24 日(金)、11 月 21 日(金)、11 月 26 日(水)、11 月 27 日(木)、12 月 4 日(木)、12 月 12 日(金)		
協力団体	高砂第二地区民生委員児童委員協議会、「高砂おたから探訪の会」		
ねらい	当センター管内には 2 つの小学校が立地し、地域の資源や人材を活かした学習機会の充実が求められているとともに、管内の地域住民の学習成果や個々人の経験や能力の有効な活用機会が必要とされている。 そこで、学校との連携事業を通じて、地域住民のマンパワーと児童の学習をつなぎ、体験も交えた地域内の世代を越えた多様な学習機会を提供する。		
概要・成果	地域がつながるためのキーワードは「こどもたち」。そんな考えのもと、地域の方々の協力を得ながら、福室小学校、中野栄小学校との連携事業に取り組んだ。学年毎に適切な内容として「昔あそび体験(1 年)」「地域の歴史ウォーク(4 年)」「戦争体験を聴く(6 年)」というテーマを設定し、地域の方々に講師になってもらい、授業の一環として展開した。 高砂第二地区民生委員児童委員の皆さん、市民センターの講座から立ちあがった「高砂おたから探訪の会」のメンバー、海外で悲惨な戦争体験をした女性など、地域の方々に快く講師を引き受けていただき、子ども達との楽しい交流の時間を持つことが出来た。 反省会では、出席者の中から「こういう取組みの中に、地元の老人クラブも是非、参加させたい」という声が上がリ、中野栄小学校で取組んでいる「学びのコミュニティ推進事業：学コミ中野栄学舎」の昔あそびコーナーに、さっそく参加してもらった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
市民企画講座「子育てママのハッピータイムⅡ」	子育て中のママ企画員の企画運営で、0 歳～3 歳児の親子を対象に「てあしペタペタフィンガーペインティング」「ちびっこまつり」「クリスマスメニューで食材を学ぼう！」の 3 講座を実施した。	7 月～12 月	3	145
インリーダー研修会	子供会のリーダーとして活躍できる児童及び世話人を対象に、子供会活動に必要な児童向けの講義と世話人向け講義、子供会行事で使える集団ゲーム等の実技演習を行った。	2 月 14 日	1	53

ふくむろエハガキ倶楽部	市民センター敷地内を活動エリアとして、興味関心を持った被写体の写真撮影と鑑賞会をや、「福室小PTA夏まつり」の撮影を行い、各自が撮影した素材を使ってミニ写真集や展示ボードなどを作成した。	7月～8月	4	41
市民企画講座 ふくむろおたから見つけ隊！「からむしのミサंगाづくりに挑戦！」	七北田川河川敷や福室農園に生えているカラムシを刈り取り、繊維を取出して編み込んでミサंगाを作るという大変手間のかかる作業を行い、自分だけの手作りミサंगाを完成させた。	7月～8月	2	24
★中学生職場体験学習	「市民センター業務の概要とその業務体験」、「地域防災の取組状況」の講話、講座参加、サークル体験、「災害時に中学生ができること」をテーマに企画書の作成等を行った。	11月	1	4
知って安心介護準備講座～家族が倒れてもあわてないために～	「介護保険制度の概略」の講話、「近隣の施設見学」「移動介助の基本」の実技を行い、最終講座では「介護体験者に聞く」として懇談会を行った。	7月	4	75
市民企画講座 伊達藩のお狩場～南福室界限について～	七北田川の付替え工事で分断された右岸の南福室界限について企画員が企画した講座。「仙台藩の狩りと福室界限」の講話の後、現地を歩きながら神社仏閣等の見学学習を行った。	10月～11月	2	63
★福室老壮大学	「100歳までの生涯現役」「とっておきの音楽祭」「当世終活事情」「高砂の歴史」「生涯現役軽体操」「最新医療を学ぼう」「振り込め詐欺」「名画鑑賞」「仙台弁を楽しむ」「日本舞踊」などの講話と実技を行った。	5月～2月	10	707
ふくむろ和みサロン	高砂住宅西町内会と高砂社協との連携で、高砂住宅西集会所を会場に「あの日あの頃昭和歌謡曲」、高砂東町内会と高砂第2民児協との連携で、高砂東集会所を会場に「声を合わせて皆で発散しよう！」の出前講座を実施した。	2月～3月	2	129
★三館共催事業 地域の絆「講」の再発見～ 旧高砂村の講を探るⅡ～	昨年度より行ってきた「講」の聞き取り調査をまとめたシンポジウムを開催し、「講の果たしてきた役割」の講演、講長による「講」の紹介や調査員の想い等を話してもらった。また、「講を食す」講座では、「北福室青年講秋講」の再現を行った。	12月～1月	2	90
社会学級との連携事業	2社会学級との講座企画、打合せを経て、子どもを中心として地域住民が参加しやすく、演奏と演舞、太鼓の体験も楽しめる「和太鼓コンサート」を実施した。	12月7日	1	50
だれでもサロン”まざらいん”「福室縁芸場」	「児童館児童の特技発表」「サークルのカラオケ」「JA仙台南女性部のおてもやん腹踊り」、歌謡曲、ちんどんパフォーマンスなどの演芸会を開催。住民が気軽に参加し、お茶を飲みながら情報交換が出来る場となった。	1月24日	1	85
★ふくむろ防災塾2014	地域防災リーダーを講師に、町内会長及び町内会防災リーダーを対象に5回の講義と2回の実践訓練（防災訓練・避難所立上げ訓練）を行い、防災認識の共有と防災スキルを身につけた。	5月～12月	7	214
第10回福室市民センターまつり	地域住民の生涯学習発表と地域団体サークルや住民との交流を深める場として、「舞台発表」「展示発表」「出店販売」等を実施した。	11月8日	1	2,600
★地域懇談会	福室小学区・中野栄小学区町内会会長、市民センター利用団体とそれぞれ意見交換の場を持った。町内会会長との懇談会では「防災」と「センターまつり」に絞り、地域の状況を話してもらった。	4月～5月	3	30

《宮城野区》

緑のまちづくり 庭木剪定講座Ⅲ	フォローアップの位置づけだったが、女性を含む新たな参加者が多く、基本的な植栽や剪定のビデオ学習をした後、春編と秋編に分けて市民センター内の樹木や花の剪定の実技を行った。	6月～10月	5	49
ふくむろを知る～福室の歴史を語り継ぐ～	福室の歴史・民俗を、陸奥の古代を中心とした講話と「向田文化財整理収蔵庫」の見学を通して学び、その後、近隣の寺社や史跡、街並みの変遷を探訪する学習を行った。	6月～10月	6	118
市民企画会	「高砂おたから探訪の会」のメンバーが専任となり、検討や学習会を重ねて、地域住民が学習することによって地域への関心・理解を深めていけるような2講座を企画し、実践した。	4月～3月	14	121
市民企画会 「子育てママの市民企画会Ⅳ」	子育て中のママ企画員が、育児中の母親の目線で地域の親子のための講座を企画し、実施した。講座で使用するお面や参加した親子へのプレゼントカード等の作成も行った。	5月～3月	21	130
ぐるっと！ふくむろサークル体験Ⅱ	福室市民センターを拠点に活動しているサークル団体の活性化と活動の情報提供のため、サークルの活動日に合わせて「サークル体験・見学会」を実施した。	5月～8月	10	22

若林区中央市民センター

〔沿革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日、若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。旧建物は児童館・社会福祉協議会等との複合施設となり、「若林区中央市民センター別棟」として運営されている。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●若林区東西線沿線魅力探検隊～水辺編		
参加者	高校生以上	延参加者	137 人
開催日	全 4 回 7 月 19 日(土)、8 月 30 日(土)、11 月 15 日(土)、1 月 24 日(土)		
協力者・協力団体	六・七郷堀サポーターズ、若林区まちづくり推進課		
ねらい	平成 27 年度開業を予定している地下鉄東西線は、13 駅の内 6 駅が若林区にあり、沿線は人や情報の大きな動きがあることが予想されている。それに併せ、若林区が「豊かな楽しいまち」であることを発信する為に、マップ制作やイベント開催などを若林区まちづくり推進課が進めている。 市民センターでは、まちづくり推進課と協力し、若林区の新しいコミュニティづくりに係わる人材の発掘・育成やネットワークの拡大を目指し、平成 26 年度は、水資源について魅力再発見事業を展開し、若林区の魅力発信に取り組む人材の育成を進める。		
概要・成果	まちづくり推進課や地域団体と協力し、若林区の重要な地域資源である水資源についての魅力再発見事業として、堀の歴史や魅力についての講話と、七郷堀や仙台堀の散策を実施した。地元若林区の魅力を再発見してもらうとともに、その魅力を市内外の人たちに伝えることができた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●家庭教育講座	子育て中の保護者が、講話やワークショップを通して、子どもへの理解を深め、保護者が自身を振り返りそれぞれの子育てを見直す学習の場を提供した。	9 月 5 日	1	29
わくわく！ママ・パークー 骨盤矯正ヨガでカラダと 向き合おう！	子育て世代の母親が、気軽に参加し、語り合える場として「骨盤矯正ヨガ」を実施し、ヨガの体験と情報交換の機会を提供した。	9 月 26 日	1	23
子ども会インリーダー研 修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に、子ども会活動についての知識やレクリエーションなどの実技を学習した。	2 月 28 日	1	90
ワカチュウ子どもランド 「ジュニアリーダーと遊 ぼう」	地域全体で子どもの育ちを支援するために、秋休み期間中に実施したイベントの中で、子どもたちの居場所づくりと市民センターを利用するきっかけとなるよう、ジュニアリーダーと一緒に傘袋のロケットを作成し、飛ばすコーナーを設けた。	10 月 13 日	1	100

手づくりおもちゃを作ろう	「おもちゃ病院『ころころ』」の指導のもと、簡単に作ることができ楽しく遊べる車のおもちゃを製作し遊び、手作りすることの楽しさを喚起し、「壊れたら直してまた遊ぶ」を学ばせかけとした。	8月2日	1	24
★南小泉老壮大学教養コース	60歳以上の方を対象に、ともに学びあう場を設定し、心身ともに健康で実り豊かな生きがいのある人生を送ることが出来るように、多種多様な学習の場を提供した。	4月16日 ～3月4日	11	741
★南小泉老壮大学健康コース	60歳以上の方を対象に、ともに学びあう場を設定し、心身ともに健康で実り豊かな生きがいのある人生を送ることが出来るように、多種多様な学習の場を提供した。	4月23日 ～3月18日	11	750
【出前講座】シニア元気倶楽部	地域の高齢者が参加しやすいように近隣の集会所などへ出向き、簡単な運動や健康講話を通して健康に年を重ねる意識の向上を図った。	11月7、8、13日	3	62
仙台七夕に願いを	大笹の七夕飾りを若林区文化センターのエントランスホールに飾りつけ、市民センター、文化センター、図書館が一堂に七夕にちなんだ行事を実施した。	8月2、5、6、7、8日	5	95
★【出前講座】地域げんき倶楽部	仮設住宅やサロンへの出前講座を通して、被災者を支援するため、コンサートや工芸作品作り、お茶のみ会などを実施した。	9月6日 12月7、20日 3月12日	4	161
【若林区内市民センター連携事業】音楽でめぐる若林～タぐれどきのミニコンサート	若林区ゆかりの演奏家の自主的な活動をサポートし、人材育成につなげるために、地域の若手演奏家によるヴァイオリンコンサートを実施した。	7月18日	1	88
●若林区東西線沿線魅力発信事業「若林区東西線沿線魅力探検隊～卸町駅マップ編」	平成27年度に開業を予定している地下鉄東西線の卸町駅界隈を街歩きして、地元ならではの情報を取り入れた卸町駅編マップを作成した。	10月4、25日 11月9日 12月6日 3月1日	5	83
若林区中央市民センター第21回学習発表フェスタ	若林区中央市民センターおよび当館管轄地域で活動している団体・個人の学習成果の発表の場、および地域住民が気軽に集え交流できる場を提供した。	2月15日	1	1,254
●若林区中央市民センター事業懇話会	市民センターの事業を魅力あるものにするために、地域の課題やニーズの聴取を行った。また、市民センターの運営に関する意見を通して、地域住民と共に良い市民センターの運営を考える機会とした。	10月2日 3月19日	3	39
おもちゃドクターフォローアップ講座	おもちゃドクターの新たな取り組みとして「おもちゃ工作」をテーマにしたフォローアップ研修を行い、その指導のスキルを身につけた。講座「手づくりおもちゃを作ろう」ではアシスタントとして活動した。	7月10、24日	2	17
ジュニアリーダー定例会	ジュニアリーダーの活動および地域の子ども会活動の活性化のために定例会を開催した。	4月20日 ～3月22日	12	88
市民企画会議	若い母親の目線による講座を企画・運営する機会を提供し、仲間作りや社会参加へのきっかけ作りとし、実際に講座「わくわく！ママ・パーク」を企画運営した。	5月16日 ～3月20日	16	57
若中サークル案内月間～あなたもはじめてみませんか	展示ギャラリーを使用し、イベントとしてサークル情報の展示や紹介を行い、サークルの活動を広く市民に広報した。ハンドベルの体験会も実施した。	2月1日 ～2月15日	10	120

七郷市民センター

〔沿革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年には「七郷市民センター」と改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、再開した。

近年、七郷地区は、復興公営住宅を含めた荒井土地区画整理事業及び地下鉄東西線の開業を見据えた中での新しい街並みが形成されつつあり、今後の街づくりに向けて市民センターの果たす役割は大きくなっている。新旧住民が交流しながら発展する街づくり・文化づくりに当市民センターは機会と場を提供している。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	★未来への伝言－七郷を語り継ぐ		
参加者	成人	延参加者	110 人
開催日	全 10 回 4 月 26 日（土）～3 月 14 日（土）		
協力者・協力団体	東北大学災害科学国際研究所		
ねらい	震災の記憶の風化を防ぎ、七郷地区のまちの記憶を次世代に伝え、発信していくための語り部ボランティアの育成を目指す。		
概要・成果	平成 25 年度から 3 年計画で取り組んできた事業の 2 年目。平成 25 年度は、七郷地区の歴史について学んだ。平成 26 年度は、東日本大震災による被災の客観的状況やそれぞれの立場での避難・支援の様子を学ぶとともに「語り部」としての活動を視野に入れた学習を取り入れた。また、当市民センターで実施している震災復興関連事業と連携を図り、学習の中に「震災の記憶」で作成した冊子や「定点観察」で撮影した写真等を活用した。受講者同士の交流や学びを通して、まちの記憶を語り継いでいこうという意識が喚起され、ボランティアグループ結成に向けた機運も高まってきている。それぞれの体験を活かし、すでに学校で語り部活動を実践したり、「国連防災世界会議」パブリックフォーラムで発表したりするなど、個々の活動は広がりを見せている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て支援講座 「ママ友作って毎日はずっぴい」	参加しやすい子育ての交流・仲間作りの場を提供した。親子で楽しむアロママッサージ、リラックスヨガ体験、ワイヤーとビー玉のクラフト、応援します！あなたの子育て、親子で運動会	5 月 29 日 6 月 5、12、19、 26 日	5	122
七郷子どもクラブ	子どもの健やかな育ちを支援するため、学校以外での仲間づくりや異年齢交流の機会を提供した。しっぽとり、ドライアイスでおもしろサイエンス、ドッジボール体験、英語であそぼう！、冬の星座散歩	6 月 14 日 8 月 9 日 10 月 15 日 12 月 6 日 1 月 16 日	5	171

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会の知識やレクリエーション等を学習する機会を提供した。子ども会活動について、KYTをしよう！、子ども会と世話人の役割、レクリエーションの進め方	2月21日	1	44
★七郷老壮大学	地域の高齢者の生きがいづくりや学習の場、受講生同士の交流の場を提供した。バス路線再編について、お手玉あそび、防犯講座、漢方のお話、東日本大震災の自衛隊救援活動について、運営委員会企画講座等	4月9日 ～3月11日	12	903
★定点観察 「今と未来をつなぐ」	日々変貌している七郷地域の中で、特に変化が著しい地点をピックアップし、定期的に写真で記録した。撮影地点設定、定例会、写真の館内展示、国連防災世界会議関連展示等	5月8日 ～3月5日	11	63
市民企画講座「楽しい！はたけ塾」	農作業の基礎を学びながら農家の方や受講生同士で交流する場を設け、農産地としての七郷の伝統への理解を深める機会とした。露地・ビニールハウスでの農業実習、収穫祭等	6月14日 ～1月17日	43	458
「七郷学びの応援隊」企画講座 拓けゆく七郷	新旧住民がともに交流する場を提供し、七郷地区の将来への展望を拓く機会とした。地下鉄東西線荒井駅・荒井車庫見学会	10月21日	1	38
★「七郷学びの応援隊」企画講座 七郷発！みんなで学ぶ防災	「仙台発そなえゲーム」を体験し、防災・減災への意識を高める機会を提供した。「仙台発そなえゲーム」の体験、防災グッズの展示	2月14日	1	39
音楽でめぐる若林 ー若林区ゆかりの演奏家によるスペシャルコンサート	コンサート企画グループ「きん・こん・かん」と共催し、演奏家には発表の場、地域の方には本格的な音楽にふれる場を提供した。フルートアンサンブルコンサート	6月21日	1	40
★七郷学びの応援隊	管内小学校社会学級と連携し、地域住民の視点でニーズを反映させた講座を企画・実施した。地域課題の抽出と講座開催に向けての話し合い、講座開催、振り返り	6月18日 ～3月6日	10	27
★●地域の絆づくり推進事業「あの時を忘れないー震災の記憶」	東日本大震災により被災された荒浜の方から、荒浜での暮らしや震災体験等を聞き取り、記録集「荒浜の記憶編」を発行した。また、荒浜交流イベント「秋だ！みんなで芋煮会」を実施した。	5月20日 ～1月16日	23	672
★●復興公営住宅入居者交流事業 ーつながろう！この地で	復興公営住宅に居住する方達が気軽に集い交流できる場を設定し、顔の見える関係づくりへとつなげた。七夕飾りをつくろう、記念植樹&交流会、ハンドベルを聴きながら	7月21日 ～12月3日	3	257
★●七郷市民まつり	各種サークル活動をしている団体の学習成果の発表の場とし、また、新旧住民の交流の機会とした。謝恩即売、展示発表（サークル・中学校）、演芸発表、保健センターまつり、消防展示・体験、バザー、児童館まつり等	11月23日	1	9,500
★アットホームなサロンコンサート	転入者が気軽に参加できる場、旧住民との交流の場となるようコンサートを実施した。ハーモニカと合唱・ジャズのサロンコンサート、荒井東復興公営住宅出前コンサート	12月13日 1月31日 3月7日	3	121

★●七郷地域懇和会	地域課題や学習ニーズを把握するため、懇話会を実施した。町内会と地域課題についての意見交換、地域団体と地域課題についての意見交換	1月23日 3月7日	2	25
ジュニアリーダー活動支援「郷郷七郷」定例会	子ども会活動の支援を中心として活動しているジュニアリーダーの活動を支援した。定例会、実技研修等	5月17日 ～3月22日	10	10
市民企画会議「はたけ塾へいらっしやい」	七郷地域の農業の伝統を守る機運を高め、住民同士または地域の農家の方との交流を目的に講座を企画・実施した。1年を通した畑の講座の企画・管理・運営、振り返り	4月12日 ～2月28日	12	138

荒町市民センター

〔沿革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの老舗街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	ふるさと体験隊		
参加者	小学生	延参加者	113 人
開催日	全 8 回 7 月 5 日(土)～3 月 7 日(土)		
協力者・協力団体	仙台市博物館、広瀬川市民会議、荒町児童館		
ねらい	子どもたちに地域資源（自然、物、人）を生かした、遊び、体験、観察を提供することにより、それぞれの学びの中から自然を大切にする気持ちや生き物の尊さに気づき、遊びの中の科学的原理を考える力を持つことを目的とする。		
概要・成果	全 8 回講座を 4 回ずつに分け、上期は広瀬川での水切石投げ、紙ヒコーキ作り、凧作り、ラジコン体験などを行った。講座は科学的原理や関連する歴史について学び、その後にそれぞれの体験を行った。下期は荒町児童館と連携し、大切な地域資源である広瀬川が育むサケについての学習を行った。子どもたちとともにサケを卵から育て、その様子を観察し、最後に成長した稚魚を広瀬川へ放流した。川で遊ぶことが少なくなった子どもたちには、広瀬川での遊びの体験はふるさとへの愛着を育み、遊びの中にある科学的原理の学習は探求心のきっかけづくりにつながった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
★あらまち子ども企画室	地域に住む小学生が地域や市民センターでの活動の企画・運営などを自主的に行い、その活動を通して社会性を育み、地域で子どもの健やかな育ちを支援した。地域清掃やセンター行事への参加、自主企画イベントの運営などを行った。	5 月～2 月	22	186
あらまち子ども囲碁クラブ	地域の子どもの達に土曜日の活動の場を提供し、囲碁を通して世代間交流やコミュニケーション力の向上を図った。児童館と連携し、多くの子ども達に囲碁を広め、ボランティアによる囲碁の基礎知識、対局の練習、礼儀の指導を受けた。	4 月～3 月	24	224

仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人が、子ども会についての知識やレクリエーション等を学んだ。	2 月	1	86
★荒町いきいき講座	聴覚障害者と手話通訳者学習者を対象に、安心して暮らすための情報交換や震災後の生活変化への対応、非常食実習等について幅広く学んだ。	9 月	3	69
★あらまち町民大学シルバーセミナー	高齢者が社会情勢の変化や地域の繋がりが希薄になっている現状に対応し、心豊かな生活を送るために、館外学習や健康・時事問題等を学んだ。各種クラブ活動の支援を行い余暇活用の充実を図った。	4 月～3 月	11	716
★●防災の力こぶ そなえて守る！	地域防災力を向上させ継続していくため、青少年や成人を対象に最新の防災について学ぶ機会を提供した。それにより地域のネットワークを構築していく人材育成に繋げ、危険予知訓練、救護訓練、サバめし作りなど総合体験型学習を行った。	6 月～2 月	3	30
★地域懇談会	地域課題の共有・解決のためにセンター利用者、地域団体、学校関係者らと意見交換を行った。その結果を市民センター運営や事業に反映させ、地域の活性化に繋げていく。	6 月～12 月	3	29
荒町市民センター・児童館フェスティバル	地域住民と利用サークルの学習の成果を発表する場として開催し、生涯学習及び地域住民とコミュニティづくりの促進が図られた。作品展示、ステージ発表、児童館での子どもの遊び場などを開催した。	10 月	2	3,000
荒町四季物語	荒町を四季を通じて活性化するため、前半は「伝統の仙台七夕づくり」、後半は四季折々の行事にちなんだものづくりを実施し、荒町商店街に飾ってもらい地域交流のきっかけとした。また手話要約筆記を付け、学習のバリアフリーを図った。	7 月～3 月	10	65
五橋地域包括支援センター共催事業「荒町シニア健康講座」	五橋地域包括支援センターと共催することで地域情報を共有し、専門的かつ充実した地域支援につなげ、高齢者の方に関心の高い認知症、介護、運動等について学び、家族の理解を深める機会を提供した。	9 月～12 月	6	75
若林区内市民センター連携事業「荒町ほっと♡こんさーと」	区内の市民センターが連携し、若林区ゆかりの音楽家による活動をベースにボランティアや演奏家の自主的な活動をサポートすることで人材発掘に繋がった。市民センターのPRにも繋がった。	6 月	1	40
★ジュニアリーダー定例会	震災後、地域の中高生のボランティア活動はより注目されてきている。ジュニアリーダー活動のスムーズな運営・充実を図るため情報交換や適切な助言・サポートを行い、自主的活動を支援し校外活動の充実を図った。	4 月～3 月	14	113

荒町大好き企画会	荒町周辺の歴史やゆかりの人を後世に語り繋げていくため企画員が「子ども相撲大会」を企画した。同時に中将七五郎公の記念室を広く公開した。来年度に向けて失われつつある言い伝えを残していくことで話し合いを進めた。	4月～3月	10	7
★ガチンコ企画会2	成人の一人暮らしの方を対象に生活上の不安や悩みを共有する場を提供した。地域のために自分たちができることを模索し、地域の一員としての自主的活動を計画実行した。	6月～1月	7	34
「荒町子ども相撲大会」に参加しよう	荒町は藩政時代から相撲と関わりの深い地域であるため、子ども相撲を通して相手に対する思いやりや力加減を知り、地域への関心を深める場を提供した。	9月～10月	3	93
荒町趣味味噌物語～その歴史と魅力に迫る～	地域資源である麴・味噌に着目し、地域の趣味味噌屋さんの協力のもと、荒町の伝統ある食文化を学んだ。学んだことを生かした味噌料理の新レシピの情報をホームページで発信した。	10月～12月	3	45

六郷市民センター

〔沿革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として地域に定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、かつて河口には美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居多根など自然環境や歴史的遺産が残されていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。

現在、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しつつ、地域を支えられる人材育成の推進と地域の活性化に努めている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	ハートフル六郷「六郷お月見会」		
参加者	地域住民	延参加者	61 人
開催日	全 1 回 9 月 5 日（金）		
協力者・協力団体	ハートフル六郷協議会（六郷地区民生委員児童委員協議会・六郷地区老人クラブ連合会・六郷スポーツ少年団・六郷地域包括支援センター・託児ボランティアクリップ・六郷児童館）		
ねらい	地域諸団体と連携して季節行事のお月見を開催することにより、日本の伝統文化を学びつつ様々な世代の住民交流の場とする。		
概要・成果	お話会・月の観察会・簡単工作・お茶会を通して、若い世代に伝統文化を伝えると共に、様々な年代の住民同士が交流する機会を持つことができた。子育て中の親子や高齢者と幅広い世代の地域住民が関わることで、世代間交流が広がった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	世話人を対象に子供会活動の意義や役割の講話、小学 5 年生対象に行事プログラム作成演習、両者が参加してレクリエーションゲーム実習	2 月 14 日	1	38
ジュニアリーダーと遊ぶ	10 月はレクリエーションゲーム、11 月は復興の集い中のコーナーでモグラたたきゲーム	10 月 15 日 11 月 1 日	2	128
中高生の「六郷クラブ」	六郷中バスケット指導でバスケットボール、六郷中ハンドボール部指導でドッジボール、仙台東高マジック部による演技披露とゲーム、仙台東高英語海外文化指導で英語単語ゲームなど	6 月 28 日 7 月 26 日 8 月 23 日 10 月 4 日 1 月 17 日	5	162
★メダカのがっこ	メダカの生態や六郷の自然の現状についてのお話。センター周辺の田んぼなどで生き物を採取しながらのフィールドワークとこれらの環境についてのお話	6 月 6、21 日 7 月 19 日 9 月 11 日	4	65

六郷あすなろ大学	健康漫談、輪投げ大会、落語、六郷の歴史講話、移動自主学习、高齢者の栄養と食事の講話、クリスマスコンサート、運動と音楽を用いた講話と実技、健康体操、法律おもしろ話	5月15日 ～3月5日	10	733
★井土浜の風を受け、空に 風を映す～六郷FLY AGAIN!～	伝承風のするめてんばたについてのお話と制作、井土浜のお話と揚がる風をつくる秘訣、オリジナル風作り、風揚げ大会	6月24日 10月11、18、 25日 11月6、16日	6	322
★六郷地域防災事業	防災訓練と地域版避難所運営マニュアル作成会	9月13日 11月19、29日	3	467
音楽でめぐる若林 ～ほっとコンサート～	声楽（ソプラノ）とピアノによる演奏会	6月14日	1	38
ハートフル六郷協議会	事業企画会議と反省会	5月14日 7月8日 9月17日	3	30
★●元気！六郷復興の集 い	利用団体や住民の作品展示、ステージ発表、模擬店、老人会の輪投げコーナー、ジュニアリーダーと遊ぼうコーナー、フリーマーケット、児童館コーナー、保健センターコーナーなど	11月1日	1	2,545
★六郷地域支えあい事業	合唱、体操をしてから、30分～40分間イベント実施（軽体操、ちぎり絵づくり、芋煮づくり、ニュースポーツポッチャ大会、指編みでのクリスマスリースづくり、安来節鑑賞、福笑いとかかるた大会、落語鑑賞など）をして、茶話会「いぐね・おちゃっこの会」	5月16日 ～3月24日	11	192
市民センター・児童館合同 懇談会	各団体の自己紹介と活動案内と課題や地域課題などの情報共有と意見交換	6月7日	1	6
★語り部ボランティア養成講座	東日本大震災の体験談や当時の様子、後世に繋げたい教訓などのお話を聞き取り、収集内容のデータ化、要請があった際の語り部として人材登録	12月19日 1月25日	2	2
ジュニアリーダー「六郷 村」定例会	派遣要請の連絡・調整、ゲーム進行等のスキルアップとメンバー間交流	5月4日 ～3月25日	11	17
市民企画会「六ゴーイン グ」	事業企画会議と反省会	6月28日 7月22、24、27 日	4	10
学校に泊まろう！	ジュニアリーダーによる遊びの時間、タグラグビー、プール、夕食、キャンドルファイヤー、肝試し	7月26日	1	30

若林市民センター

〔沿革〕

若林市民センターは、平成3年4月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●復興公営住宅対象事業		
参加者	復興公営住宅入居者、地域の方	延参加者	275人
開催日	全6回 6月7日(土)、7月26日(土)、8月20日(水)、9月27日(土) 11月16日(日)、12月20日(土)		
協力者・協力団体	若林区まちづくり推進課、若林区保健福祉センター家庭健康課、若林区社会福祉協議会、仙台市立八軒中学校、仙台市立若林小学校、若林地区社会福祉協議会、若林地区民生委員児童委員協議会、若林保育所、六郷・七郷コミネット、中核支え合いセンター若林、河原町包括支援センター、若林地区町内連合会、区拠点館		
ねらい	平成26年度、若林市民センターエリアに「若林西復興公営住宅(152戸)」が建設され、4月から入居開始となる。新たな住民となられる被災者を対象に、地域の特性を伝えるとともに、地域住民との交流の場を設け、新環境に対する生活不安、孤立感を解消し、生活再建支援を図れるよう開催する。		
概要・成果	若林市民センターホールを会場にした「ウェルカムコンサート・交流会」開催を始めとし、復興公営住宅に沿った堤防を活用した「広瀬川早起き散歩」、復興公営住宅集会所への出前講座で仙台市外から入居した方々を対象とした「ゴミ分別学習会」、地域の方とともに楽しんだ「アコーディオンコンサート」などを開催。また、六郷東部地区の復興の願いを託した手作りの凧揚げ大会の場に、センターに掲示・保存してあった「大凧」を提供し、大会を盛り上げた。その後、復興公営住宅住民による町内会「若林西せせらぎ会」が立ち上がり、初めての親睦会の場に地域のマジシャンを紹介した。一連の事業を通して、「若林西せせらぎ会」への活動支援と、地域の諸団体等との交流の機会づくりにつながっている。		

〔平成26年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てタイム	子育て中の母親対象に子育てに関する情報交換や調理実習（キャラクター弁当づくり）を行った。	5月29日 6月5、12日	3	54
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会についての知識や活動に必要な技能の研修を行い、インリーダーを育成し子ども会の活動の活性化を図った。	2月21日	1	53
★●ジュニア防災講座	中・高生を対象に、地震の基礎知識や避難所運営に必要な技能や技術を研修し、防災への意識を高めるよう開催した。	6月22日 7月13日 8月3、24日 9月14日	5	33
「若林を知って好きになろう」小学生が学ぶ地域の歴史	若林小学校5年生を対象。ブックトークによる仙台の歴史紹介と「若林城」の歴史学習のほか、「若林城ぐるり散歩」として若林城遺構をめぐる校外学習を行った。	11月11、19、 28日	3	177

《若林区》

古城小学校連携「仙台再発見」	古城小学校 5 年生対象。ブックトークによる仙 台の歴史紹介のほか、「若林城」についての学 習を行い、コースを決め、地域の昔から残る町 並みや堀を巡った。	6 月 26 日 7 月 1 日 2 月 13 日	3	168
古城小学校連携「知りたい 学びたい若林城」	古城小学校 6 年生対象。学区内の歴史を学び、 「河北新報・どきどき小学生」への記事掲載を 目的に、「若林城跡」について歴史学習を行い とともに現代に残る遺構学習を指導した。	7 月 9 日	1	10
市民企画講座「仙台郷土研 究会の成り立ちと若林」	市民企画会議による講座。仙台郷土研究会初代 会長、阿刀田令造氏の著作をもとに、藩政時代 や近代の庶民の暮らしを学習した。	11 月 6、13、20 日	3	56
★若林老壮大学	高齢化社会に対応した一般教養・健康のほか、 時事・音楽・防災などをテーマに開催した。	4 月～3 月	12	912
★災害に強い街“若林”を つくろう！	町内会の防災担当役員を対象に、防災活動にお ける町内会の役割に関する学習のほか、HUG （避難所運営ゲーム）を行った。	7 月 27 日 8 月 31 日	2	44
★若林区内市民センター 連携事業「音楽でめぐる若 林」	若林区ゆかりの音楽家に、演奏の場を提供する とともに、地域住民が気軽に音楽を鑑賞する機 会を作った。	7 月 12 日	1	76
若林ふれあいまつり	市民センター利用サークル・団体の学習成果発 表のほか、出店・バザーなどを行い地域住民の ふれあいの場として開催した。	9 月 7 日	1	1,100
若林地区地域懇話会	対象を、エリア内小中学校、若林地区連合町内 会のほか、今年度は南材地区町内連合会との懇 談会を行い、市民センター事業紹介を行うとと もに、地域の提案意見を収集した。	2 月 6 日 2 月 10、19 日	3	30
市民企画会議「仙台的今・ むかし」	市民企画会「若歴会」を発足。地域の歴史学習 を始め、公開講座開催に向けて活動をすすめた。	4 月～3 月	12	110
読み聞かせボランティア 養成スキルアップ講座	24 年度立ち上がった読み聞かせボランティア サークルの活動支援のほか、会員数の充実を目 的に開催した。	10 月 29 日 11 月 5、19、26 日	4	52
ジュニアリーダー「にゃく りん」とあそぼう	若林を活動拠点としている「にゃくりん」のス キルアップと、ジュニアリーダーへの理解を得 られるよう、内容をゲーム・アートバルーンな どを取り入れて開催した。	7 月 20 日	1	20
ジュニアリーダー定例会	活動に必要なスキル習得とジュニアリーダー同 士の交流を図り開催した。	4 月～3 月	12	36
若林市民センターサーク ル体験会	センター利用サークルの活動を紹介するととも に、サークル活動の支援として開催した。	7 月 1、4、10、 11、16、17 日	6	11

沖野市民センター

〔沿革〕

沖野市民センターは、平成3年4月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、また自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●沖野地区総合防災訓練ー若い力で地域を守るー		
参加者	沖野中学校生徒、沖野地区の住民	延参加者	94人
開催日	全3回 10月2日(木)、10月9日(木)、10月25日(土)		
協力者・協力団体	沖野地区災害対策委員会(沖野中学校、沖野小学校、沖野東小学校、民生委員児童委員協議会、沖野老人福祉センター、若林消防署六郷出張所、沖野地区町内会、沖野地区婦人防火クラブ、若林区保健福祉センター、若林区役所保護課、まちづくり推進課、区民生活課、仙台市農業委員会、若林区社会福祉協議会)、沖父ちゃん会(沖野東小学校おやじの会)		
ねらい	学校・地域諸団体と緊密な連携を図りながら、市民センターを会場とした防災講座を実施し地域活動の拠点としてのセンターを地域により一層浸透させていく。中学生を対象とすることで、地域全体の防災意識の向上を図るとともに地域活動を担っていく若い力を地域全体で育んでいく。		
概要・成果	地域の防災訓練の機会に、負傷者弱者搬送、応急手当といった市民センターが補助避難所として求められる事態を想定し、地域住民と中学生が災害時の対応を学んだ。学校、町内会、地域団体とさらに多くの協力を得て開催することができ、これによって地域の防災力の強化に繋がり、市民センターと諸団体の関係も緊密になった。また、訓練に参加した中学生の熱心に取り組む姿を皆が認めてくれたことは、中学生にとって地域で頼りにされているという自覚を促す機会となった。		

〔平成26年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
笑顔で子育て	児童館と連携し、子育て中の母親同士が情報交換と交流を図りながら、幼児の健康についての学びと育児相談、ママ&ベビーヨガ、音楽鑑賞と楽器遊び、地域の民生委員児童委員の見守りの中、生け花を学んだ。	9月5、19日 10月3、17日	4	120
親子でチャレンジ	沖野の地域資源である田んぼ、用水路を活用し、親子が共に水辺の生き物に触れる機会を提供できた。また夏休み期間には科学実験を行い、沖野中学校科学部の協力を得て、世代間交流を図った。	6月14日 7月19日 8月23、30日	4	83
伝えよう、仙台伝統七夕	小学生が地域の高齢者や養成されたボランティアから伝統的な仙台七夕7つ飾りの作り方を学び、竹飾りを学校に飾った。また地域の福祉施設へ竹飾りを置いてもらい、地域の方々にも楽しんでいただいた。	6月12、19日 7月1、2日	4	308

インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、児童及び世話人が子ども会運営の知識や進め方を学んだ。行事で役に立つゲームをジュニアリーダが実技指導した。	2月13日	1	53
いろいろな国の言葉で あいさつ～外国の文化を 学ぶ～	夏・秋の長期休み中に開催した小学生対象の国際理解講座。講師には仙台東高校英語科の高校生とALTの先生を招き、英語でのあいさつや外国の子どもたちの生活について、ゲーム等も交えながら楽しく学んだ。	8月6日 10月15日	2	36
おきの学園～学ぶのスク ール～	児童生徒に様々な体験の場を提供し、「自分づくり」への意識を高める機会とした。座禅体験・サッカー・生け花ペットボトルロケット・食育・トリックアート・和太鼓	7月30、31日	2	290
お父さん出番ですーお父 さん応援講座ー	おやじの会と連携し男性同士の仲間作りを目的に、手打ちうどんづくりの講座と小学生対象のドッジボール大会を開催した。ドッジボール大会は地域にあるもう一つのおやじの会も参加して合同で企画した。	6月28日 12月14日 (午前・午後)	3	158
～環境と人にやさしい生 活～「かんたんエコで快適 ライフ」	環境にも人にもやさしい自然素材“重曹”を使った簡単な家事方法を学び、洗剤無しでもお風呂掃除が楽になる発砲入浴剤を作成した。日常に気軽に実践できる取組について学んだ。	11月12日	1	14
沖野耕友大学	歴史講座「仙台城の謎」・お腹の健康講座・歯と口の健康講座・3B体操・井上ひさしの生涯と作品・気象講座・介護予防講座・クリスマスコンサート・沖野の歴史	5月～3月13日	11	689
見たい、知りたい、伝えたいー地名から学ぶ沖野の 今昔	地域在住で郷土史に詳しい講師から、昔の地名の由来について話を聞き、見所を見学した。講話と見学を終えた後、参加者有志が講座のまとめとして「誇れる我が町ー沖野の今むかし」を作成した。	10月1、8日 11月12、19日	4	41
音楽でめぐる若林～ホッ トタイムコンサート～	若林区内市民センターときんこんかんが連携し、若林区に縁のある演奏家たちを招いてミニコンサートを開催した。	5月17日	1	60
社会学級との事業企画検 討会	沖野東小学校社会学級と連携して、地域に貢献する事業の企画検討会を開催し、事業の実施、反省会を行った。	5月～12月	1	4
★沖野地区市民まつり	ステージ発表・展示発表・フリーマーケット・模擬店・お茶席・はっと汁を400人に配布・餅まき	11月2、3日	2	9,740
●沖野地区懇話会	生涯学習拠点としての市民センターが様々な課題に対応するために、地域団体代表者等と意見交換を行った。	8月28日 2月27日	2	43
ジュニアリーダー定例会	ジュニアリーダーサークル「ビ野沖ヲ」の定例会では要請依頼の調整や技術向上のための研修会の案内など活動支援を行った。	5月18日～2月 15日	10	10
★東日本大震災の記録～ おきのかわら版～	児童向け防災紙芝居の作製と上演 おきのかわら版4号と5号の発行	5月3日 ～3月8日	22	88
市民企画会議	公募した委員が講座開催に向けて会議に参加し、昔の地名から地域を学ぶ講座を企画した。企画委員は講師の選定、広報、資料作成、館外学習の引率など積極的に運営に関わった。	5月23日 6月11日 8月20日 9月12日 10月1、8日	6	42

太白区中央市民センター

〔沿革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、太白区中央児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR 長町駅前と国道旧 4 号線沿道という立地条件に恵まれ、JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れているため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、かつ仙台市立病院の移転等、これまでも増して多くの潜在人口がのぞめる地域となってきた。当市民センターではこうした状況を踏まえて、地域コミュニティの活性化にも積極的に取り組んでいる。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	夜のぶらぶら長町見聞録		
参加者	成人	延参加者	計 62 名
開催日	全 3 回 5 月 29 日 (木)、7 月 21 日 (月)、8 月 21 日 (木)		
協力者・協力団体	長町商店街連合会		
ねらい	公共交通の要衝である立地条件を活かし、地域住民や市民センター利用機会の少ない勤労者等を対象に仕事帰りに気軽に参加できる住民同士の交流と学習を実施する。地域の商店街と連携しながら地域と一体化した事業展開を目指す。また、地域人材の発掘や地域活性化に向けての関係づくり強化のため、センターを離れ隣接の商店街等とタイアップして事業展開をする。		
概要・成果	①「長町の歴史と酒の魅力」：ホテルふじや②「これからの長町とカフェ」：PUBLIC COFFEE&BAR③「コンサートとトーク」：カフェレストラン パスタイムで 3 回の開催。勤労者世代と地域住民、ともに参加があり、交流と学習の場として機能していた。商店街との連携もでき地域活性化に繋がる関係を築くことができた。また、講座参加者の中から市民企画講座への参加者も現れ、人材発掘の面からも成功であったと言える。		

〔平成 26 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
★●ママ達の防災ワーク	子育て中の母親対象で、ママ防災士から備蓄のポイントを教わったり、地域の防災アドバイザーの案内のもとに避難経路の確認等を行った。家庭防災の意識を高めるとともに定期的に集まり、学んだことをリーフレットにした。	6 月 3 日 2 月 26 日	14	92
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、リーダーとして活躍する児童と世話人を対象に知識やレクリエーションゲームなどを学ぶ機会を提供した。今年度は八本松市民センターと合同で開催した。	2 月 1 日	1	86
エフエムたいはくキッズ情報局	地域学習やアナウンス研修を受けて取材し、その内容を地域のラジオ局から発信するという経験を通して、居住する地域の新しい発見をする機会となった。また 4 館連携講座として開催し、他地域の小学生との交流会を実施した。	5 月 31 日 ～1 月 17 日	13	62

太白区中央老壮大学校 公開講座	楽楽楽ホールにおいて講演会「地域資源を活用した地域づくりとその魅力」と室内楽演奏会「冬から春へ気分はもう春」を開催。地域に公開する事で老壮大学の周知と参加者交流の機会となった。	5月16日 2月6日	2	739
太白区中央老壮大学校 いきいき健康コース	いきいきと健康に暮らすためのヒントとなる講座を開催。今年度は2回の体育館での実技の他、館外学習では地域の方を講師に広瀬川沿いを歩き地域の良さを発見した。	5月16日 ～2月6日	9	569
太白区中央老壮大学校 せいかつ教養コース	心身ともに健康で教養が高まる講座を開催。地域の歴史を学んだり、身体機能を高めるための食生活のあり方や、体操を学んだ。県警本部や県庁に館外学習も行った。	5月16日 ～2月6日	9	656
太白区中央老壮大学校 ふるさと文化コース	地域の歴史・文化・慣習を中心とした講座を開催。寺社仏閣や貨幣制度の講話、県内の自然や文化の講話など主に座学で学んだ。館外学習では八木山動物公園に行った。	5月16日 ～2月6日	9	543
ひと・まち賑わい七夕作り	仙台七夕作り応援隊を中心に、地域講師の指導のもと竹の再利用で「織り姫・ひこ星」を作成した。その他に長町駅前プラザを会場にミニ七夕作り講習会を開催し、長町地域の活性化と仙台七夕の継承に貢献した。	6月7日 ～8月8日	12	112
社会学級連携事業	各社会学級生に地域の課題についてアンケート調査を実施。その結果、転勤族が多く地域の情報も少なく学校関係以外の交流がないという課題が分かり、その解決に向けて月1回の企画会を持った。11月11日に講座を開催した。	5月27日 6月26日 7月17日 9月30日 11月5日 11月11日	6	30
太白区中央市民センター まつり ながまち交流フェスタ 2014	初参加の団体が多く、出店では長町中学生のポップコーン販売、展示では長町地域包括支援センターの体験コーナー、講座の成果発表でハンドマッサージ・タッピングタッチ体験コーナーの開催。舞台では富沢小学校の太鼓演奏が加わり盛況であった。	10月25日	1	4,250
★魅力アップ懇話会	地域商店街、ボランティア活動団体、社会学級の代表が出席。地域防災の取り組みへの意見や地域情報発信の提言等を受け、次年度講座の参考とした。	10月31日	1	16
ジュニアリーダーながま つくる定例会	主に毎月第4日曜日に定例会を持ち、要請等の連絡調整や情報交換、各種研修を行った。活動や研修の効果により、新規登録者が大幅に増加し、要請などで積極的に活動している。	4月27日 ～3月22日	12	97
ハンドマッサージ・タッピ ングタッチボランティア 養成講座	ハンドマッサージ・タッピングタッチを習得し、成果発表の場として「ながまち交流フェスタ」で施術をした。研修を重ね児童館や他市民センターで体験会を行い、施術を通して世代間交流を行った。	8月28日 ～3月18日	16	290
市民企画会議「人情ながま ち物語」	昨年までの内容を刷新し、地域課題調査のためのアンケートを実施。結果を基に周辺地域の情報を市民目線で発信していく市民企画講座を企画した。	8月23日 9月6日 9月27日 12月13日 1月17日	5	13
社会学級連携企画講座「新 しい長町発見」	「長町変遷の歴史」講話と「おくずかけ」の試食やその由来の話を通してこの地域に転勤してきた一般受講生と社会学級生の交流を図りながら地域を知ることが出来た。	11月11日	1	49

生出市民センター

〔沿革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行なってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。

平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	第 26 回 蛍と平家琵琶の夕べ		
参加者	一般	延参加者	1,000 人
開催日	全 1 回 6 月 28 日(土)		
協力者・協力団体	ふる里坪沼実行委員会		
ねらい	坪沼地域活性化のため、地域住民と市民との交流の場を提供する。地域に古くから伝わる伝統文化である平家琵琶や祭ばやしの演奏などを通じて、地域の良さを広く PR し、地域の活力に繋げる機会とする。また、蛍の観察会などを行い、環境保全と自然の豊かさを伝えていく。		
概要・成果	坪沼八幡神社を会場に、ふる里坪沼実行委員会と共催で実施。第 26 回を迎えた今回も平家琵琶の演奏、蛍観察、地元の坪沼祭囃子の演奏に加えて、産直野菜や子どもたち手作りの行灯など、多数の来場者に坪沼の良さを知ってもらうことができた。また、実行委員が準備から当日の運営までを主体的に実施することで、住民同士の絆が深まり、地域づくりに繋がっている。今後、回を重ねていくことで、親から子へ子から孫へと文化伝承が図られていくと思われる。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
★●おいでめんこいサロン	地域の方々が、子育て奮闘中の親子に寄り添い、楽しいひと時を過ごしながらか「親育ちを」支援した。	4 月 25 日 ～3 月 28 日	17	287
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童とお世話人の育成する機会を設け、子ども会活動の充実と活性化を図った。	1 月 25 日	1	17
おいでわんぱく広場	小学生が集い、新しい可能性にチャレンジできる自己開発の場となる遊びの広場を開催した。	5 月 24 日 ～ 3 月 22 日	11	185
坪沼ホタレンジャー	蛍が生息する坪沼で、生態や育つ環境について学び、自然観察を通じて地域の魅力と環境保全を学んだ。	6 月 21 日	1	33

★太白山の自然観察	太白山の自然を観察し、触れることを通して、自然の素晴らしさと自然保護を学んだ。	10月13日	1	11
子ども参画型社会創造支援事業 「エフエムたいはくキッズ情報局」	地域の良さを自ら取材し、発信する活動を通して、郷土愛を育て、自ら学ぶ環境づくりに資する一助とした。	5月31日 ～1月7日	16	208
おいで里ネットサマーキャンプ	生出地区の里山にてキャンプをし、遊びを通して自然観察や川での危機管理を学び郷土愛を育む一助とした。	8月4、5日	2	80
出前講座	各地区に出向き、さまざまなジャンルの講座を開催し、地域活動の活発化を図った。	6月7日 ～2月7日	12	225
名人の技を伝授 漬け物講座	地域の名人を講師に迎え、旬菜でおいしい漬物作りのコツと食文化を学び世代間交流を図った。	11月15、22日	2	30
生出朗壮大学	高齢者に学びの機会を提供し、心身共に豊かな生活と知識の習得や仲間づくりと交流を図った。	5月16日 ～2月20日	11	241
★生出地区「災害対応」講座	坪沼断層の「地震のメカニズム」と「蔵王山火山活動活発化」について学び、地域力の結束を図った。	11月29日	1	210
生出かかしまつりコンテスト	交通安全の目的で「かかし」を設置し、更に広く呼びかけ小学校や町内会等交通安全への関心を深めた。	9月3日 ～9月30日	4	412
★生出コミュニティまつり	地域住民・小学校・中学校・サークルが一丸となっておまつりを開催し、生出地区の特性を活かした絆を深める交流の場となった。	10月26日	1	1,600
地域活性化懇談会	地域住民との意見交換の場を設けて「より生き生きとした街づくり」をテーマに懇談した。	5月11日 1月29日	2	58
市民企画会議「生出盛り上げ隊」	高校生らしい目線により、コミュニティまつりや地域の催しなど子ども向け講座の企画をした。	6月28日 ～11月30日	8	39
生出物語～いにしえから現在、そして未来へ	歴史的文化遺産と豊かな自然の生出地区について、伝承者から学び次世代の語り部を発掘育成した。	12月5日 1月9日 2月6日	3	21
おいでめんこいサロン・サポーター養成講座	おいでめんこいサロンにおいてサポーターとして活動するためのスキルアップを図った。ネイチャーゲームと手遊び・タッピングタッチなど	6月4日 2月4日	2	26
市民企画講座「生出コミュニティまつりおいでもんコーナー」	生出コミュニティまつりでコーナーを設け、児童生徒を対象とし、楽しく大いに繁盛したコーナーとなった。	10月26日 11月22日	2	265

中田市民センター

〔沿革〕

中田市民センターは、昭和 44 年 10 月、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して仙台市で 5 番目の公民館として開館した。昭和 56 年 3 月に本館を鉄筋コンクリート二階建てとして新築し、平成 2 年 4 月には「中田市民センター」と改称。平成 19 年 7 月からの大規模改修工事を経て、平成 20 年 1 月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成 11 年 6 月までの間は、太白区内市民センター13 館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は地区館として事業を展開している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	●伝えよう！伝統の仙台七夕		
参加者	どなたでも	延参加者	68 人
開催日	全 5 回 7 月 3 日(木)、10 日(木)、24 日(木)、31 日(木)、8 月 5 日(火)		
協力者・協力団体	中田小学校、中田中学校、中田児童館、中田保育所、バンビの森保育園 太白区中央市民センター 中田商工振興会婦人部		
ねらい	昭和 30 年代までは中田地域でも七夕まつりが盛んだったが、住民の記憶から昔の七夕の様子が消えつつある。そこで、伝統ある七夕の歴史を学んで七夕飾りを製作し、仙台七夕まつり期間に合わせて飾ることで、七夕行事の再生と地域活性化の一助とする。さらに隣接する教育機関と連携し飾りを掲げることで、地域一体化の取り組みを目指す。		
概要・成果	太白区内地域連携ネットワーク事業で、中田小と中田中の協力を得ることができたため、毎年飾りを製作している商工会婦人部の取り組みの紹介や、講師として地域人材の派遣をするなど多くの方に関わってもらい、世代間交流もできた。子どもたちが関わったことで大人の関心も高く、地域行事再生の意識づけにつながった。今後、商工会婦人部と小中学生との共同製作で中田地域の七夕を盛り立てていくことが期待できる。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
中田わくわくサイエンスラボ	①はねかえりのふしぎ編/スーパーボールロケットとブーメランの製作・実験 ②光のふしぎ編/万華鏡の製作・観察 ③飛ぶを科学する/紙飛行機の製作・実験 ④ベガ号で天体観測	8 月 2、7 日 9 月 6、19 日	4	102
職場体験学習	・施設点検、管理、窓口業務・消防訓練での誘導担当・主催講座「中田の魅力探訪」準備運営・図書室運営・講座「篝火コンサート」プログラム・市民センターだより印刷・お茶っこサロン運営、地位住民との交流・ロビー整備	8 月 20～22 日	3	6
子ども参画型社会創造支援事業「エフエムたいはくキッズ情報局」	オリエンテーション・取材方法研修・インタビュー研修・交流会・地域探検・中田まつりに参加しての地域活動・取材・ラジオ収録・反省会・子ども事業フォーラムでの発表	5 月 31 日 ～1 月 17 日	11	107
★中田老壮大学	入学記念コンサート、太極拳で介護予防、8 ミリで見る昭和の風景、福島美術館見学、カルシウムたっぷりの調理実習、講話「地球温暖化と私たちの暮らし」「伊達政宗のまちづくり」、修了式記念講話「笑いは健康の源」等	5 月 15 日 ～3 月 5 日	11	728

「中田の魅力探訪」-今編- 中田の～昔・今・これから～をまとめる	中田の魅力をまとめ発信する成果物制作に向けて、オリエンテーション・古くから地域に在住の方からの聞き取り・ポンプ場見学・専門家の講話・前田地区巡検・まとめ作業	5月21日 ～1月21日	11	110
★●災害対応力を身につける 「ゲームと実践で学ぶ防災・減災講座 2014」	自助編：防災ゲーム「ぼうさいカルテット」「クロスロードゲーム」、常備品クッキング／共助編：中田地区総合防災訓練参加。ブースを受け持ち災害時に役立つレシピを紹介。ワークシートによる振り返り／番外編：救命救急講習	8月23、30日 9月27日 10月5、18日 11月5日	6	76
なかだ篝火コンサート	中田神社境内を会場とし、篝火と竹灯籠を灯した幻想的な雰囲気の中でのコンサートを開催。鶴岡たみ子氏、田沼詠子氏によるマリンバコンサート	9月13日	1	500
中田まつり	オープニングセレモニー、作品展示、ステージ発表、イベントコーナー、ジュニアリーダー・ボーイスカウト・スポ少コーナー、町内会対抗大会、模擬店等	10月26日	1	4,280
中田市民センター主催 「気軽に話し合う会」	①地域に開かれた市民センターを目指し、事業運営施設運営、地域課題についての提案や要望等の意見交換 ②地域団体代表者間での次年度の行事日程のすり合わせ、情報交換	11月21日 2月24日	2	12
ジュニアリーダー「なかだかな」定例会	ジュニアリーダーが円滑に活動できるよう、活動準備や報告、要請の調整、学習会を行うため定期的に集まる場を設け、助言やサポートなど自主活動を支援	4月26日 ～3月22日	12	68
読み聞かせボランティア 養成講座	読み聞かせの意義など基本的事項や、選本やプログラムの立て方、音読の基本と読み聞かせの実技、紙芝居の演じ方の学習。成果発表の場として中田児童館での読み聞かせ会を開催	6月11、25日 7月9、23、30日 8月6日	6	53
市民企画会議 「中田”食育”応援隊」	食に関する企画を立案するにあたり、基調講話「郷土色から学ぶ食育」を開催。話し合い、自主学習を重ね、企画講座を運営し振り返りを行った	6月27日 ～2月21日	11	38
市民企画講座 「子どもと作ろう、かんたんウチごはん」	①つくってみよう！トッピングみそ汁～元気な体をつくろう～ 親子で栄養の話を聞いた後、トッピング味噌汁体験と試食 ②つくってみよう！かんたんランチ ラップおにぎりやとり肉のホイル焼きなど5品の調理と試食	2月7、21日	2	44
インリーダー研修会	インフルエンザのため中止			

西多賀市民センター

〔沿革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年仙台市として 5 番目の福祉会館として開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。平成 3 年には児童館が併設された。以後子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	●「残そう、伝えよう、地域の自然」活動協力者養成講座		
参加者	成人	延参加者	135 名
開催日	全 9 回 4 月 23 日（水）～ 2 月 25 日（水）		
協力者・協力団体	緑を守り育てる宮城県連絡協議会、三神峯公園愛護協力会 仙台市太白区公園課、仙台市環境局環境都市推進課		
ねらい	市民の憩いの場として親しまれている、三神峯公園の豊かな自然を次世代へ残すために、植生観察・調査を行い資料を作成し、環境学習の場を提供するとともに、地域の財産として守り育てる活動協力者を養成する。		
概要・成果	前年度に引き続き継続開催。前年度は樹木（桜を除く）37 種 41 本に樹木名板を作成し、取り付け作業を行った。今年度は公園内に自生している植物を観察しながら写真撮影や特性を記録し「三神峯公園植物マップ」を作成・配布した。「三神峯公園植物観察サポーター」として 3 名の登録があり、地域での活動が予定されている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ニコニコ子育て！	地域の子育て中の母親を支え見守ることを目的として開催。保健師による育児相談や交流会を開催し、絵本の選び方や読み聞かせの仕方を学び、簡単おやつづくりや体操を体験した。	9 月 4 日 9 月 11 日 9 月 18 日 10 月 2 日	4	35
中学生職場体験受け入れ	市民センター事業（施設管理、生涯学習）についての体験学習。市民センター利用サークルとの交流会、広報活動など行った。	8 月～11 月	8	40
出前講座・中学生職場体験の心構え	中学生の職場体験がより効果的になるよう、事前に働く意義や心構えなどを学習し、事後には体験のまとめを行った。	7 月 4 日 11 月 14 日	2	240
インリーダー研修会	子ども会を充実させるために、子ども会のリーダーと世話人が子ども会についての知識や技術を学んだ。	1 月 25 日	1	80

ジュニアと遊ぼう	ジュニアリーダーの活動の幅を広げ、実績を積むため、ジュニアリーダーが企画から広報まで行い、工作やゲーム、もぐらたたきを行った。	7月24日 10月26日 12月26日	3	586
おはなしひろば	絵本の読み聞かせや紙芝居、手あそびなどを通して、子どもたちへ本に親しむ機会を提供した。	7月16日 ～3月18日	9	315
西多賀レディス講座はあとふるくらぶ	市民センターの利用が少ない若い世代の方を対象に、健康に過ごすための知識を学び、体験する講座を開催した。小さい子供を連れて参加できるよう配慮し、子育て世代も多数参加した。	9月5日 10月3日 11月7日 12月5日 1月9日	5	66
西多賀寿大学	伊達家の歴史や健康について、講師による講演や体験指導を受けた。またクラシックコンサートを実施し、公開講座とした。さらに、運営委員の企画による交流会や移動学習として仙台市の施設を見学した。	5月21日 ～2月19日	11	657
西多賀今昔巡り	地域を学ぶ講座として、地域の歴史や特色について学習するとともに、現地を訪れた。西多賀百問委員会の委員が講師をつとめ、自信をつける機会ともなった。	10月9、16、30日	3	28
★地域防災コミュニティ	災害時の情報収集・伝達や意思決定を行う図上演習として「SSG 仙台発そなえゲーム」「避難所運営ゲーム HUG」を実施した。	12月7日 1月31日	2	92
地域懇談会	地域の学習ニーズや地域課題をテーマに地域の方と意見交換を行った。	9月30日 11月18日	2	36
地域で守ろう天沼公園	地域の財産である天沼公園を地域で守るために、小中学生と共に清掃活動をした。また西多賀中学校生による水質検査などの活動報告会を開催した。	9月13日 10月25日 12月3日	3	220
西多賀ふれあいまつり	地域交流の場を提供するとともに、各サークルの学習発表の場として開催。地域の小中高校生の参加により世代間交流ができた。	10月25、26日	2	4,300
ホールへようこそ！クリスマスコンサート	音楽を身近に感じ、音楽をきっかけに集い、聴くことから生まれるコミュニケーションによって、人と人とが理解を深め、一人ひとりがいきいきと存在を感じ合う交流の場を提供した。	12月13日	1	80
★西多賀防災ネットワークづくり	防災ネットワークを作り、地域の各団体の防災交流と防災活動の充実を図るため、準備会を結成し、講座を企画し開催した。	8月19日	1	3
ジュニアリーダー「にしたがつつまん」の定例会	要請の調整やゲーム・工作の練習など研鑽の場となった。また、自主企画としてクリスマス会や顔合わせパーティーを行った。	通年	12	46
読み聞かせボランティアフォローアップ講座	読み聞かせボランティアサークルの技術向上を図るため、読み聞かせの意義や話し方・わらべうたなどを学習した。日頃の体験談を話してもらうことで、情報交換を行った。	9月18、25日 10月2、9日	4	59

八本松市民センター

〔沿革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴情的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★八本松防災リーダー養成講座		
参加者	地域住民	延参加者	38 人
開催日	全 3 回 5 月 17 日（土）、6 月 15 日（土）、7 月 19 日（土）		
協力者・協力団体	八本松連合町内会、太白消防署		
ねらい	東日本大震災後「八本松地域防災サミット」を立ち上げ、会議や合同防災訓練等を 3 年間継続してきたが、避難所のリーダー的役割を担う人材の高齢化への懸念をふまえ、臨機応変に対応できる年代層のリーダー養成を実施する。		
概要・成果	発災後の避難所までの動き（準備、経路、心がまえ）、運営ゲームを通して開設の学習、太白消防署の協力により実地訓練を行った。実践に役立つ基礎知識やスキルを身につけることができたという意見が多く聞かれた。講座の受講生は、修繕工事中の市民センターに替わり、聴覚支援学校と八本松小学校で実施された 11 月の防災訓練でも活動していた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
八本松子育てカフェ～親子一緒にわくわくタイム	孤立しがちな子育て中の親子が一緒に参加できる、おはなし会・3B 体操・体育館でゲーム・ママさんブラスを楽しみながら、交流できる機会を提供した。	6 月 11、25 日 7 月 9、23 日	4	86
社会学級共催事業企画講座 子どものやる気を引き出すコミュニケーション	多種多様な情報で子育ての悩み・迷いも多い中、子どものやる気を引き出すための親や家庭の対応や役割、声かけや心がまえについて学び、交流した。	10 月 24 日	1	12
子ども企画会議	隣接の八本松公園にある花壇等について子どもたち自身で考える機会を提供し、より良くするための事業を企画した。	5 月 10 日 ～10 月 11 日	5	34

子ども企画会議企画講座 私たちはガーデンサポーター	八本松公園を愛する気持ちを育むことにつながるよう、手作りネームプレートを協力して作成し、取り付け、その後も見守った。	6月7、14日 10月11日	3	40
キッズの元気時間	再開発等により転入してくる子どもも含めて交流する機会として、小学生を対象にドッジボール大会を実施した。	7月25日	1	49
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童・世話人が、子ども会についての知識や活動に必要な技術を学習した。	2月1日	1	57
★八本松寿大学	地域の中高齢者が人生を豊かに過ごし、変化する社会情勢に対応するための学習や、交流を図る機会を提供した。	5月22日 ～1月22日	9	362
★八本松地域防災サミット～住民による住民のための災害対策	4年目のサミット委員会は、組織・訓練内容・運営方法の見直しを行うとともに、聴覚支援学校を会場にした防災訓練を行った。	4月16日 ～11月28日	13	1,266
社会学級共催事業企画会	社会学級と情報交換しながら課題等を共有し、より多くの地域住民が学習体験を得るための事業を企画した。	7月3日 ～10月24日	5	22
お父さんのお一日ガキ大将	広瀬川・八本松緑地の自然とふれあい、川遊びをしながら、親子とその他の家族が交流する機会を提供した。	8月2日	1	14
★八本松スマイルコンサート	「あすと長町仮設住宅」などを含めた新旧地域住民が気軽に参加できる交流の場として、メゾソプラノコンサートと吹奏楽演奏会を行った。	5月31日 7月6日	2	123
八本松市民センター懇話会	2つの連合町内会と大規模修繕状況及び地域のニーズや課題を共有し、情報交換等を行った。	3月12日	1	11

八木山市民センター

〔沿革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、野草園、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年開業予定の地下鉄東西線西起点（八木山動物公園駅）となることから、地域の生活環境が地下鉄東西線の開業とともに大きく変貌することが予想される。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	第 9 回秋の八木山フェスタ～こどもにやさしい八木山～		
参加者	どなたでも	延参加者	10,850 人
開催日	全 1 回 11 月 3 日(月)		
協力者・協力団体	八木山動物公園、仙台市公園緑地協会、八木山ベニーランド、東北工業大学、八木山連合町内会、八木山南連合町内会、八木山管内小中学校 P T A		
ねらい	「八木山地区への地域貢献に関する覚書」を結んでいる八木山ベニーランド・八木山動物公園・東北工業大学・八木山市民センターを中心に民営施設、公共施設、教育施設、地域団体等が連携して、八木山地域のひとづくり、まちづくりを推進するとともに、地域活動団体、サークル、個人に発表の場を、地域の小中学生に地域との交流の場を提供する。		
概要・成果	八木山ベニーランド・八木山動物公園・東北工業大学を会場に工夫を凝らしたイベントを実施した。 また、平成 27 年度の地下鉄東西線開業に向けて「未来の八木山ポスターコンクール」を企画し、全作品を八木山中学校文化祭で展示後に地域に掲示する形となった。そして、各団体が協賛品を持ち寄り参加賞「夢の八木山セット」を用意、応募者に配布した。 このイベントは 9 回目を迎え地域に定着したイベントとなっているが、当日の来場者だけでなくイベント前から地域全体でもりあげる動きが高まったほか、主催 4 団体の連携も年々密になっており、フェスタ以外の日常の活動にも成果が出ている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
八木山こどものくにまつり	八木山こどものくにをつくろう企画会が企画し、実施した。地域の子どもの健全な成長を見守る催しとして昨年に続き、凧作り、凧あげ、焼き芋・綿あめを行なった。	11 月 16 日	1	89
★「ぼうさいダック」になってみよう	八木山・愛宕両中学校の一年生全員が講習会を受講、地域の児童や幼児が楽しみながら防災・防犯の意識を学べる防災カードゲーム「ぼうさいダック」を体験し、安心・安全の最初の一步を学ぶとともに、地域のイベントや幼稚園・保育所等において、実際に「ぼうさいダック」、更には八木山オリジナルの「ぼうさいダンス」を、大学生や消防関係者と一緒に行なった。	6 月～12 月	12	150

仙台市子ども会インリーダー研修会	西多賀市民センターと共催で6つの小学校の子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に活動に必要な技能や知識について学ぶ機会を提供した。	1月25日	1	75
やぎやまシニア大学	5月から12月まで、マンドリン・ピアノコンサート、健康講座、県庁見学等、様々なテーマで計7回開催した。運営委員が中心と懇親会を企画実施し、受講生同士の交流が活発に図られた。	5月～12月	7	356
八木山今昔物語	全9回開催。八木山の歴史、自然や八木山動物公園、八木山ベニーランド等の地域資源について学習した。	7月～2月	9	198
在仙外国人向け日本語講座 「日本語ティールーム」	週2回年間72回開催。仙台に住む日本語を母国語としない外国人を対象に生活日本語を指導し、快適な生活ができるよう支援をした。また年中行事など日本文化を紹介した。	4月～3月	72	662
地域防災シンポジウム in Y a g i y a m a	地域の小学生から中・高・大学生が一堂に会して、防災について話し合い、自分達ができること、やるべきことを確認しあい、地域の防災意識向上と共有化を図った。	12月13日	1	110
★地域の絆づくり推進事業「探そう、つくろう、 「八木山新名物」」	「八木山ベニーランド・動物公園探検隊」「ブロック塀に絵を描いてみよう」を実施。「メモプロ～私達の絵はいかがですか？」の企画で、CDイラスト集を作成し、完成発表会を開催し地域に配布をした。	4月～2月	17	457
八木山こどものくにをつくろう企画会	子育てに関わる地域団体が集まり、催しに向けて、参加メンバーの得意分野を生かし、「やぎやまこどものくにまつり」での役割分担・運営などを話し合った。	4月～12月	6	55
●八木山気軽に懇話会	6月には町内会、利用サークルを中心とした幅広いメンバーで、二日間実施し、どちらか都合の良い方に出席してもらう形をとった。11月には次年度の学校連携行事とのすり合わせ及び、学校・学校支援地域本部と地域人材とのコーディネートという役割も兼ねて実施した。学校関係者以外は公募形式で参加者を募った。	6月～11月	3	33

山田市民センター

〔沿革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鉤取郵便局、鉤取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。

こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	山田わんぱくクラブ		
参加者	小学生とその保護者および地域の方	延参加者	149 人
開催日	全 4 回 7 月 26 日（土）、8 月 30 日（土）、9 月 6 日（土）、1 月 24 日（土）		
協力者・協力団体	上野山小学校、太白小学校、人來田小学校、上野山児童館、太白マイスクール児童館、人來田マイスクール児童館、仙台市縄文の森広場		
ねらい	豊かな自然環境の中で子どもを育てることを主眼に置き、学校の授業以外での様々な体験学習の場を提供し、学びの機会の充実を図る。学区を越え他校の児童や異学年の人と交流し、新たな人間関係を築くきっかけとする。		
概要・成果	7 月は人來田マイスクール児童館と連携して、人來田小学校校長を講師に迎えた紙ヒコーキ講座を人來田小学校で開催。8 月は太白マイスクール児童館と連携して、吹奏楽のコンサートを太白小学校で開催。9 月は上野山児童館、縄文の森広場と連携して、縄文時代の生活体験会を縄文の森広場で開催。1 月は山田市民センターで、人形劇の観劇会を開催した。学区や学年を越えた学びの体験を提供することが出来た事は大きな成果となった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
市民企画講座 たのしく子育て！ 「みんなの部屋やまだ」	子育て世代が気軽に集える場として開催した。太白区中央市民センターと連携し、様々なジャンルの最新の子育て情報とボランティアの活動の場を提供した。手作りおもちゃ、親子体操、子育て講習会、ハンドマッサージなど。	11 月 26 日 12 月 17 日 1 月 28 日 2 月 18 日 3 月 18 日	5	125
ため池の生きもの調査	人來田小学校の 4・5・6 年生の授業の一環として、地域のため池管理組合、宮城大学自然研究部の協力のもと、旗立ため池の池干しを実施した。児童は学校で事前学習を行ったうえで臨み、ため池に生息する生物の種類やサイズを測定、集計した。	9 月 10、17 日	2	301
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、子ども会のリーダーとなる児童及び世話人となる保護者を対象に、活動に必要な技能や知識について学習する機会を提供した。子ども会のリーダーや世話人に向けた講話や演習をした。	2 月 8 日	1	49

中学生の職場体験活動	職場体験を通して、子どもたちひとり一人が人との関わりを大切に、将来の社会的・職業的自立を目指して必要な態度や能力を育み、社会人としてより充実した生き方を切り拓いていくための参考としてもらうことを目的とし、窓口業務・施設管理・講座の企画などを体験した。	11月18、19、 20日	1	5
ジュニア地域防災エキスパート養成講座	山田中学校3年生の希望者を募り、日赤の方を講師に2時間弱の三角巾の救命救急法の講習会を実施した。この時に学んだ生徒が「山田鉤取地域防災訓練」において、訓練に参加した中学生や地域の方々に三角巾の使用法の説明をした。	7月18日 8月6日 10月25日 11月18日	4	83
ジュニアスタッフにここ活動	「協働・協力」をさらに浸透させ、山田市民センターの小さなスタッフとして、当センター行事や講座に関わりながら、地域の方々と交流することで学び、成長を促した。講座におけるバックヤードの手伝いなど、地域の方々と共に作業を行った。	6月28日 7月5日 10月4、11日 3月8日	5	14
社会学級連携講座 「伝えたいいのちの話」	保護者の放任や児童の自己否定感などの問題が見られるなか、子どもたちの健全な成長を促すために解決策の手がかりとなるよう学びの場を提供した。家庭教育の課題を理解し、共有していくきっかけづくりとした。いのちの大切さ・生まれてくる力の素晴らしさについての講話とDVD鑑賞を行った。	12月3日	1	38
山田豊齢大学	生きがいを持って社会生活を送り、社会の変化に対応できる知識や能力を身に付け、孤立することなく安心して生活できるようになることを目的とし、環境、健康、時事問題、農業、歴史、交流、音楽、福祉、など講話・実技・体験学習を行った。	5月8日 6月12日 7月10日 9月11日 11月13日 12月19日 1月8日AM 1月8日PM 2月19日 3月18日	10	713
●山田鉤取福祉フォーラム	山田鉤取地域社会福祉協議会と連携して、高齢福祉に対する意識の向上を目的とした講話、展示、高齢福祉施設紹介等を実施した。地域でサロン活動を展開している諸団体や福祉施設の参加を募り、来館者への情報発信に努めた。	6月11日 7月10日 8月19日 9月11、26日	5	299
●山田鉤取ふるさと歴史探訪	高齢化が進み、記憶とともに記録も希薄になりつつあるなか、地域内に数多くある歴史的遺産や貴重な史実を地域住民へ広く知ってもらうために、訪問聞き取り調査などをしながら、取りまとめて記録し、次代に残すことを目的とした。顔合わせ・説明会、データ収集、訪問聞き取り調査、情報整理をした。	4月18日 7月23日 10月31日	3	51
社会学級連携事業企画検討会	社会学級と連携し、地域の課題を探り解決に向けた講座を企画・実施し、支えあう人づくりの一助とした。	6月18日 7月9日 10月22日 12月3日 (講座) 12月3日 (反省会)	5	54
★●山田鉤取地域防災訓練	避難所の円滑な運営と自助・共助で災害への対応が求められている中、上野山小学校、山田中学校を主訓練場に、生徒を交えて地域の団体・施設合同で大地震の避難行動、対処要領を訓練し、地域防災力を向上させるとともに防災意識の高揚を図った。各校準備部会、全体会議、訓練を行った。	7月17日 8月28日 10月7日 10月18日 10月25日 11月18日	6	1,876

四季のコンサート	春夏秋冬季節ごとの土曜日にコンサートを開催した。音楽を通して地域の人々の集いの場、癒しの場を提供し、活力に繋げた。また福祉施設の方々など普段市民センターに足を運ばない高齢者の外に出る機会を増やし、閉じこもりや生活不活発病予防の一助となった。	5月24日 7月5日 11月29日 2月7日	4	376
★第18回山田ふれあいまつり	地域住民や市民センター利用者が活動の成果を発表する場として開催。舞台発表、作品展示、こどものひろば、復興支援、フリーマーケット、防災などのコーナーを設けた。今年は市民企画講座の参加者が親子向けのブースを企画・運営した。	10月10, 11日	2	2,300
山田鉤取地域懇話会	地域の課題・ニーズについて、地域有識者等とその共有を図り、課題解決への指標を得た。また、教育関係機関との懇話会も開催し、同様の指標を得るほか、事業連携について模索した。教育関係機関の代表者との懇談、地域有識者及び市民センター利用者との懇談をした。	4月18日 2月21日	2	28
★ボランティアサークル「民謡・絆・ひまわりの会」フォローアップ	市民企画講座（復興支援講座）の交流会で「ボランティアサークル 民謡・絆・ひまわりの会」が生まれ、活動を広げていくための支援を目的とした。勉強会、山田ふれあいまつりへの参加、ボランティア活動などを行った。	4月23、26日 5月21日 6月4、25日 7月23日 8月27日 9月3日 10月22日 11月19日 12月17日 1月21日 2月18日 3月18日	14	224
市民企画会「地域の子育てを考える」	子育て支援に関心のある方や子育て支援者団体と、太白区内の子育てネットワークを活用し、「地域に根ざした子育て」を探り、考えを実践するための講座の企画・運営を行った。	5月14日 6月18日 7月16日 9月3日 10月1、11、29日 11月26日 12月17日 1月28日 2月18日 3月18日	12	61

茂庭台市民センター

〔沿革〕

茂庭台地区は仙台市西部に位置し、市内中心部から約 20 分の距離に位置しながらも、豊かな自然環境に恵まれている。

茂庭台市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始した。平成 2 年には児童館が併設された。

近隣には高層マンションや多くの福祉施設があり、高齢者、子ども、福祉施設の方々や外国人居住者の利用も多く、当市民センターは地域コミュニティの場となっている。また、地域住民、各種団体とともに、地域性を生かした事業や地域人材を活用した講座などを開催している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	集まれ！バルーンツイスターズ		
参加者	小学 5 年生～中学 3 年生	延参加者	32 人
開催日	全 6 回 7 月 26 日（土）、8 月 9 日（土）、8 月 23 日（土）、9 月 13 日（土）、 9 月 27 日（土）、10 月 5 日（日）		
協力者・協力団体	茂庭台児童館		
ねらい	茂庭台地区は小中学校の児童・生徒数が減少傾向にある。しかし、青少年が地域活動に参加することはますます求められており、また必要な体験と思われる。そこで、小中学生がバルーンアートを練習し、その技術をもって茂庭台地区の市民文化祭に参加することを通して、青少年のボランティア養成と地域参加を図ることを目的とする。		
概要・成果	参加者は高い意識で講座に臨み、市民文化祭当日のタイムスケジュールや担当の決定、提供する作品の選考などで自主的に意見を出し合い、協力して取り組んでいた。自分達が身につけたバルーンアートを市民文化祭で来場者へ提供し、地域に貢献したことは大きな自信になったと思われる。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン「茂庭台おしゃべりカフェ」	①親子で手作り「楽しいおもちゃをつくろう」 ②講話「乳幼児の食事と栄養」③講話「子どもと楽しく会話しよう」④参加者交流会	6 月 17 日 6 月 24 日 7 月 1、8 日	4	26
インリーダー研修会	参加児童へのインリーダーについての学習、世話人への子ども会の役割についての講話を行った。児童がインリーダーの自覚を持ち、子ども会活動の活性化を図るために実施した。	1 月 25 日	1	50
親子工作教室	実技：木製万年カレンダーを作ろう①木材採寸、カット②カレンダー制作	11 月 1 日	2	32
中学生職場体験	市民センターの役割説明、センターだより印刷、児童館事業補助、市民センターロビー装飾について、事業計画作成・プレゼン	8 月 19 日 ～8 月 22 日	4	8
梨野野菜作り体験講座	梨野地区の畑地を会場に、野菜づくりを通して農業体験を行った。畑づくりや種まき、生育状況に合わせた作業全般と収穫、交流会など	8 月 9 日 ～11 月 30 日	8	71

★茂庭台大学	・開講式 ギター演奏 ・講話 最近のニュースから ・歴史講話 政宗が残した夢 仙台城 ・茂庭台中学校の ALT を迎えて、国際交流 ・講話 上手な病院のかかり方 ・館外学習 縄文の森を訪ねて など様々なテーマで学習	5 月 16 日 ～3 月 6 日	10	438
元気アップ健康塾	健康な体づくりと介護予防のための「体力測定」「健康体操」「口腔・嚥下機能」をテーマとした講話と実技	10 月 24、30 日 11 月 7 日	3	41
「低栄養」って知っていますかーバランスの良い生活ー	低栄養が老化に及ぼす影響などについての講話と「缶づめを上手に使った献立」「市販のお惣菜を上手に利用した献立」「電子レンジを活用した献立」で調理実習	11 月 5、19 日 12 月 3 日	3	19
水道山自然探検	①水道山～蕃山自然観察会 ②水道山～太白山自然観察会 ③④ネイチャーゲーム&工作教室（2 回連続講座）	4 月 26 日 6 月 28 日 10 月 15、25 日	4	36
天体観望会	市民センター駐車場を会場に、移動天文台「ベガ号」で春に観測できる星座などを観測	3 月 20 日	1	52
★●地域防災講座	①新仙台地域防災計画の概要 ②避難所活動班イメーজトレーニングゲーム	9 月 20 日	1	50
複数年事業「もにわだいを歩き隊」ーM. A. Tー	①講話：茂庭台の歴史②～⑤茂庭台地域の散策 ⑥振り返り 「茂庭台案内人養成講座」として地域を歩き再発見をし、次年度にはマップ作成を行う。	6 月 15 日 7 月 13 日 9 月 21 日 10 月 12 日 11 月 9、30 日	6	76
みんなでワイワイ「七夕づくり」	「仙台七夕七つ飾り」にこだわった七夕をつくり、市民センター1 階のホールに飾った。	6 月 5、19 日 7 月 3、17、31 日	5	27
茂庭台地区市民文化祭	地域で活動するサークル・団体の日頃の学習成果の展示・発表や、広場で出店・イベントを開催し、地域住民の交流の機会を提供し、地域の活性化を図った。	10 月 4、5 日	2	3,028
★地域懇談会	①町内会関係者、地域団体関係者 ②学校関係者 ③サークル関係者、地域住民	5 月 17 日 7 月 4 日 1 月 22 日	3	55
市民企画「団塊世代の男性地域デビュー」企画会	団塊世代の男性の地域行事や市民センター講座への参加を促す講座の企画会議を行った。	6 月 18 日 7 月 16 日 9 月 10 日 10 月 15 日 11 月 12 日 12 月 17 日	6	16
茂庭台サークル体験会	市民センターで活動するサークル・団体の活動紹介と体験会の開催。	6 月 12 日 7 月 10、11 日 8 月 9 日 9 月 17 日	5	9

東中田市民センター

〔沿革〕

東中田市民センターは、平成元年 4 月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、素晴らしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●ほっこりサロンボランティア養成講座		
参加者	成人	延参加者	172 人
開催日	全 22 回 5 月～3 月		
協力者・協力団体	東中田社会福祉協議会、仙台市立袋原中学校、仙台市太白区家庭健康課 太白区中央市民センター		
ねらい	東中田地域は、震災以降、宅地化が進み、他地区からの居住者が増えている。新旧住民相互が交流できるサロン運営を目指してボランティアを養成し、さまざまな交流の中から支えあう地域づくりにつながる環境を整えていく。		
概要・成果	誰もが気軽に集えるサロン開催を目指して、傾聴の基礎知識とコミュニケーションツールとしてハンドマッサージ、タッピングタッチの技術を学んだ。参加者は乳幼児親子向け行事の中の 1 ブースとしてサロン活動を体験し、その後、継続的な活動を目指してサロンボランティア「ほっこの会」が立ち上がった。太白区中央市民センターの支援によるスキルアップの機会もあり、10 月から月 1 回「ほっこりサロン」を開催した。 また、袋原中学校で開催したサロンには生徒、先生、保護者の参加があり、今後も定期的に開催していくことになった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会の児童や世話人を対象に子ども会活動についての知識や技能を学習する機会を提供し、子ども会活動の充実を図った。	2 月	1	54
東中田わくわくタイム	センター活動サークルや地域講師から学ぶ、体験学習により世代間交流を図り、地域での子育てを支援する一助となった。	7 月～1 月	8	121
ジュニアリーダーと遊ぼう！	小学生がジュニアリーダーとの遊びを通して交流し、次世代のジュニアリーダーの育成とジュニアリーダーのスキルアップを図った。	10 月	1	59

名取川からのメッセージ	名取川の源流観察や先人の生活環境、鮭の遡上観察を通して環境保全の大切さを再認識した。	5月～11月	3	43
「家事メン」になろう	料理の基礎知識や調理実習、サークル体験を通して仲間づくりへとつなげた。	6月～10月	7	35
東中田いきいきタイム	体験学習の機会を提供することで、主体的な学習活動への参加意欲を高める機会となった。	7月～1月	6	65
東中田老壮大学	健康で豊かな生活を送るための学習の機会として体操、振り込め詐欺、認知症、自分史の書き方などを学んだ。また自主企画講座として文化祭を実施した。	5月～3月	10	573
みんなのコンサート	地域の人々が気軽にコンサートを楽しみ、地域に居ながらにして質の高い音楽を聴く機会を提供した。	7月～2月	4	250
★東中田地域防災ネットワーク	災害に備え市民センターが補助避難所になった時のマニュアル作りを通して、防災意識と災害に強い地域づくりを目指し、話し合いを行った。	4月～9月	6	15
東中田市民まつり	町内会や地域団体、地域サークルと連携し、学習発表の場と地域住民の交流の場を提供し、地域活性化を図った。	10月	1	3800
★地域懇話会	町内会や地域団体、学校、住民と意見交換し、地域課題やニーズ、要望を把握するとともに市民センターへの理解を深める機会になった。	6月～3月	2	21
市民企画講座 地元野菜を作って食べて 地域を知ろう！	名取川の河川敷に広がる畑を借用し、地元の農家の方から地域の特産野菜の栽培を教わりながら、皆で野菜作りを行い、地産地消の大切さや、地域の良さを再認識するとともに参加者同士交流を図った。	8月～12月	9	80
東中田の語り手ボランティア養成講座～語り編～	地域愛を育み、地域活性化を目指すために地域に伝わる民話や地域の歴史などを「語り継ぐ」ボランティアを養成した。	4月～3月	20	155
「みんなで東中田もりあげ隊」市民企画会議	東中田の食文化をテーマに地域を知り、住人同士の交流を図ることができる講座を企画した。	5月～3月	15	34

柳生市民センター

〔沿革〕

柳生市民センターは、平成 9 年 4 月に、市内 52 番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

こうした地域の特性と施設の機能を活かしながら、住民の多様化に対応した生涯学習の地域拠点として各種事業を展開し、地域のコミュニティ・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	地域の魅力発見		
参加者	地域住民	延参加者	255 人
開催日	全 37 回 4 月 12 日（土）～3 月 14 日（土）		
ねらい	地域と住民とのつながりが希薄になっている現状が見られるなか、多様な視点から、地域の魅力（資源・人材・課題など）をあらためて発見し、地域と住民をつなぐ新たな取組みを行っていく。あわせて、地域づくりの担い手として活躍する人材育成にもつなげていく。		
概要・成果	メンバーを「柳生まるごと楽しみ隊」と命名し、①食②公園③柳生和紙の 3 グループに分かれ、昨年度収集した地域の魅力情報を活用しながら、全体定例会 8 回ほか、各グループ学習を自主的に行った。 また市民センターまつりに参加し、学習してきたことを発表し、情報発信を行った。市民センター主催講座「ふれあい結いの輪」では、①食②公園グループのメンバーが講師として活躍。学習成果として、なつかしいおやつレシピ集、柳生小学校区内の公園マップ（下じき）、手作り紙芝居『柳生和紙ものがたり』をそれぞれ作成することができた。（平成 25 年度から継続）		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子でわくわく！	親子遊びや体験を通して、子どもや育児中の親同士の交流の場を提供した。回によっては J L や大学生のサポートを受け、若者世代の交流やふれあいもできた。①②親子体操③④わらべうた⑤親子サッカー⑥⑦親子でストレッチ⑧ダンボールランド	5 月 27 日 ～ 1 月 31 日	8	154
わいわいおはなしスペシャル	おはなしボランティアと連携し、絵本や紙芝居を楽しむ場を提供した。親子のふれあいが深まると共に、本を身近に感じる環境づくりとなった。使用した絵本の貸出しが増え、図書室利用拡大にもつながった。	12 月 6 日	1	22
柳生キッズクラブ	子どもたちが、集団遊びの楽しさ、物づくりの面白さ、実験を通じた科学の不思議さを体験できた。①ピンホン②グラスアート作り③ホバークラフトミニ模型作り 講師の卓球名人との交流など家庭ではできない体験もできた。	7 月 25 日 9 月 6 日 2 月 7 日	3	52

おいしく食べよう！旬野菜	柳生小やさい塾が育てた地場野菜を利用してうどん作りを体験した。野菜のおいしい食べ方や食について考える機会となった。また、子ども達の調理への興味も育った。	10月15日	1	22
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会リーダーとして活動する児童及び世話人が、活動に必要な知識を学んだ。	2月22日	1	44
子ども参画社会創造支援事業「エフエムたいはくキッズ情報局」	地域の歴史や財産などの取材・発信を通して、社会参画する意識を育み、地域への関心・愛着を深めた。また4館合同事業により、地域を越えた交流が広がった。①アナウンス研修②4館交流会③地域取材④エフエムたいはくキッズ情報局放送⑤子どもフォーラム参加	5月～1月	12	55
快適エコライフ	大量消費生活を見直し、限りある資源を有効に、資源を循環的に利活用出来るよう、ゴミ減量やリユースについて学習し、環境へ配慮したライフスタイルを学んだ。①生活ゴミの分別②不要傘のエコバック作り	10月16日 10月23日 10月30日	3	19
★柳生シニアスクール	高齢者の生涯学習推進と親睦を図った。①健康講話②軽運動③脳トレ④柳生の歴史⑤音楽⑥映画⑦文学⑧落語	5月～2月	10	424
★ふれあい結いの輪	柳生に転入された方と地域住民がさまざまな内容で交流し、輪を広げ、センターの利用拡大にもつながった。①民謡の輪②手作りたわしの輪③地域散策④おらほの自慢料理	6月4日 9月5日 10月17日 11月7日	4	82
★柳生地域防災講座	住民が自主防災の大切さを認識し、積極的に地域防災に関わることを目指し、学習した。①サバメシと防災ゲーム（東北福祉大学生作成プログラムを親子で学習）②防災ワークショップ（避難所作りワークショップで意見交換、世代間交流）	6月21日 8月30日	2	54
★柳生和紙の里コンサート	地域住民が気軽に生の演奏を楽しむ交流の場として開催し、出演団体には日頃の練習の成果の発表の場として提供した。①琴②ギターの調べ（西中田こみこみスクール出前講座）③クラリネットアンサンブル	7月5日 12月20日 2月28日	3	81
柳生市民センター・児童館まつり	市民センター利用団体や小・中学校・地域団体の学習成果の発表の場、及び地域住民の交流の場として提供した。①オータムコンサート②おまつりの部	9月27日 9月28日	2	2,700
地域懇談会	地域課題や地域ニーズの収集・情報の共有を行い、市民センターの事業運営に反映した。	6月24日 2月26日	2	34
おはなしボランティア養成講座「おはなし楽しみ隊」	おはなしボランティアが減少傾向にあり、新たなボランティアを育成した。併せて既存のボランティアのスキルアップも図った。①読み聞かせの意義②選書とプログラム③④実技 講座終了後、4名が新規加入した。	6月12日 6月18日 7月3日 7月10日	4	37
大人の元気UP会議	30～60代企画員8名で、働き盛り世代の現状を検証し、楽しく集えるアイデアを話し合った。今年度は、小さな種まきとして、「秋の焼きりんご～Tea Party」と題した拡大企画会議を開催し、17名の参加者から様々な意見をもらうことができた。	6月～2月	10	81

富沢市民センター

〔沿革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、名取川・JR 東北本線・国道 286 号線に囲まれた地域で、中央部を筑川が流れ、かつては富沢・大野田遺跡のある田園地帯であった。地下鉄開業以来、交通の利便性から宅地化が急速に進み、高層マンションと昔ながらの農地が混在する地域に変貌した。当地区は、単身・核家族世帯が多く、住民の転出入の頻度も高い。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娛樂室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、生涯学習の拠点として活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	富沢アクティブ、エイジングサロン～青年シニアワクワク遊ぼう		
参加者	50 代～60 代の成人	延参加者	50 人
開催日	全 5 回 8 月 9 日 (土)、9 月 20 日 (土)、10 月 25 日 (土)、11 月 29 日 (土) 12 月 20 日 (土)		
ねらい	ますます多様化する地域課題の解決のためには、地域の若いシニア層（青年シニア）の地域活動への参加が不可欠であるという認識のもと、地域の定年前後の方の参加を念頭に、楽しみながら、交流が図られ、かつ、各種地域活動へのきっかけ作りができるような企画を提示、実施し、継続的に地域の後継人材の発掘・育成を行う。		
概要・成果	1 回目から 3 回目の講座については市民センターが企画運営し、受講生には企画内容の面白さを体験してもらいつつ、組立ての工夫や運営のポイントなどをその都度紹介しながら、意識を高めていった。4・5 回目は自分たちの興味や富沢地域の魅力などを中心に話し合い、自分たちが楽しいと思える「サロン」にするにはどうするか、どんな「サロン」を開きたいかという話題へつなげた。サロンを開催することでシニア世代の仲間を増やし、地域の中でニューリーダーとして活躍できるような人材育成にもつながっていきたいと考えている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おはなしの部屋	0 歳から 4 歳の乳幼児親子を対象に気軽に参加できるおはなし会を実施した。絵本の読み聞かせや紙芝居、人形劇を通して親子の触れ合いを深めると共に、参加者同士の交流を図った。	5 月 14 日 ～3 月 4 日	10	504
●子育て支援講座 ママ、カフェ 「パセリ クラブ」	2～3 歳の子どもを持つ母親を対象に地域の子育て支援情報を提供し、子育て支援団体と親子とをつないだ。また、親子の交流イベントを通して地域で育む子育て環境をつくることを目指した。	11 月 5、19 日 12 月 3、12 日	4	190
市民企画講座「健康は、毎日食べる野菜から」	1 回目は小学生の保護者を対象に講話「野菜と育もう！未来の健康」、2 回目は、小学生とその保護者を対象に親子クッキング「野菜で作るお菓子ってどんな味？」を開催した。	2 月 21、28 日	10	21

とみざわ子どもの広場	小学生を対象に体験学習、交流の場を提供した。今年度は科学に対する好奇心を育てることを目的に、筑川観察会、天体観望会、ロボットと仲良くなろう、炎の不思議、科学であそぼうを実施。	6月28日 7月18日 9月6日 12月13日 1月24日	5	201
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童と世話人を対象に行事の企画やゲームの運び方などを学んだ。	2月15日	1	45
中学生職場体験	富沢中学校2年生3名を受け入れた。市民センターの仕事内容を体験することにより、中学生が「仕事をするための心構え」や「責任をもって仕事を行うことの大切さ」などを学ぶ機会を提供した。	11月11～14日	1	3
富沢小学校連携講座「地域を知って富沢博士になろう！」	地域の歴史や史跡について、ウォークラリー形式での体験学習等を行い、地域への理解を深めると共に、学習成果を地域住民、保護者へ発表することで、地域交流の促進と学習資源の共有を図った。	10月24日 1月21日 12月19日	3	306
大野田小学校連携事業「みんなが住みやすい大野田を目指して」	3年生の「住みやすい町づくり」の授業の一環として、妊婦さん、お母さん体験&高齢者疑似体験をした。まちに住むさまざまな人々の存在を知り、共に暮らす人々についての理解を深めた。	7月11日	1	111
大野田小学校連携事業「国際理解～はじめの一歩～」	仙台国際交流協会と連携し、6年生を対象に異文化体験ゲーム「バーंगा」を実施した。在仙の外国人の方とゲームをしながら直にふれあい話を聞く体験を通して、異なる文化をもつ人々との接し方について考えた。	11月18日	1	112
★防災講座 今をみつめて 未来へつなぐ	社会学級と共に企画した事業。東日本大震災当時の記憶が薄れていることを危惧し、当時の思いを風化させず、今後の防災につなげるための学習の場とした。	10月30日 11月27日	2	86
富沢シニアクラブ	健康講話や館外学習その他、教養を高める講座を開催し、高齢者が地域で孤立することなく豊かな生活を営めるよう親睦や交流を深める場を提供した。	5月16日 ～2月15日	10	483
富沢市民センター懇話会	地域父親の会や地域の人財(材)との情報交換を通じて、地域ニーズを把握し、地域イベントへの参加やセンター広報等の改善を図った。	6月14日、2月7日	2	20
★●とみざわ、園芸カフェ	市民センターを拠点に関係各所と連携しながら、土作りからの野菜作り等園芸を通じた被災者支援と地域住民との交流事業を進め、復興への一助とした。	5月16日 6月6日 7月4日 8月1日 9月19日	5	66
社会学級共催事業企画会	西多賀、富沢、大野田の各社会学級と地域の問題、課題を拾い上げて学習テーマとして実施するための企画会議。今年度は大震災を忘れることなく、防災に関心を持たせるための学習とした。	5月22日 6月27日 9月10日 10月22日 11月12日 3月11日	6	18
富沢市民センターまつり	市民センター利用団体、町内会等の参加発表の場とし、地域住民のコミュニティづくりの場とした。中学生ボランティアなどが運営に参加し、地域住民と交流した。	10月5日	1	3,000

《太白区》

図書ボランティア養成講座	ボランティア活動を希望する人材の発掘を行い、育成すると共に、既存ボランティアのスキルアップ研修を実施し、充実した図書室運営とボランティア活動の活性化を図った。	5月31日 9月3、25日 1月31日	4	16
おはなしボランティアスキルアップ講座	主催講座「おはなしの部屋」や、近隣の小学校、児童館等で読み聞かせをしている方を対象に、「子どもが楽しい読み聞かせ」をテーマに、スキルアップ講座を実施した。	11月26日 2月25日	2	43
市民企画会議 「テーマは＜食＞～みんなで語ろう、考えよう！～」	企画員は大学生13人、10回の企画会議を開催した。企画会議で「食」について話し合い、小学生の食の大切さに注目した。問題解決のための講座「健康は、毎日食べる野菜から」を企画し、実施した。	6月18日 ～2月28日	10	93

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置されたのが始まりで、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称され現在に至っている。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称され現在に至っている。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	秋保自然工房「山の恵みクラフト」		
参加者	成人	延参加者	37 人
開催日	全 3 回 10 月 3 日 (金)、10 月 17 日 (金)、11 月 1 日 (土)		
ねらい	秋保地域内外から受講生を募り、自然の素材を活かしたクラフト作りを通して、里山の現状を知ってもらう。また、秋保の魅力を発信するサポーターとなる人材を発掘・育成する。		
概要・成果	荒廃が進む秋保地域の里山の現状を学び、その里山からの恵みである、つるや木の実を使って、つる編みの鉢カバーと小物入れを作った。クラフト作りを通して、里山が直面している問題や自然保護への関心も高まった。また、文化祭で作品を展示し、秋保の資源素材や地域の魅力も発信することができた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●あきう子育て広場	少子化が進む中、子育てに悩む母親の孤立感を緩和し、子育ての大切さと楽しさを実感出来るための情報交換・交流の場づくりとして、親子で楽しめるリトミックや食育講座を開催した。	6 月 25 日 8 月 27 日	2	28
秋保ファミリー体験講座 「あきう遊々クラブ」	秋保の自然環境を活用し、小学生以上の親子を対象に、火おこし体験・ツリーイング・冬芽観察などのアウトドア体験学習を行った。	6 月 8 日 6 月 29 日 11 月 30 日 1 月 25 日	4	129
インリーダー研修会	子ども会リーダーの児童及び育成者を対象に、子ども会活動に必要な知識や技術などについて研修を行った。世話人向けに講話、児童向けにレクリエーション・ゲームの学習と実践を行った。	6 月 14 日	1	56
「がんばれ秋保っ子」 キックベースボール大会	広域に点在している学校・学年の枠を超えた秋保地区の子どもたちの健全育成と交流を図るため、キックベースボール大会とニュースポーツ体験の 2 本立てで実施。	10 月 19 日	1	43
子どもの上手なほめ方講座	親子関係を見つめ直すための講話とワークショップを、企画員と一緒に運営・開催した。	9 月 21 日	1	10
健康ストレッチ体操講座	湯元市民センターを会場に、無理なく、楽しく体を動かす事で、健康増進、健康維持を図るストレッチ体操を行った。	7 月 2、9、6、 23 日	4	51

秋保自然紀行 「森づくりとトレッキング」	里山・奥山と住民の生活との関わり方の変遷と今日抱えている問題等を、講話や植生観察を行いながら学習し、自然保護の意識を高めた。講話、トレッキング、枝打ち作業体験や間伐見学等を行った。	5月14日 6月11日 11月12日 12月3日	4	46
サークル体験会	サークルに新しいメンバーを迎え入れることで、活動の活性化を図るため、希望者を募り、秋保市民センターで活動するサークルに参加・体験を行った。	4月19日 ～9月6日	5	8
「いってみっぺ秋保路もみじウォーク！」	秋保地域資源活用委員会で作成した資料をもとに、秋保の魅力を紹介するガイドウォークを開催した。	11月9日	1	62
あきう熟年のひろば	高齢者が学習し、教養を高める機会を提供すると共に、心豊かに健康に生きることや、自由な社会参加の推進を図ることを目的として開催。教養講座や健康講話・音楽鑑賞などを実施。	5月15日 ～2月19日	8	163
秋保郷土かるた大会	秋保地区小中学生、地域住民が3人1組でチームを編成し、世代を超えて交流を深めることを目的として実施。秋保の風土・伝統・文化について分かり易くつづった「秋保郷土かるた」を用いたかるた大会を開催した。	1月10日	1	81
秋保地域出前講座	馬場・湯元地区の町内会や高齢者サークルを対象に、出前講座を行うことで、地域住民の学習の場を設け、交流を図った。健康管理、地域づくりに役立つ講座を実施。	7月6日 ～11月16日	4	78
●秋保地域資源活用委員会	秋保地域の資源を調査し、有効活用法を考えて秋保地区の活性化・地域力の向上を図ることを目的として活動してきた。三年間のまとめとしてガイドマップを作成し、フォーラムで成果を発表した。	4月19日 ～3月7日	16	313
秋保ふるさと文化祭	地域の文化団体、小中学校、幼稚園、個人や秋保市民センターを利用するサークルや講座作品等の発表の場をとして、地域交流を図った。サークル作品・講座作品の展示のほか、ロビーコンサートやサークルの出店を行った。	10月25、26日	2	799
秋保ふるさと文化祭移動展示会	サークルの発表の場を広げ、地域文化の発信の場とするため、秋保・里センターで秋保ふるさと文化祭の作品を展示した。	11月6日 ～11月11日	5	1,380
秋保ふるさと舞台発表会	サークル発表の場として、秋保・馬場・湯元市民センターで活動中の団体、個人の音楽や舞台の発表会を行った。	12月7日	1	329
地域懇話会	地域住民や利用者のニーズを把握するとともに市民センターに対する理解を深めてもらうことを目的として、地域団体や利用者団体等と懇話会を実施した。	4月19日 7月17日 8月5日	3	41
★震災後の地域復興講座	東日本大震災を教訓に、地震などの災害に対する防災意識の向上と、生命の安全確保を目的とした実践的講座を実施した。	6月29日 11月16日	2	208
秋保の小さなコンサート	音楽を学んでいる在仙の学生のナビゲートによる、レクチャーコンサートを開催した。	3月10日	1	29
市民企画会議 「いってみっぺ秋保路ウォーク企画会議」	秋保地区の魅力を発見し、それを広め、秋保地区を活性化するためのガイドウォーク企画会議を開催した。	8月23日 9月27日 10月18日 11月8日	4	23
市民企画会議 「秋保プロジェクト26委員会」	小中学生の保護者が主導・企画して青少年育成事業を検討・実施するための会議を行った。	5月18日 ～10月7日	6	39

泉区中央市民センター

〔沿革〕

泉区中央市民センターは、昭和 22 年 9 月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和 43 年 7 月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成 16 年 1 月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と仙台市の副都心として急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●アートフルいずみゆめ工房		
参加者	中高生	延参加者	65 人
開催日	全 18 回 5 月 24 日(土)、6 月 28 日(土)、7 月 20 日(日)、8 月 24 日(日)、9 月 27 日(土)、10 月 5 日(日)、19 日(日)、25 日(土)、26 日(日)、11 月 22 日(土)、12 月 13 日(土)、1 月 7 日(水)、24 日(土)、31 日(土)、2 月 7 日(土)、14 日(土)、15 日(日)、3 月 22 日(日)		
協力者・協力団体	泉区中央市民センター、東北生活文化大学、東北生活文化大学高等学校		
ねらい	当市民センターでは、ジュニアリーダー以外の中高生の利用や中高生を対象とする講座が少ない。今回、大学生や地域団体等からの助言を受けながら、アートを通して子どもたちが表現活動する場を提供すると共に、市民センターや近隣地域を会場にアートで地域を盛り上げる企画を発信し地域交流・活性化の一助とする。		
概要・成果	アートが好きでオリジナルのアイディアを考えたり、じっくりと地道なものづくり作業をする子どもたちが集まった。当初はそれぞれ自分の好きな絵を描いたり、好きなものを造ったりしていたが、大学訪問をきっかけに大学生との交流が深まり、ワークショップなどの活動にも興味が湧いてきた。その後、大学の版画ゼミでのワークショップを体験したことにより、センターまつりでは消しゴムはんこバッグ(ワークショップ)、あそびの天国ではお化け屋敷プロデュースなど、積極的に地域活動に取り組んでいた。		

〔平成 26 年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●パパ&ママふぁんふぁんフェスタ 2014	地域の子育て団体と連携し、気軽に参加しやすい交流の場となる「おやこびくすであそぼう」「幼児の安全法」「親子で楽しむクリスマス料理」などを実施。	10 月 1 日 11 月 8、27 日 12 月 21 日	4	325
いずちゅーキッズ	小学生の長期休暇中の居場所や体験学習の場を提供。「移動天文台」や「つみ木広場」新聞紙と和紙を使つての「かぼちゃづくり」「ジュニアリーダーと遊ぼう」などを実施。	5 月 16 日 7 月 24 日 9 月 6 日 1 月 24 日 2 月 28 日	5	142
ウェルカムいちんなキッズ 2014 (七北田小学校・市名坂小学校合同インリーダー研修会)	小学校高学年を対象に子ども会活動での「活動プログラムづくり」。保護者を対象に「危険予知トレーニングについて」の研修を実施。	11 月 29 日	1	39

泉区中央市民センター職場体験	小中学生のキャリア教育の一環として市民センターの窓口業務や講座の受付を体験。	11月11、12、13、14、20日	5	22
伊達な男のたしなみ講座	男性が気軽に参加・交流できる機会とし、お酒に関する講話と実技。趣味を生かしイキイキと活動している音楽団体による講話・演奏を実施。	6月27日 7月4日 2月21日	3	35
泉シニア塾文化コース	高齢者の方が健康な生活を送るために「仙台城～発掘からみえてきたもの」「成年後見制度」「宮城県の経済の動き」等の講話や実技として「五行歌」「古代文字で作る年賀状」、館外学習、「コンサート」等を実施。	5月21日 ～2月18日	9	473
泉シニア塾健康コース	高齢者の方が心身ともに健康で豊かな生活を送れるように「ラフターヨガ」や「ニュースポーツ（ディスコン）」「血管年齢の測定」などの講話や実技を実施。	5月21日 ～2月18日	9	379
ふるさといずみ再発見	地元の歴史を知るために、七北田宿を歩いて昔の面影が残る場所を巡った。また館内にあるふるさとギャラリー展示物に関する講話を聞いたり、住民が作った方言カルタを体験し、参加者と住民が交流した。	5月14、28日 12月4日 3月4日	4	57
泉中央交流カフェ2014 ～ともに楽しむ～	震災避難者と地域住民が気軽に交流する場として「七北田公園散策」「コンサート」「伝統料理」「ニュースポーツ」などを実施。	5月22日 ～2月5日	10	281
★●泉中央減災講座	地域ぐるみで災害に強い街づくりを目指すとともに、昨年に引き続き普通救命救急講習、イザというとき役立つ防災リュックづくり・アルファ米等の試食会を実施。	6月18日 1月22日	2	44
七北田 JL サークルありす定例会	子ども会や市民センター、児童館の主催事業でのボランティア活動等、青少年の地域参加活動を促した。自主活動して月1回の定例会や追いコン等を実施した。	4月6日 ～3月22日	13	56
学校ボランティア体験講座	地域内小学校でのボランティアを体験した。市名坂小では支援地域本部のサマースクールで七夕作りのボランティアを体験。また、七北田小では3年生の子供達の模擬授業と2年生の昔あそびの授業でボランティアを体験。	7月28日 ～12月12日	3	6
男性企画員による「懐かしの手仕事ものづくり講座」企画会	「ものづくり」に関心のある男性企画員が仲間づくりをしながら、地域に貢献できるような講座を企画。	4月10日 ～1月14日	8	32
まつりだよ！泉区中央	市民センターを利用・活動しているサークル団体及び地域団体による作品展示、ステージ発表、ワークショップ、お茶席、にぎわい市などを実施。	10月25、26日	2	2,013
泉区中央地域懇話会	減免申請、次年度の事業計画（案）の説明。市民センターの運営、事業等に関する意見要望および情報の共有・交換を実施。	2月7日 2月25日	2	19
男性企画員による「懐かしの手仕事ものづくり講座」	男性企画員による実施講座。今回は、身近な自然素材を使って「七夕飾り」「竹細工のきつつき・鶴」「布ぞうり」などを実施。	6月20日 ～3月12日	7	108

根白石市民センター

〔沿革〕

根白石市民センターは、昭和 21 年 11 月、根白石小学校内に設置され、昭和 23 年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和 28 年に公民館新築促進が決議されてから 10 年の経過を経て、昭和 38 年 7 月、待望の公民館が移転新築された。以来 20 年余、根白石唯一の社会教育施設として活動が続けてきたが、老朽化により昭和 63 年 4 月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299 席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	●泉区西部のまち興し“かむりの里 風揚げフェスタ”		
参加者	地域の小中学生、地域の方	延参加者	450 人
開催日	全 20 回 6 月 21 日(土)～12 月 16 日(土)		
協力者・協力団体	泉西部地区連合町内会、ふるさと創生会、根白石商店会、仙台風の会、昔遊びボランティア、根白石小学校、福岡小学校、実沢小学校、根白石中学校、根白石児童館、館児童センター、住吉台児童センター、根白石温水プール、泉西部地区老連、地域内各小学校区子ども会育成会、各小学校PTA、泉区中央市民センター		
ねらい	自然や環境の豊富な地域資源を活かし、地域の諸団体と協力し合いながら、人々が互いに支え合い共に生きる“まち”として活性化させることを目指す。それとともに、まち興しには欠かせない、根白石の良さを発信できる人の養成を目的とする。		
概要・成果	泉区中央市民センターとの共催事業 3 年目。泉区西部のまち興し会議を 6 回、風づくり出前講座を 13 回開催し、風揚げフェスタ当日を迎えた。地域の小中学校や地域諸団体と協働して事業に取り組んだことにより、地域コミュニティの結びつきがより強まり、地域人材の新たな掘り起しに繋がった。また、風作りサポーターの技術指導の面でのスキルアップもみられた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
根白石の正月行事～いっしょに作ろう～	根白石の伝統行事「正月飾り作り」と「だんごさし」についての講話と実技	12 月 23 日 1 月 10 日	2	58
あつまれ！元気キッズ	小学校に出向き、「忍者バルーンスライムづくり」「消しゴムスタンプづくり」「うぐいす笛づくり」を実施	6 月 11 日 7 月 16 日 11 月 15 日 12 月 3 日	4	119
チャレンジ！体験！親子で楽しく学ぼう！	小学生親子を対象に工作、天体観望会を実施①木工ベンチ作り②こけし絵付け体験③ベガによる天体観望会	7 月 26 日 10 月 11 日 11 月 21 日	3	119
インリーダー研修会	小学校高学年向きに、行事立案の立て方・危険予知トレーニング・バルーンアート・ジュニアリーダーとのゲームなどを実施	8 月 21 日	1	50
楽しくステップ！気軽に踊ろうカントリーダンス	健康講話とカントリーダンスの実技（ウォーキング法・ダンスステップの基礎・仕上げ・成果発表会）	6 月 26 日 7 月 3、10、17、 24 日	5	81

市民企画講座「歴史と水のふるさと根白石～清らかな水の流れと人々の暮らし	「福岡大堰」についての講話	11月22日	1	11
★●さわやか大学	①開講式・サックスコンサート②石川啄木について③根白石の歴史講話④陶芸⑤コミュニケーション講座⑥救急対応講座⑦山里よもやま話⑧軽体操⑨健康講話⑩閉講式・歌	5月15日 ～3月5日	10	259
根白石民俗ミニ七夕づくり	根白石民俗ミニ七夕の由来についての講話仙台伝統七夕七つ飾りの他根白石民俗的な七夕馬、ぞうり、わらじを鉢植え竹に飾る	7月5、18、25、 29日 8月2、5日	6	75
出前講座	大正琴・ギター演奏、演芸鑑賞	9月5、18、25 日 10月21日 11月11、18日	6	163
★ふれあいウォーキング	根白石の地域防災訓練①歩いて避難②炊き出し訓練③簡易トイレ組立て訓練	11月3日	1	109
市民企画会議「伝えよう、根白石の魅力」	根白石地域の魅力を発信する講座やイベントを企画する会議①企画員の自己紹介、今後の計画②・③・④根白石の魅力についての話し合い、講座の企画	6月7、20日 7月11日 8月1日	4	25
小学校区社会学級連携事業企画会議	実沢・根白石・福岡小学校社会学級と連携する事業の企画会議	6月25日 7月17日 9月17日 11月26日	4	10
冠三校社会学級共催「ノルディックウォーキング」ってなあに？～はじめの第1歩みんなで楽しく体験してみましょ～	ノルディックウォーキングについての講話と実技	10月28日	1	23
冠のふるさと伝承まつり	地元の小中学生による伝統芸能の発表会。「鹿踊・剣舞」「アセ踊り」「大正踊り」「しの笛・鹿踊」	10月18日	1	299
根白石市民センターまつり	市民センター利用団体の展示、舞台発表。地域の小学校や住民の作品展示。地元産野菜や授産施設による販売。仙台オープン病院による骨密度測定コーナー	11月9日	1	660
地域ぐるみふれあいコンサート	根白石中学校・住吉台中学校・館中学校の吹奏楽合同コンサート	10月13日	1	115
地域懇談会	①当市民センター利用サークル代表との懇談会と情報収集・情報提供②泉区西部地区連合町内会役員の皆さんと地域課題についての話し合い	11月20日 12月19日	2	22
ジュニアリーダー定例会	要請内容と参加者の確認・活動の報告と反省・仲間同士の交流・技能研修など	4月23日 ～3月18日	21	162
根白石ガイドボランティア養成講座	地域ガイドボランティアの育成	2月7日	1	4

南光台市民センター

〔沿革〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が使用不能となったため、平成 23 年 4 月より仮事務所で生涯学習事業を行っていたが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが建築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開した。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●南光台地域防災力向上計画'14		
参加者	南光台中学校生徒・地域住民	延参加者	161人
開催日	全 1 回 9 月 26 日(金)		
協力者・協力団体	南光台中学校、泉消防署八乙女分署、南光台地区町内会・老人会・婦人会・仙台市泉区区民生活課 他		
ねらい	高齢者の多い南光台地区において、地域の防災力として中学生が果たす役割は大きいことから、災害発生時の様々な想定をもとに、中学校と地域の関係団体が協力しながら、各方面で連携した体制を整えていく。		
概要・成果	今回は主にレスキュー学習(救急救命 AED 訓練、簡易トイレ組み立て、多目的テント設営、非常食づくり等)を行った。 中学生にとっては、地域の方たちと一緒に活動ができ、地域の一員としての自覚が生まれた。また災害に対する危機意識や共助の大切さが、中学生・地域住民それぞれの立場でさらに強く認識されるようになった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
夏まつり子ども会大会	ふるさとづくりの一環として、子どもたちの健全育成に寄与するとともに地域の諸団体との連携の強化を図るため、市民センターのコーナーを設け毎年参加している。平成 26 年度は「わらすこの里」の協力を得ながらビュンビュンごまを提供した。	8 月 19 日	1	559
ジュニアリーダーとたのしくあそぼう	南光台児童館・南光台東児童センターと共催し、ジュニアリーダー「南光台アドバルーン」メンバーが小学生に学年を超え交流できる遊びを指導。	8 月 1 日 12 月 25 日	2	96
ワケルくんと学ぼう	南光台小学校・南光台東小学校と共催。泉環境事業所の職員によるゴミ分別ゲームと地域講師による講話を実施し、4 年生児童に環境問題の啓発につなげた。	6 月 24 日 9 月 18 日	2	221
地域の魅力発見 ～台原森林公園で健康づくり～	台原森林公園を会場に、ノルディックウォーキングによる健康づくりを行い、地域資源としての公園の魅力を再認識する機会となった。。	6 月 14 日 6 月 21 日	2	15

★自分史講座 ～震災を乗り越えて～	ひとり一人思いを語った後、文章を起こすための勉強会を開催。各自自分史を執筆後、製本し、反省会を行った。	7月1日 ～2月3日	10	98
南光台学院	オリエンテーションも含め、全11回終了。健康に関すること、時事問題に関すること等の学習の他、受講生による自主企画を2回実施し、文集も作成した。	4月～2月	11	653
南光台絆づくりのつどい	南光台市民センター利用団体、地域団体による舞台・展示発表	10月18日	1	550
すぐに使える魔法のことば ～コーチングで学ぶコミュニケーション～	南光台社会学級・南光台東社会学級と連携し、企画会を経て実施した講座。住民間のコミュニケーション促進のためにコーチングを学んだ。	10月30日	1	31
南光台絆づくりのつどい 企画委員会	「南光台絆づくりのつどい」に向けて、主に南光台市民センターで活動しているサークルを中心に実行委員会を結成し、準備にあたった。	7月26日 9月20日 10月4日 11月1日	4	45
社会学級連携企画会議	南光台社会学級・南光台東社会学級と連携し、地域課題に取り組む事業を検討し、役割分担しながら事業を実施した。	5月～10月	5	20
★市民センター出前講座 ～笑って笑って歳忘れ年齢忘れ～	市民センターから距離的に離れている町内会の集会所を使って、ちんどんパフォーマンスを企画・実施した。	12月20日	1	45
南光台市民センター懇談会	地域ニーズや課題を把握し市民センター運営に反映させるための地域諸団体との情報交換を行った。加えて平成26年度は再開館についての予定・新建物概要・利用手続きの説明を行った。	2月7日 2月14日	2	204
●南光台スマイルひろば 企画委員会	市民センターに新設予定の「親子室」の有効活用についての検討を行った。	9月12日	1	7
ジュニアリーダー育成支援	月定例会の実施、子ども会等への派遣要請への対応、スキルアップ支援、ジュニアリーダー募集活動等を行った。	4月5日 ～3月7日	10	33

黒松市民センター

〔沿革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	●真美沢公園ネットワーク事業～真美沢公園元気プロジェクト～		
参加者	中学生、地域住民	延参加者	207 人
開催日	全 12 回 4 月 19 日(土)～3 月 14 日(土)		
協力者・協力団体	泉区公園課、泉区まちづくり推進課、地域の各町内会、八乙女中学校、真美沢公園を美しくする会		
ねらい	地域の中心にある真美沢公園は自然豊かで広域にわたっているが、様々な理由から地域住民にとって気軽に散歩できる公園ではないことから、何とかできないかとの声が多い。こうした背景のもと今後の真美沢公園の利活用に向けて近隣の様々な団体や住民と連携しながら事業を推進する。そこから地域住民自らが主体となって地域資源を守り、人の交流によるネットワークづくりや、まちづくりにつながる人材育成を目指す。		
概要・成果	本事業は、平成 25 年度から複数年事業として実施しており、初年度に地域の3連合町内会（黒松連合、八乙女連合、八乙女地区連合）と学校支援地域本部から成る「真美沢公園を美しくする会」を立ち上げスタートした。現在は、それに地域住民が加わったメンバー構成になっている。 事業の概要としては、月 1 回の定例会のほか、真美沢公園を活用したイベントの実施（観桜会、自然観察会）、及び下草刈りなどの環境整備活動があげられる。 成果としては、地域住民が「自分達で出来る事を、出来る時に無理なく」というスローガンが浸透してきて、年々地域から参加が増え、活動に広がりが見えてきている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
黒松わんぱく親子農園	親子が食や自然の恵みを実感し、共通の話題づくりにつながり、また、黒松老人憩いの家の空地活用により老人会、地域との交流を進めるため、種々の野菜作りを行い、収穫祭を実施した。	4 月 27 日 5 月 11 日 6 月 11 日 7 月 19 日 8 月 2 日	5	87
「親子で Enjoy ! ちびっこフェスティバル」	近隣の児童館と市民センターが連携を図りながら、お互いの協力関係を強め、地域の子育て支援をさらに充実させることを目的に、ゲームや工作、子育て相談などのブースを設けた乳幼児親子が交流するためのイベントを開催した。	11 月 13 日	1	353
ママのリフレッシュタイム	黒松児童館との連携講座を含めた、軽体操や親学講演などを実施し、子育て中の親の学びと、親同士の交流を通して、地元の子育て支援団体や町内会とのつながりを深め、健やかな子育てにつなげる一助とした。	5 月 9 日 6 月 12 日 7 月 2 日 8 月 29 日 9 月 19 日 10 月 23 日 11 月 12 日	8	167

職場体験学習	中学生が勤労観・職業観を深め自分の将来について考える場を提供するとともに、地域が一体となって子どもを育む環境を作ることを目的に、中学校の職場体験活動の受け入れを行った。	10月21日 11月27日	2	6
黒松わくわくタイム	子ども達が学校の授業だけでは学べない様々な体験や遊びを通して、子ども達の向学心や好奇心を高めるとともに、社会性を学ぶきっかけづくりとした。地域資源（人材、自然他）を活用した環境学習や野外体験、料理講座を実施した。	6月15日 7月13日 9月14日 3月7日	4	39
★●防災プロジェクト 2014～その時わたし達に できること～	中学生を対象に地域に貢献できる人材としての自覚を促し、地域防災力向上の一助となることを目指して、前半は町内会単位で中学生を交えた実践訓練を実施、後半は学年毎に、簡易トイレ組立、けが人搬送、炊出し、AED訓練など様々な防災体験学習をした。	9月20日	1	700
ジュニアリーダーと遊ぼう	異年齢交流のための遊びの場の提供とジュニアリーダー活動の充実を図るため、研修の成果を発揮する講座内容を小学生向けに実施することで、ジュニアリーダーのより地域に根差した活動を促した。	10月18日 1月25日	2	18
市民企画講座「パパッと簡単！元気レシピ」	料理の楽しさや食の大切さを伝え交流することで食育の推進を図ることを目的に、調理時間や手間がかからずに出来る料理を調理実習で学び食育講話を行った。	10月9、15、22日	3	43
気軽にできる運動講座	運動する機会が減り、健康に不安を感じている方も多い。運動を含め、自らの健康維持のための講座のニーズ・関心が高い。そこで、家で簡単にできる運動講座を企画し、地域住民の健康維持のための一助とすることを目指した。	2月3日	1	28
黒松寿大学	高齢者が健康で心豊かに生活を送るための学習の機会を提供するとともに、運営委員会による企画・運営を行うことで、高齢者の主体的、かつ意欲的な学習を促進した。内容は、講話、コンサート、館外学習など。	5月～2月	9	488
いきいきシニアの生活サポート講座	地域の包括支援センターや社会福祉協議会と一緒に、高齢者が心身の健康保持、安定した暮らしができるように地域で支えることを目的に、講話と実技で学習した。	11月5、19日 12月3、17日	4	63
第4回 ボッチャ大会	閉じこもりがちな高齢者を中心に地域の様々な住民や諸団体の参加による幅広い交流を図ることを目的に、バリアフリースポーツであるボッチャ大会を行った。	10月10、30日	2	48
地域の食の企画会	地域で抱えている高齢者や子ども達の食についての課題解決に向けて、食に関心の高い地域人材を中心に、講座を企画した。	6月28日 7月5、12日 9月9日 10月9、15、22日	8	31
★黒松ふれあいコンサート	震災により避難して八乙女黒松地区に住み始めたという方々が、地域の皆と一緒に音楽を聞き心を癒す機会を持つことを通して、住民との交流を図るきっかけとすることを目的に、コンサートを実施した。	10月29日	1	90
社会学級共催事業検討会	八乙女中学校区の2つの社会学級と市民センターが協力し合って地域の課題を共有し、地域のネットワークや生涯学習環境の整備、向上を目的に、講座の企画検討会議を行った。	7月15日 9月2日 10月7日 2月3日	6	12
黒松市民センターまつり	生涯学習の振興及び地域住民の交流とコミュニケーションを促進することを目的に、サークルや学校、地域団体による学習成果発表（ステージ、作品展示）や活動紹介などを行った。	9月27日	1	1,208

黒松市民センター懇談会	地域課題の共有・解決のため、広く地域団体から意見を聴取するとともに市民センターの役割や事業について地域団体に理解を深め、情報交換の場とした。	5月21日 2月18日	2	50
ジュニアリーダー定例会	地域の担い手としての青少年の社会参加を促すために、地域の子ども会、育成会、町内会などからの要請に応える。また、活動の充実を図るため研修会やスキルアップ等の支援を行った。	4月～3月	12	59
中高生ボランティア養成講座	ジュニアリーダーを核とした地域の中高生を対象とした、町内の夏まつりや市民センターまつりなどで活動するための技術を学び、地域に根差したボランティア意識の醸成を図った。	7月13日 8月31日	2	22
地域の魅力を記録しよう	地域の魅力を転入者や次世代に伝えるため、情報を保存、発信した。内容は、データの整理と編集の実技、センターだよりとブログでの発信、成果物の作成、センターまつりでの展示発表。	4月～3月	12	192
★サークル活動でいきいきライフ	震災避難者なども含めた新たな住民が地域に溶け込む一方法としてサークル体験会を実施した。	5月14、27日 6月25日 11月11日	4	36

将監市民センター

〔沿革〕

将監市民センターは、昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月には「将監市民センター」と改称された。

平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月に再開し現在に至っている。当市民センターは、軽スポーツ活動が可能な多目的ホールを有し、多くの人々に利用されている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	歴史講座「支倉家第 13 代が語る支倉常長」		
参加者	地域住民	延参加者	107 人
開催日	全 1 回 7 月 5 日(土)		
協力者・協力団体	「将監沼の自然」とふれあいを育む会		
ねらい	将監地域に長く住んでいる住民でさえも将監の歴史をあまり知らないという現状を踏まえ、地域住民が歴史講座を通して自分たちの住んでいる将監地域にまつわる歴史を学ぶことにより、郷土愛を育む一助とする。		
概要・成果	講師に支倉家第 13 代支倉常隆氏を招き、支倉常長や将監地域にまつわる歴史上の人物・将監沼の造成の歴史・将監の地名の由来などについて学んだ。第 13 代支倉氏が講師ということもあり、地域の多くの方の参加があり、郷土愛を育む一助とするねらいは達成できた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
男の食彩～健康寿命を延ばす食	男性を対象とした食と健康をテーマにした講話と調理実習 2 回を開催した。食と健康に関する知識の向上と調理技術を学び、男性の家庭内での自立と生活習慣病の予防に役立った。	11 月 6 日 ～11 月 27 日	3	45
食育を考える	泉区家庭健康課と将監児童館と共催し、小学生が食の大切さを知り、健康的な食習慣を身につけるきっかけ作りとして、2 回の調理実習を行った。	2 月 4、28 日	2	48
こどもチャレンジ講座	地域の小学生を対象に、学校では経験できない工作や科学実験、食育など様々な体験の機会を設けた。ドライアイス実験・ヒップホップダンス・ストラップホルダー作り講座を実施。	8 月 22 日 10 月 25 日 11 月 22 日	3	60
こどものまち	児童が、異学年、異世代との交流を図り、地域社会への関心を高めることを目的に、ボランティアの支援を受けながら就労体験を行った。	12 月 6 日	1	76

職場体験講座	市民センターの役割などを学びながら、利用者対応・サークル活動の見学、施設の整備の仕方、講座の企画書づくりなどを学んだ。	11月12、13、 14日 12月3、4、5 日	2	8
きれいな姿勢でいつまでも若々しく！	体幹を鍛え、きれいな姿勢を保つために、初心者でも比較的楽しく参加できるダンスエクササイズのZUMBAを託児付で開催した。	10月24日 ～11月7日	3	84
将監寿大学	一年を通して講座を開催。歴史講話、文学講話、健康に関する講話や介護予防運動など多様な内容で実施。また、運営委員が企画した講座や交流会なども行い、自主的な学習の機会を持った。	5月20日 ～2月17日	10	462
泉ヶ丘小学校連携講座「夏の講座」	市民センターと距離がある泉ヶ丘地域の住民を対象に、夏休みの子どもの居場所の提供として、泉ヶ丘小学校と連携して講座を開催した。絵画・ピラワーク・ニュースポーツを実施し、地域交流の機会とした。	7月29、30、31 日	3	55
みんななかよくグラウンドゴルフ大会	グラウンドゴルフ大会を通して、異世代間交流と地域の活性化を図った。また、児童館・児童センターと連携し、相互理解を深めた。	9月6日	1	55
将監ふれあいコンサート	地域の団体が中心となって、地域の交流を目的としたコンサート。今年度は、管弦楽団と合唱のクラシックコンサートを実施した。	11月9日	1	230
将監なごみサロン	出前講座。町内会・老人会・社会福祉協議会の協力で、公団集会所・公社集会所を会場にトーンチャイムのコンサートを開催。新たな出会いと交流の場となった。	10月11、18日	2	90
★災害に備えて「将監地区防災訓練」	将監町内会自治会連絡協議会及び将監赤十字奉仕団等地域の団体と協働で将監地区の総合防災訓練を実施し、地域防災に必要な連携強化と地域住民の防災意識の高揚の一助とした。	9月13日	1	283
社会学級共催講座企画会議	各学校の社会学級と市民センターが共催し連携を深め地域ニーズに合わせた講座開催のための企画会議を実施することにより、地域情報の共有を図り地域活性化を図った。	6月～11月	5	8
社会学級共催企画講座「ヨーデルコンサート」	幅広い世代が一堂に会し、音楽との触れ合いを通して地域の人々を繋ぐきっかけの機会とした。国内外で活躍するヨーデルデュオのコンサートを開催した。	11月11日	1	160
●みんなの居場所をつくろう	今年度で3年目を迎える「住民参画・問題解決型学習推進事業」として、泉区中央市民センターと共催で3回の企画会議と「みんなのカフェ」「おしゃべりサロン」「レクリエーション大会」を開催した。	5月～2月	7	279
絵手紙で地域とつながりましょう	地域の人々が集まり、水彩で絵はがきを描きながら交流する時間を持った。出来上がった作品を展示し、交流しながらできた作品の良さを地域にアピールした。	1月15、22、29 日	3	34

将監市民センターまつり	1 日目は「元気っ子広場」と「みんなのカフェ」・作品展示、2 日目は舞台発表と作品展示で地域交流の場となった。	10 月 4、5 日	2	1,700
将監地域懇談会	地域団体・市民センター利用の地域住民と地域課題を考え、解決策を探った。市民センターの事業等の概要説明、市民センターとの連携などについての意見交換、地域の情報交換を行った。	11 月 28 日 2 月 20 日	2	23
将監沼育林ボランティア養成講座	将監沼を学びの場とし、案内板・標識の作成設置等に関する知識・技能を学び、里山の整備（再生）のための人材育成を図った。成果物として 3 枚の公園案内板を作成・設置した。	5 月～3 月	9	51
市民企画講座「食生活を見直そう！」	「食生活を見直そう！」をテーマに企画員である地域住民が話し合いを通じて交流を深め、それぞれが現在抱えている課題や問題点を洗い出しながら講座を企画した。	5 月 17 日 ～11 月 27 日	7	12

加茂市民センター

〔沿革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ヶ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ヶ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	●日本のスーパー食品「梅干し」づくりに挑戦！		
参加者	小学 4・5・6 年生	延参加者	93 人
開催日	全 4 回 6 月 28 日(土)、7 月 19 日(土)、7 月 31 日(木)、10 月 25 日(土)		
協力者・協力団体	泉区公園課・南中山市民センター・長命ヶ丘市民センター		
ねらい	食料を備蓄する目的や用途などの食に関する知識や、家庭で行うことが少なくなった保存食づくりを子どもたちが体験しながら、日本の食文化を理解することを目的とする。加茂、長命ヶ丘、南中山市民センターが、それぞれの地域資源を持ち寄り、地域の教育力を生かすために3館共催で開催する。		
概要・成果	地域資源である長命館公園の梅の木を用いた梅の収穫作業から始まり、梅干しづくりの過程を体験。食に関する興味や関心が得られた。3館が共催したことにより多くの小学校から参加があり、子どもたちの交流も深まった。また、地域のボランティアや高校生の協力により、地域連携や各々の活動の活性化に繋がった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
かも子育てひろば	親子でリトミックや親子ピクスでふれあい遊びを楽しみ、子どもの病気についての講話やぬいぐるみづくり、ガラスエッチング制作を実施。	6 月 27 日 7 月 11、18 日 8 月 29 日 9 月 5、12 日	6	122
わくわくキッズクラブ	長命館公園での昆虫採集と標本作り、木工遊び、親子参加での消しゴムはんこ年賀状作り、地域の方たちも参加して伝統遊び「コマ回し」、調理実習「ひなまつりメニュー」を実施。	7 月 5、25 日 11 月 1、16 日 1 月 7 日 2 月 14 日	6	108
中学校職場体験学習	加茂中学校 2 年生の生徒 2 名を受け入れて市民センターの業務を体験した。働く事の意義や市民センターと地域との関わりを学んだ。	10 月 21、22、23 日	3	6
ジュニアリーダー定例会	ジュニアリーダーとしてのスキルアップや研修への参加。地域からの要請への対応、情報交換などを実施。	4 月 19 日 ～3 月 26 日	13	103
市民企画講座「市民センターに集まろう、楽しもう」	市民企画講座として企画・運営・実施。小中学生を対象に加茂地域の歴史講話とお化け屋敷を実施。	9 月 27 日	1	54
★東日本大震災体験 朗読会「あの日・あの時・私の記憶」	東日本大震災、朗読会「あの日、あの時、私の記憶」を加茂中生と地域の方を対象に開催。	11 月 21 日	1	271

”集活”してみませんか～市民センターへ行ってみよう～	市民センターの利用が少ない20歳代～40歳代を対象に体験型の講座として「自宅で出来る美味しいコーヒーの淹れ方」、「カラー診断を用いたファッションコーディネート術」、「手作り餃子の作り方」を実施。	10月4日 11月8日 12月13日	3	20
ワイワイ若がえり塾	歴史講話、脳のトレーニング、悪質商法、認知症について、文学講座、文学施設見学、室内楽演奏、ラフターヨガ、エンディングノートの活用法。	5月15日 6月19日 7月17日 9月18日 10月16日 11月20日 12月18日 1月15日 2月19日	9	385
★●震災への学び～どう家族を守るか～	心肺蘇生法、AED救命、循環型備蓄品のすすめ、総合防災訓練でのトイレ組み立てやバケツリレー、救出救護訓練を実施。	6月22日 10月10、18日	3	502
●加茂市民センター出前講座「地域での交流を図ろう」	虹の丘地域では、庭木の手入れ方とフォルクローレ音楽のコンサート、みずほ台地域ではフラワーアレンジメントでクリスマスリース作り、上谷刈地域ではベビーマッサージを実施し、各々の地域の交流を図った。	5月20日 6月25日 7月2日 12月4日 2月21日	5	145
加茂市民センターまつり	サークル団体の作品展示・ステージ発表・子どものひろば・体験コーナー・イベントの実施。	10月25、26日	2	1,040
地域懇談会	地域の各種団体及び各利用サークルとの話し合い場を設け、お互いの情報交換により相互理解をより深めるとともに、市門センターとしての地域づくりへの役割を担う。	11月14日 1月22日	2	35
支え合いの福祉	地域福祉について学びながら、初めて自分たちで企画したキャップハンディ体験を実施した。	6月20日 7月11日 9月1日 11月8日 1月16日 2月13日	6	48
●食育サポートボランティア養成講座	食育とボランティアについて講話から学び、子どもに伝えたい和食の基本や季節のメニューを中心に調理実習で実技を習得、小学生対象の調理実習でアシスタントとして実践した。	9月10日 10月8日 11月12日 12月10日 1月21日 2月14日	6	60
加茂地域歴史ガイドボランティア養成講座	加茂地域には多くの貴重な文化史跡が点在している。この貴重な史跡を生かした地域づくりを継続させるため、ガイドボランティア養成講座を開催した。	2月14日 3月7日	2	20
市民センターの講座を企画しよう	地域の若い世代の方々が市民企画委員となり、話し合いを進め講座を企画した。	5月24日 ～9月27日	11	86

高森市民センター

〔沿革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年 4 月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。

高森地区は、昭和 48 年以降、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園などに豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体を中心に、「新しいふるさとづくり」を目指して四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	★地域の絆づくり推進事業「新しいふるさとづくり事業」		
参加者	一般	延参加者	3,076 人
開催日	全 20 回 4 月 20 日(日)～3 月 26 日(木)		
協力者・協力団体	高森中学校、高森小学校、高森東小学校、高森東ふるさとづくりの会、仙台風の会、高森児童センター、高森東児童センター、日本野鳥の会宮城支部、サーラ保育園、高森明泉学園、ホライゾン学園 等		
ねらい	泉パークタウンが形成されて 40 年が経過し、定住地を泉パークタウンに定めた住民を中心に地域コミュニティが形成されている。そのような中、3・11 の東日本大震災を契機に地域の絆と活性化を求める機運が高まった。この機会をとらえ、高森東公園を核として、ボランティア団体や、地域の諸団体と連携しながらイベントの実施を通して地域で活動する人材の育成につなげる。		
概要・成果	地域交流、世代間交流を図る事業(鯉のぼり吹き流し、野外ミニコンサート、花植え、野鳥観察会、巣箱づくり、灯籠流し、地域交流会、感謝祭、凧上げ等)を行うことを通して、地縁と地域の絆が醸成され、地域資源、地域人材の有効活用をすることができた。また、地域行事として定着してきており、地域への愛着心と地域共助が発展しつつある。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
たかもりキッズクラブ	小学生を対象とした体験学習を通じ、伝統行事や文化の謂れ・大切さについて学んだ。また、地域で活動するサークルやボランティアに関わってもらうことで異年齢交流や世代間交流を図った。	7 月～1 月	4	129
自分づくり教育「職場体験」講座	「仙台自分づくり教育」の一環として、中学生の自信に満ちた未来を育むため、市民センターでの職場体験を実施し、生徒が自分を見つけ自らの進路を選択・決定していく力を育てた。	8 月	1	2
インリーダー研修子ども会交流会	子ども会活動の充実を図るため、地域の子ども会のリーダーとして活動する児童及び保護者を対象に子ども会についての知識やレクリエーション・ゲームなどを学習し交流する場を提供した。	6 月～12 月	2	64

★高森地域防災講座	大規模災害発生時に起こる事象に、どのような判断をしてどのように対応するかゲーム形式（クロスロード）で訓練し、自分達で考える機会、判断する力を養う一助とした。また、家庭で防災・減災について考えるきっかけになった。	11月～12月	2	94
高森流星サークル育成支援	青少年の地域貢献が求められるなかで、高森流星サークルに所属するジュニアリーダーの育成と会員の拡大、地域の子ども会等での活動や定例会の開催などを支援した。	通年	12	75
地域安全マップを作ろう	小学生が子どもの目線で犯罪が起こる危険性の高い場所を歩いて探し、地図に書き起こし、授業の中で発表した。危険を察知し回避できる能力を身につけると共に、安全マップサポーターや保護者など多くの大人に守られていることを知る機会となった。	6月～7月	4	73
「高森パソコン塾」～地域情報発信～	パソコンの基礎から応用を学び、地域住民が地域活動でチラシ、リーフレット等が作成出来るような地域人材のスキルアップと地域人材を育成する一助とした。	7月	3	45
「仙台のおもてなし料理を考える」講座	仙台で栽培されている野菜や、仙台特産の食材を使い、どんな料理が作れるか話し合い、調理することを通して、仙台の食文化に興味を持ち、学んだ食材を使って家庭で料理をすることで家族に仙台の料理を伝えた。	9月	3	38
高森塾	高齢化社会に適応した学習活動を推進し、現代社会に通用する知識を提供することで自己の能力を向上させ、さらには講座を通じて受講生同士の親睦を深め健康で生きがいのある生活を支援した。	5月～2月	9	330
シニアの健康プロジェクト	地域の高齢化率が高くなりつつある現状を踏まえて、前向きにシニアライフを楽しめるよう、高齢者のリスクとそれを減らす知恵を学ぶ機会を提供した。	5月～6月	3	45
高森地域懇談会	地域との連携をより深める為に、市民センターの運営、事業に対する意見交換や地域課題を共有するために情報交換の場として地域団体や地域住民と懇談会を実施した。	6月～12月	3	38
公園の魅力を再発見 高森ウォーキング講座	公園の管理・整備を考える機会として、ウォーキング講座を開催し、公園の魅力を知ってもらい、現在活動しているボランティア団体の人員増加に繋げた。	10月～11月	3	48
ブックフェア in 高森	活字離れ・読書離れに対応する為に、図書に対する様々な催しを通して本に関する機会を提供した。泉図書館高森分室の利用者拡大と活性化を図った。古本市やイベント・講話を開催した。	5月	3	174
★高森市民センターまつり	地域行事として定着したセンターまつりを、センター利用団体や地域活動団体の生涯学習の発表の場として企画・運営した。また、市民センターまつりを地域・世代間交流の場として提供し、地域活性化につなげた。	9月27、28日	2	4,380
高森福祉地域交流大会企画会議	高森地区社会福祉協議会・高森東地区社会福祉協議会と共催し、地域全体を巻き込んで健康福祉を意識した交流を図るべく、年に1回合同の大会として位置づけ、実施へ向けて企画運営するための会議を行った。	7月～11月	4	8

高森絆コンサート	地域懇談会等の中で今後ますます重要であるとされた「地域住民の交流の場」として開催する。コンサートをきっかけとして楽しい時間を共有することで、地域住民の交流と絆をさらに深める一助とした。	12 月	1	150
高森福祉地域交流大会 ウエルカム世代間交流	高森地区社会福祉協議会・高森東地区社会福祉協議会と共催し、地域全体を巻き込んで健康福祉を意識した交流を図るべく、大会を開催した。	10 月	1	80
高森ミニ農園 畑の先生 養成講座	作業のスキルや有機栽培の野菜作りを学び、「畑の先生」として高森小学校、高森東小学校、高森児童センター、高森東児童センター所有の教材農園の手入れに参加したり、児童への農作業の指導を行うボランティアを養成した。	4 月～11 月	15	499
高森市民企画会議	地域の豊富な人材によって地域の課題やニーズを話し合い、課題解決や交流を図ることを目的とした講座を企画・運営した。	5 月～7 月	4	10

松陵市民センター

〔沿革〕

松陵市民センターは、平成 2 年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の 6 つの町をエリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。子どもの減少により、平成 25 年度から 2 つの小学校が統合されるなど少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	第 23 回松陵ふれあいコンサート		
参加者	地域住民	延参加者	610 人
開催日	10 月 19 日(日)		
協力者・協力団体	松陵中学校区地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会、松陵中学校、泉松陵小学校、向陽台中学校、向陽台小学校、泉松陵高校、東北学院榴ヶ岡高校、向陽台中学校吹奏楽部親の会、向陽台小学校ひまわり吹奏楽団保護者会、泉地区交通安全協会泉支部松陵分会		
ねらい	小学生から大人までが演奏や運営に参加することで、異世代間交流や地域団体の交流を図り、さらに音楽の素晴らしさを知っていただく機会を地域の方々に提供する。 また、6 つの学校の生徒たちもコンサートを通し交流することで心身の健やかな成長を培う。		
概要・成果	今年で 23 回を迎えたコンサートは 3 部構成で、第 1 部(高校生から社会人までの小合同演奏)、第 2 部(小学生から高齢者までによる合唱)第 3 部(小学生から社会人までの大合同演奏)の内容で実施した。ふれあいコンサートは参加者だけでなく多くの協力団体に支えられて地域の文化的行事として長く続いてきた。この講座をきっかけに出演団体が小学生に合唱や吹奏楽の指導に出向いたりすることで、地域の子どもの演奏技術の向上にもつながり、音楽教育にも貢献している。 また、地域の住民が気軽に足を運べるコンサートとして地域交流の場となり、地域活性化へと繋がっている。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママのハッピープラン	向陽台児童館との共催事業「ママたちの企画会」で企画した講座。「スクラップブックで思い出を飾ろう!」「フラダンスで心と体をリフレッシュ!」「簡単!手作りおやつ」を託児付きで実施した。	8 月 28 日 9 月 26 日 10 月 23 日	3	42
子どもゼミナール' 14	「おしゃれなランチをつくろう!」「クリスマスリース作り」「ひなまつりのランチ」の全 3 回。講師は地域人材を活用し、貴重な体験学習の場となった。	7 月 5 日 12 月 6 日 2 月 28 日	3	64
職場体験学習	鶴が丘中学校 2 年生 4 名と松陵中学校の 2 年生 2 名を受け入れた。市民センターの事業を実際に体験することを通して、仕事の大変さや接遇、人間関係の大切さなどを学んだ。	8 月 20、21、22 日 11 月 18、19、20、21 日	2	6
松陵っ子土っと来いまつり	学びのコミュニティ事業として、地域の子どもの健全育成と地域の活性化を図るために実施した。地域団体やボランティア団体が遊びのブースを作り、子ども達はスタンプラリーをして回り、子ども達の居場所作りにもなった。	11 月 8 日	1	200

わくわく元気広場	向陽台児童館、松陵児童センター、市民センターの3館共催事業。「おみそをつくろう」「藍でそめよう」「水のささやきコンサート」「みその引渡し会」の全4回。親子で楽しく体験し、子育て支援につながり、世代間交流も図ることができた。	6月21日 7月12日 7月19日 1月31日	4	115
出前講座「健康講座」	明石南地区出前講座「リンパケア講座～リンパを通して健康に～」を場所は明石南5丁目集会所で、明石南連合町内会とボランティアの「あっぺとっぺ」と連携して実施した。	2月4日	1	36
春から秋の「県民の森」観察会	県民の森の「木の実の道」「見晴らしの道」「水辺の道」「紅葉の道」を散策し、地域団体の皆さんの指導により、変化していく自然や環境保護について学んだ。季節の移り変わりを写真に撮影し、センターまつりでミニ写真展として展示した。	4月15日 5月13日 6月10日 11月22日	4	58
いきいき楽々講座	内容は記念講話、軽スポーツ、3D映画上映会、音楽講座、栄養学講座、歴史講座、交通安全講座等。受講生同士の親睦も深まった。	5月～2月	9	408
第23回松陵ふれあいコンサート合同練習会	松陵中学校や泉松陵小学校の体育館を会場に行った。小学生から社会人まで一同に集まる世代を越えた交流の機会となった。	8月17日 10月5、13、18日	4	500
「オリエンテーリングとディキャンプ」	「松陵っ子土っと来い」の事業。松陵小学校跡施設で火起こし体験、県民の森でオリエンテーリングを実施した。育成会のお母さんたちが準備した豚汁をみんなでいっしょに食べるなど、地域団体との交流を図った。	10月11日	1	70
松陵ふれあい合唱	「松陵ふれあい合唱」は、地域の小学生から大人まで、世代を超えて一緒に歌う楽しさを学ぶ講座であると同時に、「松陵ふれあい合唱団」として「松陵ふれあいコンサート」に出演した。コンサートでは第2部を担当し、練習の成果を発表した。	9月13、27日 10月4、11、18日	5	196
★●「地域の災害時の防災・減災対策について」	町内会、学校、各施設の代表者を対象に、防災SONAE学習研究所の古橋信彦氏による「3・11の実態と新仙台市地域防災計画の概要について」と「災害時避難所・運営について」の講演を行った。	8月31日	1	52
★第25回松陵市民センターまつり	センター利用サークルや地域の諸団体による作品展示、舞台発表、出店、スタンプラリーなど。中学生や高校生の参加もあり世代間交流やコミュニティ作りの一助となった。(来場者数1150人)	11月9日	1	1,150
地域懇話会	向陽台地域は、当センターから遠距離地域のため、出前講座の要望や地域課題の把握のため4月に懇話会を開催した。市民センターの事業や役割を説明し、センター事業への参加を促した。	4月30日	1	46
JL定例会(みちのく松陵・向陽台ぱびるペレット)	「みちのく松陵」の登録者は中学2年生から高校1年生まで16人。毎月第3日曜日を定例会として活動した。育成会や町内会、市民センター等の要請を受け活動した。	4月～3月	12	121
おもちゃドクターボランティア養成講座	講座には、9人が参加し、その後7人が平成24年度からの「おもちゃ病院松陵」のメンバーと合流し、技術向上を図りながら活動している。今年は松陵児童センターで2回ボランティア活動を行った。	5月～3月	14	103
出前市民企画会「ママたちの企画会」	向陽台児童館との共催事業。向陽台児童館の幼児クラブに所属する母親を中心に6人の企画委員が集まった。積極的な意見交換がなされ、3回の講座を企画した。	5月22、29日 7月10日 8月28日 9月11、26日 10月9、23日 11月6日	9	44

寺岡市民センター

〔沿革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山地区を受け持っている。

寺岡地区は、昭和 50 年代後半から急速に発展し、団地としては成熟しており、高齢化も進んでいる。一方、新しく造成された紫山地区は、若い世代を中心に住民も年々増加しており、寺岡地区とは対照的な年齢構成になっている。団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。また、紫山地域の開発が更に進み住宅地が広がっていることから、今後もますます発展と活性化が期待される地域である。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★●寺岡・紫山地域防災ネットワーク推進委員会		
参加者	寺岡・紫山地域住民	延参加者	496 人
開催日	全 7 回 5 月 31 日(土)、7 月 2 日(木)、8 月 22 日(金)、9 月 30 日(火)、11 月 15 日(土)、11 月 29 日(土)、12 月 25 日(木)		
協力者・協力団体	寺岡小学校、寺岡中学校、寺岡地区社会福祉協議会、紫山地区社会福祉協議会、泉パークタウン防犯協会、寺岡連合町内会、紫山連合町内会、寺岡小学校支援地域本部、寺岡おもちゃ病院、泉消防署、泉区区民生活課、泉西郵便局、地域防災リーダー		
ねらい	「自助、共助」を重視した防災会議、防災イベントを通して、災害に備える意識を向上させつつ、つながりが弱い寺岡・紫山地域の防災ネットワークの基礎確立(強化)を図る。また、子ども達に地域の一員として地域で活躍する場を提供することで、世代間交流を図り、地域において重要な役割を担っているとの意識を向上させる。		
概要・成果	「共助」を強調して取組み、役員改選も行ったことにより、地域有志(個人単位)による活動から地域団体による活動へ変化し、その結果、寺岡・紫山両連合町内会等の諸団体が企画・運営に深く関わるなど、防災ネットワークの基礎を確立(強化)することができた。また、小・中学校からの協力・助言を得ることで、多数(約 80 人)の子どもボランティアが第 3 回「伊達な防災イベント」にスタッフとして参加した。地域の大人と交流しつつ防災について学んだことは、「災害時に地域の一員として重要な役割を担う」という共助の意識の成長につながった。		

〔平成 26 年度 事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子の広場	育児世代の保護者とその子どもが共に楽しむ場を提供することで充実した子育て時期を過ごせるよう支援した。親子ビクス、講話、食育コンサート、サッカー教室	5 月 27 日 6 月 24 日 9 月 11 日 10 月 30 日	4	153
市民企画講座「子育てママのほっとサロン」	子育てや地域に関する情報交換を通じ、楽しい子育てができるように支援することを目指して開催した。「美味しいみそのお話&活用術」講話「家庭で伝えよう！いのちのはなし」	10 月 22 日 11 月 5 日	2	14
みんなで考えよう「子どもの健やかな育ち」	体力面・メンタル面から見える今の子どもたちを取り巻く状況をとりあげ、地域で子どもの健やかな育ちを考える講演会を開催した。	10 月 26 日	1	76

子ども体験塾	子ども達の創造力や生活力等の向上を図るとともに、市民センターを身近に感じてもらい、また、ジュニアリーダーの活動の場とした。天体観望会、ドライアイスを使った化学実験、料理、はぎれでアクセサリづくり、陶芸	4月18日 7月24、30日 1月24日 3月7日	5	129
中学校職場体験	学校と地域が一体となって子どもたちの育成を図り、働くことの意義や職業観を育む一助とした。施設管理業務体験、企画作成等	10月21、22、 23、24日 11月5日	2	9
ジュニアリーダーと遊ぶ	ジュニアリーダーの技術向上・活用を提供し、次世代のジュニアリーダー育成のための素地づくりを目指して実施した。ゲームや工作等	10月19日 3月8日	2	31
寺岡小学校区 インリーダー研修会	子ども会育成会と市民センターが共催しながら、子ども会活動の充実やリーダーとして活動できる児童の育成を目指し、世話人の役割、レクリエーションゲームの進め方等の研修会を実施した。	2月15日	1	79
地域で守る安全 「子ども110番の家」にいてみよう	寺岡小学校の新1年生を対象に子ども110番の家と子どもたちをつなげ、地域全体で健やかな子どもの成長を支えることを目的に防犯講話、「子ども110番の家」訪問・顔合わせを実施した。	5月30日	1	124
健康の源は食から	食生活について学び実践することにより、より健康な生活を送れるようになることを目的とし、健康講話、調理実習等を行った。	6月7、14、21、 28日 7月5日	5	51
★●多聞塾	地域の高齢者を対象に生涯学習の機会を提供し、受講生同士の交流と生き甲斐作りの場を提供した。健康、歴史、社会問題、コンサート、館外学習、ニューススポーツ体験等	5月8日 ～2月5日	10	363
地域資源を学ぶ～宮城県図書館に行ってみよう～	県内でも有数の文教施設である宮城県図書館の所有する重要文化財等を学ぶことを通して、地域に愛着を持てるようになることを目指し、講話「宮城県図書館の歴史と貴重資料」、バックヤードツアーを実施した。	10月1、8日	2	28
みんなで楽しくニューススポーツ大会	ニューススポーツの体験を通して世代間交流の場を設け、地域交流・地域活性化の一助とした。	11月8日	1	48
寺岡市民センターまつり	地域で活動するサークルに発表の場を提供し、地域住民の交流を深め文化の向上を図った。展示、ステージ発表、催事コーナー	10月18、19日	2	1,300
★寺岡・紫山地域懇談会	市民センター事業への理解を深めるために地域課題について意見交換し、市民センター事業運営に反映させた。情報交換、要望、意見等の聞き取り	9月21日 1月11日	2	46
市民センターの講座を企画しよう	住民が抱える地域課題の解決を目指し、講座を企画。同時に企画を実現することで地域の人材育成につなげた。企画会議、勉強会	7月1日 8月1、26日 10月6日 11月5日	4	14
おもちゃ病院フォローアップ講座	技術や運営方法等を学ぶことで、受講生自らが生涯学習を実践しながら、地域貢献に繋がるように促した。修理の実技等	10月25日 11月1、8、15、 22日 12月6日	6	119
ジュニアリーダー育成支援「定例会等」	要請に対しての指導、資質向上のための研修などを行いジュニアリーダーの育成を図った。活動支援、勉強会等	4月～3月	13	109

長命ヶ丘市民センター

〔沿革〕

長命ヶ丘市民センターは、平成 5 年 4 月に泉区 10 番目の市民センターとして開館した。その周囲は昭和 50 年代初めに造成された長命ヶ丘団地で形成されている。利用者の約 65%が長命ヶ丘地区、25%が近隣地区、残り 10%が他地区の利用者となっており、地域に密着した市民センターといえる。地域利用団体の 30 サークルをはじめ、常時 80 以上のサークルが活動しており、平成 26 年度は約 46,000 名の利用者があった。

当市民センターは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の支持を得ながら、サークル活動はもとより、地域の生涯学習活動の拠点として定着しており、その役割と機能は重要性を増している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「長命ヶ丘ゆるキャラPR作戦会議」		
参加者	地域住民	延参加者	51 人
開催日	全 6 回 6 月 18 日(水)、7 月 5 日(土)、8 月 30 日(土)、10 月 4 日(土)、 10 月 18 日(土)、11 月 23 日(日)		
ねらい	長命ヶ丘小学校の総合学習の中で、3 年生の児童が公園の時計台をモチーフに考案したキャラクターが、26 年 7 月長命ヶ丘のゆるキャラとして地域デビューを飾った。市民センターではこのキャラクターを地域にPRし、浸透させていくための企画を住民参画の形で実施する。これにより、企画員に自ら学びの場を創造することの楽しさや必要性を知ってもらう。		
概要・成果	企画員のゆるキャラに対する思いは熱く、会議では様々な意見が交わされた。具体的には、ゆるキャラのプロフィールを作り、それをセンターまつりで発表。さらにミニマスコット作りの講座を実施した。住民が企画・運営に関わったことで、その声を直接事業に反映させることができた。また、市民センターや地域参画に対する関心が高まった。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
長命ヶ丘保育所子育て支援センター・児童センター 3 館共催 「子育て講座」	地域ぐるみの子育て支援定着を目指し、親子がふれあいを通して絆を深め互いに育ち合う場を提供する。また、核家族化により孤独を感じながら子育てをしている親が、仲間を作り交流していく機会を設けた。	5 月～2 月	5	306
フレンドスクール	地域の中に子どもたちの居場所を確保し、地域全体で子どもの育ちを見守り支えて行くため、長期休業時等における小学生に学びと交流の機会を提供し、活動の場や居場所づくりを目指した。	7 月～1 月	4	62
★3 館共催事業「日本のスーパー食品～梅干しづくりに挑戦！」	子どもたちが日本の伝統的な食文化に触れる機会が少なくなっている中、家庭で行うことが少なくなった保存食づくりを子どもたちに体験させ、日本の食文化を理解してもらうことを目的として実施した。	6 月～10 月	4	103
ロングライフコミュニティ協議会事業 「学校に泊まろう」	異年齢交流、異世代交流を行うことでコミュニケーション能力を育て、また、様々な体験を通して、子どもたちの感性や想像力を養うことを目的に、学校を含めた各団体が協働し子どもを支援する輪を広げた。	7 月	1	111
中学生の夏まつり出店プロジェクト	中学生が、地域の夏まつりで、自分たちの企画した模擬店を出店した。自らの発想を活かし、持てる力を存分に発揮することで、より主体的に、幅広い年代の人々が集まる地域最大の行事に関わる機会を提供した。	7 月～8 月	7	120

★中学生が活躍する防災訓練	連合町内会主催の防災訓練を利用して、中学生に自分たちが行える支援活動は何かを考え、地域と一緒にやって実際に行動する体験学習を通して、地域での役割を再認識し、防災に役立てた。	5月～6月	3	217
長命大学	長命ヶ丘地域の65歳以上人口は30%に上り、高齢者の生きがい支援は事業として不可欠である。地域の高齢者を対象に、心身ともに健康で豊かな生活を送るため、さまざまなジャンルの学習機会を提供した。	5月～2月	10	574
●いきいき☆シニア倶楽部	行政や地域の団体・学校等と連携して、これから老いに向かう住民が介護予防の情報や知識について学び、日々の生活に活かす一助とした。	9月～11月	5	103
長命コンサート	遠方への外出が困難な高齢者の方々に、気軽に上質な音楽にふれる機会を提供し、心を癒してもらうひとときとした。また、コンサートを通して、多くの地域住民が世代を超えて楽しく交流できる場を提供した。	5月、11月	2	260
地域の里山「とどヶ沢」を守ろう・活かそうプロジェクト	地域資源を守り・育て、歴史や自然など、さまざまな学習の場として有効活用するため、住民主体による環境保全整備活動に取り組む人材を発掘し活動につなげた。	7月～11月	4	34
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画検討会	他の加盟団体とともに、地域の子どもたちの健やかな成長や子どもたち同士の交流を目的とした事業を企画・検討した。また、企画・検討を重ねることで、住民・団体同士の結びつきの強化を図った。	4月～11月	6	101
市民企画講座 「あいタワーくん・あいカネちゃんプロフィール」発表会	住民が一堂に会するセンターまつりにおいて、ゆるキャラのプロフィールを発表することで、住民にキャラクターへの興味・関心をもってもらい、地域への愛着を深めることにつなげていった。	10月	1	170
市民企画講座 長命ヶ丘のゆるキャラ 「ミニあいタワーくん」を作ろう	ミニあいタワーくんを作成することで、地域住民がそのキャラクターを認識し、身近に感じてもらい、地域への愛着を深めることにつなげていった。	11月	1	18
市民センターまつり	市民センターを利用しているサークルの学習成果を発表する場、また、地域の人々が楽しく交流する場として「センターまつり」を開催し、地域全体の活性化につなげた。	10月	2	2,600
地域懇談会	地域住民や、市民センター利用者と意見交換会をもち、地域の課題やニーズを把握し、解決への事業に結び付けていった。また、より良い館運営への改善につなげた。	7月、2月	2	24
長命ヶ丘高齢者支え合いネットワーク研修会Ⅱ	高齢者を支える活動に携わっている方々から研修内容の要望を聞き、実施した。平成26年度も引き続き講座を実施し、高齢者を支える人材養成を推進した。	5月、9月	2	37
サークル体験	当市民センターを拠点としているサークルや地域の老人クラブのサークルのサークル体験会。新しく活動を始めたいと思っている人と、活動を広げたいサークルとの出会いの場を提供した。	5月～6月	10	50

松森市民センター

〔沿革〕

松森市民センターは平成12年1月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内11番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和40年代から50年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室などを備えている。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	障がい者学習支援講座「鶴が森ウェルフェアサロン」		
参加者	① ②障がい者 ③どなたでも	延参加者	144人
開催日	全3回 ①11月16日(日) ②11月30日(日) ③1月17日(土)		
協力者・協力団体	日本ダウン症協会宮城支部どんぐりの会、元気配達人タクト、稲垣達也氏、幹miki、須佐リズム隊、東北学院榴ヶ岡高等学校音楽部		
ねらい	生涯学習の学びの機会を得ることが少ない障がい者が学習支援講座に参加することで、社会参加の適応力を高め、学ぶ喜びを得る機会とする。また、コンサート開催時には地域住民と交流を図りながら、地域に根ざした学びのバリアフリーを目指す。さらに、市民センターが障がい者にとって安心して利用できる場であることを周知する機会とする。		
概要・成果	日本ダウン症協会宮城支部どんぐりの会との連携事業で全3回講座。①11月16日「カップケーキ作りにチャレンジ！」小学生から社会人まで幅広い参加者があり、スムーズに和気藹々と講座を進めることができた。②11月30日「音楽に合わせてカラダを動かそう！」前回同様幅広い年齢層の参加者で構成された。内容はゲームや簡単な折り紙工作、ダンスなどバラエティに富んだものとなり、受講者も飽きずに参加できた。③1月17日「ハートフルコンサート～join music～」音楽の力で心のバリアフリーを目指すコンサートを開催した。当日は90名のお客様に会場いただき(8割は地域の方)、会場全体があたたかな雰囲気につつまれたコンサートとなった。		

〔平成26年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ジュニアちゃれんじ	長期休暇中の小学生対象で創造力や想像力を育む講座を実施した。①革細工でのキーホルダー作成②泉松陵高校科学部による科学実験体験③クッキーづくりを体験した。	7月25日 8月1日 12月20日	3	180
中学生職場体験	鶴が丘中学校生徒対象に市民センター業務体験を実施する①生涯学習講座の企画、広報の実習②講座体験③施設管理体験などを行った。	8月21、22、23日	1	3
田んぼのがっこう(複数年事業計画)	松森小学校児童対象の学社連携事業講座①実習田代掻き②田植え③稲刈り④食育講座を実施。また農家ボランティアと松森小学校企画運営会議を開催した。	4月18日 ～12月8日	9	596

実践介護の基礎	正しい介護の知識やスキルを身につけ、介護が求められた時に活かせるための一助とした講座。①講話：「介護保険ってな～に？」②「介護する側、される側」の実体験を実施。	10月23日 11月6日	2	35
城前大学	全9回実施。講座の準備、後片づけなど班単位で活動する場を多く設定した。班長を中心として受講生同士の交流がより深まった。自主学生の館外学習では企画から実施に至るまで積極的に関わり活動した。	4月17日 ～2月19日	9	469
松森ほっとサロン	地域住民が得意な分野を教え合いながら情報交換できるサロンの講座。①あけがらす②季節のカード③ビーズアクセサリ④消しゴムスタンプ⑤布を使った手芸⑥おいしいコーヒーの淹れ方を実施。	6月24日 7月31日 8月26日 9月30日 10月28日 11月26日	6	81
★松森アフタヌーンコンサート	地域の人たちが気軽に集え、楽しめるコンサートを開催。①あんさんぶる泉の笛②クラシックギターの調べ③PWOクリスマスコンサート④New Year Piano Concertを実施。	6月21日 9月20日 12月21日 1月31日	4	216
松森市民センターまつり	「心ふれあう 第13回松森市民センターまつり」として市民センター利用サークル団体の活動発表の場として舞台発表・展示発表・出店や地域住民の交流を促進する場となった。	10月19日	1	1,500
松森・鶴が丘地域懇談会	地域の団体や機関の活動状況や課題について意見交換を行った。活動や課題に対して市民センターとしての支援を考える機会とした。	12月6日	1	30
★減災をめざして～小学生のための防災セミナー～	松森小学校と鶴が丘小学校の児童が災害に対する対応と減災について学んだ。	6月13日 9月18日	2	132
図書ボランティア養成講座～本の世界へようこそ～	図書ボランティアの技術向上と新規会員確保のための養成講座を開催した。	10月8、22日 11月12、26日	4	40
市民企画会 健康長寿プロジェクト企画募集！	団塊世代の企画員が、お互いの課題や地域ニーズに沿った内容で話し合いを進め、健康予防・仲間づくり・地域交流をテーマとした事業企画を行った。	6月26日 ～2月18日	10	30
JLパズル鶴が丘 定例会	ジュニアリーダーパズル鶴が丘の定例会を定期実施した。	4月15日 ～3月13日	12	34
サークル一日体験	各サークルの活動日に合わせた日程でサークル体験を実施した。	5月8日 ～6月12日	10	35
市民企画会講座 団塊世代のほっと交流会～健康につながる食事とお酒の効用について～	団塊世代対象に健康予防・仲間作り・地域交流をテーマとして市民企画員による主催事業の実施①健康につながる食事とお酒の効用②健康につながる今晚の一品③講話と交流会「五感で楽しむ日本酒の魅力」	12月6、13日 1月24日	3	58
子育てママのほっとタイム	松森・鶴が丘地域の子育て中の母親が自身で日常的にリフレッシュしながら子育てに取り組めるようアロマとヨガの2つを学べる講座を開催した。	9月25日	1	5

桂市民センター

〔沿革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅と高層マンションで構成される新興住宅団地で、高齢化率も比較的low、若く活気にあふれた街である。一方、将監地区は昭和 40 年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館でもあり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者まで幅広い。平成 13 年 12 月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

（★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業）

〔特色ある事業〕

事業名	●桂島緑地未来プロジェクト		
参加者	地域の方	延参加者	430 人
開催日	全 32 回 通年		
協力者・協力団体	泉区建設部公園課、泉区中央市民センター、桂地区各町内会、桂島緑地公園愛護協定会桂赤十字奉仕団		
ねらい	「桂島緑地の環境保全・美化および地域住民の憩いの場としての維持」をともに考え、活動している桂地域住民ボランティア団体の組織の拡充が図れるよう支援する。		
概要・成果	4 月から 11 月まで、月 2 回の環境保全の作業を実施した結果、地域住民から緑地への理解と認識が得られ、緑地への散歩者も増えた。その結果、資金面での協力団体や作業への参加者も増え、地域活動団体として活発化が図ることができた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
桂の森のキッズランド	桂地区の子育てに関わる 4 団体の共催で実施した。会議は 3 回設け、担当者同士の連携を深める事が出来た。当日は「3 匹のこぶた」のミュージカルを行い、参加した乳幼児連れ母子や未就学児童に好評であった。	9 月 17 日	1	211
桂ジュニアカレッジ	体験学習の機会を通して、主に桂小学校の児童を対象に異年齢の子ども同士の交流を図った。昆虫採集と標本作成、キンボール体験、ジュニアリーダーと遊ぼう、野菜を使った 2 種類のおやつ作りに取り組んだ。	8 月 9、22 日 11 月 12 日 1 月 7 日 2 月 4 日	5	65
男子の手習い〜料理で地域交流〜	50 歳以上の地域の男性を対象とし、調理実習を通じた参加者間の交流を目的に中華と和食の調理実習に取り組んだ。2 回目の講師に地域と関わりの深い方をお呼びしたこともあり、地域情報の交換も活発に行われた。	1 月 17、31 日	2	24
★桂友くらぶ	高齢化社会に対応した生き方、歴史、文化、健康維持の講話、制作、コンサートなど	5 月 8 日 ～1 月 8 日	8	326
★桂ロビーコンサート	3 回とも、センターや地域にゆかりの団体に演奏を依頼した。老若男女の来場者があり、市民センターに初めて来館の方も毎回 10 人余いる。終了後演奏者と、また、来場者どうし交流する場面が多く見られた。	9 月 27 日 11 月 29 日 1 月 18 日	3	252

★桂地域防災事業	防災講座は役員、班長を対象として仙台市危機管理室職員を講師として実施した。防災訓練は約 700 名の住民が参加して、いっとき避難訓練と指定避難所初動運営訓練を実施した。	8 月 23 日 9 月 7 日	2	780
桂小学校区社会学級連携事業企画会議	自己紹介、講座の主旨説明、地域情報交換、地域課題等の話し合い、企画検討。	5 月 16、30 日 6 月 26 日 9 月 12 日 11 月 14 日	5	30
桂文化祭	桂地区の 4 大行事として開催、住民同士の交流を深め、地域活性化に貢献した。利用団体に学習発表の場を提供、作品の展示ステージ発表・児童センターまつり、地域団体の活動紹介など多くの来場者があり好評を得た。	10 月 18 日	1	3,467
★桂地域懇談会	桂地域諸団体の代表者との情報交換および共有。地域課題の抽出などの話し合い。	7 月 8 日 2 月 24 日	2	17
桂小学校社会学級連携事業 地域で取り組む“寝たきりにならない体づくり～自宅で無理なく筋力アップ！”	筋力維持の必要性を講話から学び、ポイントを踏まえた実技を行い、実際の動きを理解した。	11 月 14 日	1	27
★市民企画講座「散歩が楽しい桂を考える」地域で取り組む公園美化	桂地区の各公園愛護団体が協力して公園美化作業にあたる、という初めての試みだった。4 丁目緑地を作業場所とし、5 団体の協力のもと、地域住民も加わっての作業となり、地域活動に一体感が生まれた。	11 月 16 日	1	31
ジュニアリーダー定例会	要請確認、情報交換、バルーンアート講習会、「将監くれよん通信」作成など	4 月 6 日 ～3 月 8 日	12	46
★民話にふれてみよう～聴いて・感じて・語ってみよう～	毎回講師の語る民話を聴き、その世界を楽しんだ。講師が用意したテキストを語るができるようになった方、自らの出身地の言葉で語るができるようになった方もおり、今後のボランティアの立ちあげにつなげていく。	6 月 27 日 7 月 4、11、18、 27 日 8 月 1 日	6	52
市民企画 散歩が楽しい桂を考える	桂地区の各公園愛護協会 7 団体が、初めて一堂に会して情報交換し、協力体制を築くことを確認して美化作業を行うこととした。反省会時、桂地区公園愛護協会連絡会を立ち上げた。	7 月 18 日 11 月 16 日 12 月 12 日	3	44

南中山市民センター

〔沿革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター(サンライフ泉)」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 連合町内会傘下 16 町内会で、地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。

(★：震災を踏まえた事業 ●：区役所との連携事業)

〔特色ある事業〕

事業名	★こどもワンダークラブ		
参加者	小学生	延参加者	175 人
開催日	全 6 回 6 月 24 日(火)～11 月 1 日(土)		
協力者・協力団体	南中山小学校 PTA、南中山小学校、南中山児童センター、北中山児童センター		
ねらい	ワークショップや地域資源を活用した体験学習を通し、異年齢や世代間のコミュニケーション能力を高め、地域を知る機会を提供することを目指す。		
概要・成果	6～7 月に南中山小学校と連携したハンドボールを体験する講座、8 月に南中山小学校 PTA 事業「学校に泊まろう」と連携した災害時にも役立つ食事作り体験、11 月に地域の柿を使って干し柿の作り方を地域の方から学んだ。幅広い年代の地域の方と全学年の小学生が関わることで、コミュニケーション力の向上や、地域を知ることにつながった。干し柿作りでは、会場を北中山児童センターにしたことで、市民センターで開催するよりも、いつもは参加することが少ない北中山小学校の参加者が多く、南中山と北中山 2 校の児童の交流の場とすることができた。		

〔平成 26 年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	若い世代の転入が多いいずみ中山地域では、子育て世代の親子同士の仲間作りが課題である。そこで地域団体や児童センターと連携して参加者のコミュニケーションを図る講座を実施した。親子遊び、体操。親子体験など	5 月～12 月	7	98
★食育講座「日本のスーパー食品～梅干し作りに挑戦！」	梅干しづくりのワークショップを通して、子ども達が伝統的な日本食文化を学ぶ機会を提供した。加茂、長命ヶ丘、南中山の地域資源を持ち寄り、地域の教育力を生かした講座を実施した。	6 月 28 日 7 月 19、31 日	3	93
インリーダー研修会	北中山と南中山の両小学校区の子ども会育成会活動の充実を図るため、リーダーとして活躍する児童と世話人を対象に研修のを目的として実施した。平成 27 年度も、北中山と南中山の両小学校区が合同で実施した。	10 月	1	47
出前講座 in 西中山「秋・冬の楽しいガーデニング」	市民センターから地理的に離れており、公共交通の便が良くない地域に、出向き講座を実施した。一戸建ての多い住宅地に合わせて、ガーデニングをテーマにし、参加者の交流を図った。	10 月～12 月	3	23
★ほがらかシニア塾	地域の高齢者を対象に、一般教養や時代の変化を反映する新しい課題、地域の歴史や文化などの身近な事柄を学び、健康で豊かな暮らしを続けるための知識を得る機会を提供した。	5 月～1 月	7	294

まちづくり・ちゃちゃちゃ倶楽部	住民の相互協力、支えあいの意識醸成、地域への関心の深化のため、住民が交流の輪を広げ、地域理解や地域を支える人づくりを目的として実施した。地域資源を生かしたワークショップの他、講座の広報の為に公開講座を実施した。また参加者による自主運営の講座を1コマ増設した。	6月～1月	7	171
まなびねっと「いずみ中山」推進委員会	地域団体が連携してネットワークを作り、地域の子ども達同士の交流や健やかな成長を促すことを目的とし、毎月1回会議を行った。	4月～3月	12	108
社会学級との企画会議	地域住民が参加できる生涯学習事業を企画するため社会学級と企画会議を実施した結果、地域資源を生かした食育の講座を実施することになった。	10月～2月	3	7
いずみ中山フェスタ	小学校のPTA行事と同日開催とし、地域住民、サークル等が、学習の成果披露を行った。世代間交流、地域交流の場にすることができた。	10月	1	770
地域懇談会	平成26年度の事業計画を地域の人に知らせ、参加者から市民センター事業への要望や地域課題を収集し、事業やセンター運営に生かすことを目的に行った。	5月～12月	2	8
ジュニアリーダー定例会	ジュニアリーダーサークル「長命ヶ丘巣子っふ」の中学生、高校生の活動を支援し、部活と学業との両立を円滑にする為の環境を整備し、メンバーの意識向上、技術を高めるために月1回定例会を開催し情報交換の場とした。	4月～3月	12	27
読み聞かせボランティアスキルアップ講座	読み聞かせボランティアと地域で読み聞かせの活動をする人を対象に、さらに高まる地域の要請に応えられるように、プログラムの立て方、他のサークルの活動見学などを内容としたレベルアップを図る講座を実施した。	5月～6月	4	19
市民企画会議「いずみ中山にぎわいプロジェクト」	市民センターが行っているまちづくり、人づくりの取り組みを地域全体に伝えるために、隣接する根白石の「食と農」をテーマに地域住民が気軽に参加できる講座を企画、実施した。	6月～11月	6	25
南中山・北中山小学校社会学級連携事業～地元の食材で味噌作り～	食を通じた健康づくりや、健康的な食習慣を身につける為に、味噌づくりを通して、食の大切さの理解を深める講座を実施した。	2月5日	1	30
市民企画会議「いずみ中山魅力探訪～遊ぶ・学ぶ・食べるかむりの里の仙田野菜」	住民同士の協力、支えあいの意識醸成の為に、地域の新しい魅力の気づきを通して地域理解を深め、住民間の交流を促進することを目的し、「地域に隣接する根白石農業と食」をテーマにした講話や、作物をツールとした学習をしながら、参加者の交流を図る講座を行った。	11月	1	31
まなびねっといずみ中山推進委員会を経て企画する事業	児童の健全育成や地域内交流をめざし、管内2つの小学校の児童と保護者を対象に、地域の団体が、地域資源を活用した自然体験や伝統文化に関する講座を2回実施した。	7月～12月	2	153